昭和63年度　神戸市埋蔵文化財年報

1994

神戸市教育委員会

昭和63年度　神戸市埋蔵文化財年報

1994

神戸市教育委員会

序

昭和63年度の埋蔵文化財調査は、都市再開発事業や、交通網の整備などの開発事業等、民間の共同住宅建設事業等の増加につれ発掘調査件数が大幅に増加しました。

この間、発掘調査体制の充実にも努力しました結果、住吉東古墳の発見をはじめ、垂水・日向遺跡での縄文時代早期の足跡の発見など大きな成果が得られました。

ところで、本市の文化財専門委員を永くつとめて頂き、多くのご指導・ご助言をいただいておりました小林行雄先生が亡くなられたのもこの年度でありました。考古学界の発展に大きく寄与され、多くの功績を残された先生のご冥福をお祈りいたしたいと思います。

本書は、昭和63年度に実施した発掘調査の概要を記したもので、市内で発見された「祖先の遺産」の記録です。市内の遺跡や、その出土遺物を通じて、神戸市の歴史を知っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、御協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝をいたします。

平成６年３月

神戸市教育委員会

例　　言

1．本書は、神戸市教育委員会が昭和63年度に実施した埋蔵文化財事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財専門委員の指導を得て下記の調査組織によって行った。

調査関係者組織表

神戸市文化財専門委員（埋蔵文化財部会委員）

（故）小林　行雄　　京都大学　名誉教授
檀上　重光　　神戸新聞社監査役　神戸市立博物館副館長
宮本長二郎　　奈良国立文化財研究所

教育委員会事務局

教育長　緒方　学
社会教育部長　岡村　二郎
文化財課長　西川　知佑
埋蔵文化財係長　奥田　哲通
文化財課主査　中村　善則
事務担当学芸員　渡辺　伸行・西岡　巧次
調査担当学芸員　丸山　潔
〃　丹治　康明
〃　千種　浩（保存処理担当）
〃　西岡　誠司
〃　山本　雅和
〃　安田　滋
〃　前田　佳久
〃　須藤　宏
〃　佐伯　二郎
〃　山口　英正
〃　東　喜代秀
〃　松林　宏典
嘱託職員　内藤　俊哉
〃　橋詰　清孝
〃　中村　健二

㈶神戸市スポーツ教育公社

理事長　宮岡　寿雄
副理事長　緒方　学
専務理事　垂井　圭司
専務理事　畑岡　瑞夫
常務理事　白石　仁志
総務部長　藤井　浩
総務課長　静観　圭一
文化財調査係長　中村　善則
（文化財課主査兼務）
調査担当学芸員　菅本　宏明
〃　口野　博史
〃　黒田　恭正
〃　谷　正俊
〃　斎木　巌
〃　水島　正稔
〃　池田　毅

2．本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究社会科研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の5万分の1神戸市全図の一部を、また各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の1地形図の一部を使用した。

3．本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆して作成し、山本雅和・東畑幸子の協力を得て丹治康明が編集を行った。

4．表紙写真は、住吉東古墳出土の馬形埴輪（表表紙）、同古墳出土の家形埴輪（裏表紙）である。（撮影：楠華堂　楠本真紀子氏）

目　　次

序
例　言
Ⅰ．昭和63年度事業概要 …… 1
昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表 …… 5
昭和63年度神戸市埋蔵文化財調査地位置図 …… 9

Ⅱ．発掘調査の概要 …… 17
1．神出・東遺跡 …… 17
2．鍋谷池遺跡 …… 29
3．西盛南遺跡 …… 35
4．堅田遺跡 …… 43
5．大畑遺跡 …… 55
6．印路遺跡 …… 61
7．居住遺跡　第8次調査 …… 69
8．出合遺跡　第26次調査 …… 83
9．吉田南遺跡　第17次調査 …… 87
10．上池遺跡 …… 104
11．長谷遺跡 …… 107
12．舞子・東石ケ谷遺跡 …… 117
13．垂水・日向遺跡　第1次調査 …… 121
14．権現町遺跡 …… 131
15．戎町遺跡　第3次調査 …… 135
16．三番町遺跡　第2次調査 …… 151
17．三番町遺跡　第3次調査 …… 159
18．中宮黄金塚古墳 …… 163
19．郡家遺跡御影中町地区　第2次調査 …… 167
20．郡家遺跡御影中町地区　第3次調査 …… 173
21．住吉宮町遺跡　第9次調査 …… 181
22．住吉宮町遺跡　第11次調査 …… 199
23．淡河中村遺跡 …… 205
24．上小名田遺跡 …… 215
25．ショブ谷遺跡・稲荷神社裏山古墳群 …… 227
26．宅原遺跡豊浦・宮ノ元・西豊浦地区 …… 235
27．宅原遺跡岡地区 …… 271

Ⅲ．昭和63年度の保存科学処理 …… 279

挿　図　目　次

fig. 1　調査地位置図 …… 17
fig. 2　第１地点遺構分布図 …… 18
fig. 3　ＳＸ02上層　礫と土器出土状況（北から）〔写真〕 …… 18
fig. 4　ＳＸ03検出状況（東から）〔写真〕 …… 19
fig. 5　第２地点粘土採掘坑平面図 …… 19
fig. 6　第２地点粘土採掘坑群（西から）〔写真〕 20
fig. 7　第４地点４トレンチ配置図 …… 20
fig. 8　第６地点出土瓦拓影 …… 21
fig. 9　第６地点トレンチ２遺構平面図 …… 22
fig. 10　ＳＰ02遺物出土状況図 …… 22
fig. 11　ＳＰ02遺物出土状況（南から）〔写真〕 22
fig. 12　ＳＰ02出土軒平瓦 …… 22
fig. 13　トレンチ４北半遺構平面図 …… 23
fig. 14　粘土採掘坑平面図 …… 24
fig. 15　粘土採掘坑ＳＤ01（東から）〔写真〕 …… 24
fig. 16　粘土採掘坑出土遺物実測図 …… 24
fig. 17　粘土採掘坑出土遺物実測図 …… 25
fig. 18　ＳＤ01遺物出土状況（東から）〔写真〕 25
fig. 19　ＳＤ01遺物出土状況平面図 …… 26
fig. 20　ＳＤ01遺物出土状況（西から）〔写真〕 26
fig. 21　ＳＤ01遺物出土状況（東から）〔写真〕 26
fig. 22　ＳＤ01出土遺物実測図 …… 27
fig. 23　ＳＫ04遺物出土状況（東から）〔写真〕 28
fig. 24　ＳＫ04・11出土遺物実測図 …… 28
fig. 25　調査地位置図 …… 29
fig. 26　遺跡全景（北から）〔写真〕 …… 29
fig. 27　調査地平面図 …… 30
fig. 28　ＳＢ01平面・断面図 …… 31
fig. 29　ＳＢ01完掘状況（北から）〔写真〕 …… 31
fig. 30　ＳＢ01炭化材検出状況（北から）〔写真〕 31
fig. 31　ＳＴ01平面・断面図 …… 32
fig. 32　ＳＴ01甕実測図 …… 32
fig. 33　ＳＴ01（西から）〔写真〕 …… 32
fig. 34　調査地全景（南から）〔写真〕 …… 33
fig. 35　ＳＸ04（南から）〔写真〕 …… 34
fig. 36　調査地位置図 …… 35
fig. 37　調査区全景（北から）〔写真〕 …… 36
fig. 38　１トレンチ遺構平面図 …… 36
fig. 39　ＳＢ01実測図 …… 37
fig. 40　ＳＢ01（東から）〔写真〕 …… 37
fig. 41　ＳＢ02平面図 …… 37
fig. 42　ＳＢ02（南から）〔写真〕 …… 38
fig. 43　ＳＢ01・02（東から）〔写真〕 …… 38
fig. 44　掘立柱建物とＳＴ01平面図 …… 39
fig. 45　ＳＰ05～08・ＳＴ01（西から）〔写真〕 39
fig. 46　ＳＴ01実測図 …… 39
fig. 47　ＳＴ01（北東から）〔写真〕 …… 40
fig. 48　ＳＫ01実測図 …… 40
fig. 49　ＳＫ01（西から）〔写真〕 …… 40
fig. 50　掘立柱建物実測図 …… 41
fig. 51　出土遺物実測図 …… 42
fig. 52　調査地位置図 …… 43
fig. 53　調査地遠景（東から）〔写真〕 …… 43
fig. 54　自然流路（西から）〔写真〕 …… 44
fig. 55　石器実測図 …… 45
fig. 56　縄文・弥生土器実測図 …… 45
fig. 57　ＳＸ01（北から）〔写真〕 …… 46
fig. 58　ＳＸ01平面図 …… 46
fig. 59　ＳＸ01出土遺物実測図 …… 47
fig. 60　ＳＢ01・02（西から）〔写真〕 …… 48
fig. 61　ＳＢ03（東から）〔写真〕 …… 48
fig. 62　Ｂ～Ｅ区遺構平面図 …… 49
fig. 63　ＳＤ01平面図 …… 50
fig. 64　ＳＤ01下層土器出土状況（東から）〔写真〕 …… 50
fig. 65　Ｆ・Ｇ区遺構平面図 …… 50
fig. 66　出土遺物実測図 …… 51
fig. 67　Ｂ区出土遺物実測図 …… 53
fig. 68　Ｃ区全景（東から）〔写真〕 …… 54
fig. 69　調査地位置図 …… 55
fig. 70　調査地全景（東から）〔写真〕 …… 56
fig. 71　トレンチ全景（南から）〔写真〕 …… 56
fig. 72　１トレンチ遺物出土状況（南から）〔写真〕 …… 56
fig. 73　２トレンチ遺物出土状況（北から）〔写真〕 …… 57
fig. 74　遺物実測図(1) …… 58
fig. 75　遺物実測図(2) …… 59
fig. 76　遺物実測図(3) …… 60
fig. 77　調査地位置図 …… 61

fig. 78　1トレンチＳＢ01・02全景（南西から）〔写真〕…… 62
fig. 79　1トレンチ遺構配置図 …… 62
fig. 80　1トレンチＳＤ03遺物出土状況（南東から）〔写真〕…… 63
fig. 81　3トレンチ全景（西から）〔写真〕…… 63
fig. 82　出土遺物実測図 …… 64
fig. 83　8トレンチＳＸ01遺物出土状況 …… 65
fig. 84　8トレンチＳＸ01全景（東から）〔写真〕65
fig. 85　8トレンチＳＸ01弥生土器出土状況（北東から）〔写真〕…… 65
fig. 86　8トレンチＳＸ01出土遺物実測図 …… 66
fig. 87　8トレンチＳＸ01出土遺物拓影 …… 67
fig. 88　14トレンチ全景（北から）〔写真〕…… 68
fig. 89　14トレンチ平面・断面図 …… 68
fig. 90　調査地位置図 …… 69
fig. 91　調査地区設定図 …… 69
fig. 92　第1遺構面遺構配置図 …… 70
fig. 93　3トレンチ第1遺構面全景（東から）〔写真〕…… 70
fig. 94　3トレンチＳＤ03実測図 …… 71
fig. 95　3トレンチＳＤ03全景（北西から）〔写真〕…… 71
fig. 96　3トレンチＳＤ01遺物出土状況（東から）〔写真〕…… 72
fig. 97　出土遺物実測図 …… 72
fig. 98　ＳＤ03出土木製品実測図 …… 73
fig. 99　ＳＤ03出土木製品実測図 …… 74
fig. 100　4トレンチ全景（西から）〔写真〕…… 75
fig. 101　4トレンチＳＤ16遺物出土状況実測図　76
fig. 102　4トレンチＳＤ16西肩須恵器・土師器検出状況（東から）〔写真〕…… 76
fig. 103　5トレンチＳＤ17平面図 …… 76
fig. 104　ＳＤ17出土遺物実測図 …… 76
fig. 105　Ｃ－3区ＳＢ01実測図 …… 77
fig. 106　Ａ・Ｂ・Ｃ－1・2・3区第1遺構面全景（北から）〔写真〕…… 77
fig. 107　Ｃ－3区拡張区（南東から）〔写真〕…… 77
fig. 108　Ｃ－4区全景（ＳＸ08上層）（東から）〔写真〕…… 78
fig. 109　Ｃ－4区（ＳＸ08下層）遺物検出状況（南から）〔写真〕…… 78
fig. 110　ＳＸ08出土遺物実測図 …… 79
fig. 111　第2遺構面遺構配置図 …… 80
fig. 112　第3遺構面遺構配置図 …… 81
fig. 113　弥生時代前期の遺物拓影 …… 81
fig. 114　弥生時代前期の遺物実測図 …… 81
fig. 115　調査地位置図 …… 83
fig. 116　土坑検出状況（南から）〔写真〕…… 84
fig. 117　水田遺構検出状況（北から）〔写真〕…… 84
fig. 118　出土遺物実測図 …… 86
fig. 119　調査地位置図 …… 87
fig. 120　北地区第1遺構面平面図 …… 88
fig. 121　北地区第1遺構面全景（南から）〔写真〕89
fig. 122　ＳＢ01全景（西から）〔写真〕…… 89
fig. 123　ＳＢ03全景（西から）〔写真〕…… 90
fig. 124　北地区第2遺構面平面図 …… 91
fig. 125　北地区ＳＢ14遺構実測図 …… 92
fig. 126　ＳＢ14炭化材検出状況（北から）〔写真〕92
fig. 127　ＳＢ14～18検出状況（西から）〔写真〕　93
fig. 128　北地区第2遺構面全景（西から）〔写真〕94
fig. 129　北地区第3遺構面平面図 …… 95
fig. 130　第2遺構面遺構全体図 …… 96
fig. 131　西地区第2遺構面平面図 …… 97
fig. 132　ＳＢ07出土異形土器実測図 …… 98
fig. 133　西地区第2遺構面下層全景（北から）〔写真〕…… 98
fig. 134　西地区ＳＢ07遺構平面図 …… 99
fig. 135　第3遺構面遺構全体図 …… 100
fig. 136　第1遺構面遺構全体図 …… 101
fig. 137　北地区第1遺構面全景（北から）〔写真〕103
fig. 138　北地区第2遺構面全景（西から）〔写真〕103
fig. 139　北地区第3遺構面全景（西から）〔写真〕103
fig. 140　調査地位置図 …… 104
fig. 141　調査地全景（南から）〔写真〕…… 105
fig. 142　調査区平面図 …… 105
fig. 143　遺物実測図 …… 106
fig. 144　調査地位置図 …… 107
fig. 145　第1遺構面全景（南から）〔写真〕…… 108
fig. 146　第2遺構面全景（北から）〔写真〕…… 108
fig. 147　Ａトレンチ第1・2遺構面平面図 …… 108
fig. 148　Ｂトレンチ第1・2遺構面平面図 …… 109
fig. 149　Ｂトレンチ第2遺構面全景（東から）〔写真〕…… 110
fig. 150　Ｃトレンチ第1遺構面5区・6区 …… 110
fig. 151　Ｃトレンチ第1遺構面1区・2区 …… 110
fig. 152　Ｃ－Ｂ区第1遺構面全景（西から）〔写真〕…… 111

fig. 153　Ｃトレンチ第１・２遺構面３区・４区　111
fig. 154　Ｃ－１区ＳＫ01遺物出土状況〔写真〕　112
fig. 155　ＳＫ01平面・断面図　112
fig. 156　ＳＫ01遺物実測図　113
fig. 157　ＳＫ01鋳型実測図　113
fig. 158　Ｃ－３区ＳＤ08検出状況（東から）〔写真〕　114
fig. 159　Ｃ－３区ＳＤ08土器出土状況（東から）〔写真〕　114
fig. 160　遺物実測図　115
fig. 161　調査地位置図　117
fig. 162　調査区平面図　118
fig. 163　ＳＢ05平面・断面図　119
fig. 164　調査地位置図　121
fig. 165　Ｃ地区東半部耕作痕（南から）〔写真〕　122
fig. 166　平安～鎌倉時代遺構配置図　123
fig. 167　Ａ地区掘立柱建物配置図　124
fig. 168　平安～鎌倉時代の遺構（俯瞰）〔写真〕　125
fig. 169　Ｂ地区掘立柱建物配置図　125
fig. 170　Ａ地区湿地状地形（南から）〔写真〕　126
fig. 171　Ａ地区自然堤防付近足跡検出状況（西から）〔写真〕　126
fig. 172　Ａ地区ＳＫ05遺物出土状況（南から）〔写真〕　127
fig. 173　Ａ地区自然流路内遺物出土状況（西から）〔写真〕　127
fig. 174　Ａ地区木材化石出土状況（東から）〔写真〕　128
fig. 175　Ｂ地区人間の足跡検出状況（南東から）〔写真〕　128
fig. 176　足跡検出状況平面図　129
fig. 177　Ａ地区木材化石発見状況（南から）〔写真〕　130
fig. 178　調査地位置図　131
fig. 179　調査区平面図　132
fig. 180　第10トレンチ（西から）〔写真〕　133
fig. 181　第３トレンチ（南から）〔写真〕　133
fig. 182　遺物実測図　134
fig. 183　調査地位置図　135
fig. 184　第１遺構面ＳＸ01平面図　136
fig. 185　ＳＸ01出土遺物実測図(1)　137
fig. 186　ＳＸ01出土遺物実測図(2)　138
fig. 187　第１遺構面ＳＸ01全景（南東から）〔写真〕　139
fig. 188　第１遺構面ＳＸ01生駒西麗産の土器出土状況（南から）〔写真〕　139
fig. 189　第２遺構面平面図　140
fig. 190　第２遺構面全景（南東から）〔写真〕　141
fig. 191　第２遺構面出土遺物実測図　142
fig. 192　第２遺構面ＳＢ01全景（南東から）〔写真〕　143
fig. 193　第２遺構面ＳＢ02全景（南東から）〔写真〕　143
fig. 194　第３遺構面平面図　144
fig. 195　第３遺構面全景（南東から）〔写真〕　145
fig. 196　第３遺構面ＳＢ03全景（南東から）〔写真〕　145
fig. 197　弥生時代中期の遺物実測図　146
fig. 198　第４遺構面平面図　147
fig. 199　ＳＫ23近景（北東から）〔写真〕　148
fig. 200　ＳＫ24・28近景（西から）〔写真〕　148
fig. 201　Ｂ－５区土層断面　149
fig. 202　縄文時代晩期の遺物実測図　149
fig. 203　調査地全景（南から）〔写真〕　151
fig. 204　調査地位置図　151
fig. 205　遺物実測図（中世遺物包含層）　152
fig. 206　第１遺構面調査区平面図　153
fig. 207　ＳＤ01～08検出状況〔写真〕　153
fig. 208　畦畔及び足跡検出状況〔写真〕　153
fig. 209　第２遺構面調査区平面図　154
fig. 210　遺物実測図（第２遺構面）　154
fig. 211　第３遺構面調査区平面図　155
fig. 212　流路検出状況（南から）〔写真〕　156
fig. 213　遺物実測図（第３遺構面）　157
fig. 214　第４遺構面調査区平面図　157
fig. 215　調査地全景（東から）〔写真〕　158
fig. 216　調査地位置図　159
fig. 217　中世遺構平面図　160
fig. 218　ＳＢ01・03（南から）〔写真〕　160
fig. 219　遺物実測図　161
fig. 220　古墳時代遺構検出状況（南から）〔写真〕162
fig. 221　ＳＢ02・03（西から）〔写真〕　162
fig. 222　古墳時代遺構平面図　162
fig. 223　調査地位置図　163
fig. 224　トレンチ平面図　164
fig. 225　Ｉトレンチ全景（南から）〔写真〕　165
fig. 226　玄門部（南東から）〔写真〕　165
fig. 227　羨道床面遺物出土状況　166

fig. 228　出土遺物実測図 …… 166
fig. 229　遺物出土状況〔写真〕 …… 166
fig. 230　調査地位置図 …… 167
fig. 231　第１～２遺構面西半部（東から）〔写真〕168
fig. 232　第１～２遺構面東半部（西から）〔写真〕168
fig. 233　第１～２遺構面平面図 …… 169
fig. 234　第２遺構面ＳＸ06（北から）〔写真〕 …… 169
fig. 235　出土遺物実測図 …… 170
fig. 236　第２遺構面ＳＸ05（西から）〔写真〕 …… 170
fig. 237　第２遺構面ＳＸ05遺物出土状況〔写真〕170
fig. 238　ＳＸ05出土滑石製品 …… 171
fig. 239　ＳＸ05実測図 …… 171
fig. 240　第３遺構面東半部（西から）〔写真〕 …… 172
fig. 241　第４遺構面平面図 …… 172
fig. 242　調査地位置図 …… 173
fig. 243　第１遺構面遺構配置図 …… 174
fig. 244　稲株痕検出状況（東から）〔写真〕 …… 175
fig. 245　第１遺構面水田畦畔検出状況（南から）〔写真〕 …… 175
fig. 246　第３遺構面全景（西から）〔写真〕 …… 177
fig. 247　第５遺構面遺構配置図 …… 178
fig. 248　押型文土器拓影 …… 179
fig. 249　第５遺構面全景（南から）〔写真〕 …… 179
fig. 250　調査地位置図 …… 181
fig. 251　奈良時代遺構平面図 …… 182
fig. 252　奈良時代掘立柱建物（南から）〔写真〕 183
fig. 253　住吉東古墳全景（南西から）〔写真〕 …… 183
fig. 254　住吉東古墳平面図 …… 194
fig. 255　埴輪出土状況（南側斜面）（南から）〔写真〕 …… 185
fig. 256　埴輪配置状況（復元）（南東から）〔写真〕 …… 185
fig. 257　喪屋遺構平面図 …… 186
fig. 258　喪屋遺構と地割溝（上空クレーンから）〔写真〕 …… 187
fig. 259　地割溝遺物出土状況（東から）〔写真〕 188
fig. 260　住吉東古墳出土遺物実測図 …… 189
fig. 261　住吉東古墳出土の埴輪実測図 …… 190
fig. 262　２号墳全景（南から）〔写真〕 …… 191
fig. 263　２号墳周溝内須恵器実測図 …… 191
fig. 264　調査区全景（南から）〔写真〕 …… 192
fig. 265　古墳時代遺構平面図 …… 193
fig. 266　２号墳と上層の竪穴住居群（北から）〔写真〕 …… 194
fig. 267　竪穴住居群遺構平面図 …… 195
fig. 268　Ⅱトレンチ平安時代掘立柱建物（南から）〔写真〕 …… 196
fig. 269　Ⅱトレンチ全景（南から）〔写真〕 …… 197
fig. 270　調査地位置図 …… 199
fig. 271　第２遺構面ＳＢ01－１（東から）〔写真〕200
fig. 272　第３遺構面ＳＢ03（東から）〔写真〕 …… 201
fig. 273　第３遺構面地鎮遺構ＳＸ01（北から）〔写真〕 …… 201
fig. 274　第４遺構面ＳＢ06－１・２（北から）〔写真〕 …… 202
fig. 275　第５遺構面全景（南から）〔写真〕 …… 203
fig. 276　第５遺構面ＳＢ07（東から）〔写真〕 …… 203
fig. 277　第５遺構面ＳＢ10（北から）〔写真〕 …… 203
fig. 278　噴砂遺構断面・平面（北から）〔写真〕 204
fig. 279　調査地位置図 …… 205
fig. 280　ＳＥ01・02（東から）〔写真〕 …… 206
fig. 281　ＳＥ01埋没状況（東から）〔写真〕 …… 207
fig. 282　ＳＥ01・02実測図 …… 208
fig. 283　ＳＥ02遺物出土状況（西から）〔写真〕 209
fig. 284　井戸内出土木製品実測図 …… 209
fig. 285　遺物実測図 …… 210
fig. 286　ＳＢ02全景（東から）〔写真〕 …… 211
fig. 287　Ａ・Ｂ地区遺構図 …… 211
fig. 288　ＳＥ01・02近景（南から）〔写真〕 …… 211
fig. 289　ＳＢ01・02実測図 …… 212
fig. 290　ＳＢ02全景（北から）〔写真〕 …… 213
fig. 291　ＳＢ01・02全景（東から）〔写真〕 …… 213
fig. 292　調査地位置図 …… 215
fig. 293　Ⅵ区遺構面平面図 …… 216
fig. 294　Ⅵ区全景（西から）〔空中写真〕 …… 217
fig. 295　Ⅵ区主要遺構配置図 …… 218
fig. 296　Ⅵ区中央部（北から）〔写真〕 …… 219
fig. 297　ＳＢ16・17・18（南から）〔写真〕 …… 219
fig. 298　ＳＫ607平面・立面図 …… 220
fig. 299　ＳＫ617土器出土状況（南から）〔写真〕221
fig. 300　ＳＫ617平面・立面図 …… 221
fig. 301　ＳＫ636全景（北から）〔写真〕 …… 222
fig. 302　ＳＫ636平面・立面図 …… 222
fig. 303　ＳＫ625近景（東から）〔写真〕 …… 223
fig. 304　ＳＫ625平面・立面図 …… 223
fig. 305　ＳＫ601（西半）（東から）〔写真〕 …… 224
fig. 306　Ⅸ区ＳＢ14（南から）〔写真〕 …… 224
fig. 307　Ⅸ区ＳＴ01蓋板除去後（西から）〔写真〕225

fig. 308　ＳＴ01平面・立面図 …… 225
fig. 309　遺物包含層出土遺物実測図 …… 226
fig. 310　調査地位置図 …… 227
fig. 311　１号墳（東から）〔写真〕 …… 228
fig. 312　６トレンチ古墳時代集石（東から）〔写真〕 …… 229
fig. 313　２トレンチＤ区中世集石墓群〔写真〕 …… 230
fig. 314　遺構測量図 …… 231
fig. 315　調査地位置図 …… 232
fig. 316　第２地点測量図 …… 233
fig. 317　宅原遺跡群位置図 …… 235
fig. 318　宮ノ元地区トレンチ配置図 …… 236
fig. 319　１トレンチＳＸ05出土遺物実測図 …… 236
fig. 320　１トレンチ遺構配置図 …… 236
fig. 321　１トレンチＳＸ05出土遺物実測図 …… 237
fig. 322　トレンチ全景（東から）〔写真〕 …… 237
fig. 323　１トレンチＳＸ01出土遺物実測図 …… 238
fig. 324　１トレンチＳＫ01・04出土遺物実測図 …… 238
fig. 325　１トレンチ中世遺構出土遺物実測図 …… 239
fig. 326　１トレンチ西半遺構群（東から）〔写真〕 …… 239
fig. 327　豊浦地区トレンチ配置図 …… 240
fig. 328　１トレンチ遺構配置図 …… 241
fig. 329　１トレンチ全景（東から）〔写真〕 …… 241
fig. 330　１トレンチＳＢ01焼失状況図 …… 242
fig. 331　１トレンチＳＢ01焼失状況（南東から）〔写真〕 …… 242
fig. 332　１トレンチＳＢ01完掘状況（南東から）〔写真〕 …… 242
fig. 333　１トレンチＳＢ02・03平面図 …… 243
fig. 334　１トレンチＳＴ01平面・立面図 …… 243
fig. 335　ＳＴ01近景（西から）〔写真〕 …… 243
fig. 336　ＳＴ01出土遺物実測図 …… 243
fig. 337　２トレンチ古墳時代・中世前半期遺構配置図 …… 244
fig. 338　１・２トレンチ全景（南西から）〔写真〕 …… 244
fig. 339　２トレンチＳＢ301平面図 …… 245
fig. 340　２トレンチＳＢ301出土遺物実測図 …… 245
fig. 341　２トレンチＳＢ301遺構出土状況（北から）〔写真〕 …… 246
fig. 342　２トレンチＳＸ301～303出土遺物実測図 …… 246
fig. 343　２トレンチ中世末期遺構配置図 …… 247
fig. 344　２トレンチＳＢ101平面図 …… 248
fig. 345　２トレンチＳＢ102～104平面図 …… 248
fig. 346　２トレンチ中世末期遺構内遺物実測図 …… 249
fig. 347　２トレンチＳＫ101礫出土状況 …… 249
fig. 348　２～４トレンチ遺物包含層出土遺物実測図 …… 249
fig. 349　３・４トレンチ遺構配置図 …… 250
fig. 350　３・４トレンチ遺物包含層出土遺物拓影 …… 250
fig. 351　６トレンチＳＤ02出土遺物実測図 …… 251
fig .352　６トレンチＳＤ02出土皮袋形提瓶 …… 251
fig. 353　10トレンチＳＴ01平面・立面図 …… 251
fig. 354　ＳＴ01出土遺物実測図 …… 251
fig. 355　９トレンチ遺構平面図 …… 252
fig. 356　９トレンチＳＸ01遺物出土状況図 …… 253
fig. 357　ＳＸ01出土遺物実測図 …… 253
fig. 358　ＳＢ05平面・断面図 …… 254
fig. 359　ＳＢ06平面・断面図 …… 254
fig. 360　12トレンチ遺構配置図 …… 255
fig. 361　ＳＢ07平面・断面図 …… 256
fig. 362　12トレンチＳＢ05・06・07（北から）〔写真〕 …… 256
fig. 363　ＳＢ08平面・断面図 …… 256
fig. 364　ＳＢ04平面・断面図 …… 257
fig. 365　12トレンチＳＤ03～06（西から）〔写真〕 …… 257
fig. 366　ＳＢ02平面・断面図 …… 258
fig. 367　ＳＢ01平面・断面図 …… 259
fig. 368　西豊浦地区トレンチ配置図 …… 260
fig. 369　２トレンチＳＫ01出土遺物実測図 …… 261
fig. 370　２トレンチＳＫ01平面・断面図 …… 261
fig. 371　５・６トレンチ第４遺構面平面図 …… 262
fig. 372　６トレンチＡ区第１・２・４遺構面遺構配置図 …… 263
fig. 373　５・６トレンチＳＤ01出土遺物実測図 …… 264
fig. 374　６トレンチＳＤ01杭列（北西から）〔写真〕 …… 265
fig. 375　６トレンチ自然流路２出土遺物実測図 …… 266
fig. 376　６トレンチ自然流路１出土遺物実測図 …… 266
fig. 377　６トレンチＳＰ13遺物出土状況 …… 267
fig. 378　調査地位置図 …… 271
fig. 379　遺構検出状況（北から）〔写真〕 …… 271
fig. 380　出土遺構平面図 …… 272
fig. 381　ＳＤ03・04検出状況（南から）〔写真〕 …… 273
fig. 382　遺物包含層出土遺物実測図 …… 274

fig. 383　溝出土遺物実測図 …… 275
fig. 384　遺構出土遺物実測図(1) …… 276
fig. 385　遺構出土遺物実測図(2) …… 277
fig. 386　墳砂平断面一括転写（住吉宮町遺跡）〔写真〕 …… 280
fig. 387　木棺が乾かないようにＰＥＧ水溶液を塗る（上小名田遺跡） …… 280
fig. 388　左半分が剝がし取った木棺の痕跡（上小名田遺跡） …… 280
fig. 389　足跡平面転写を巻き取って剝がし取る（垂水・日向遺跡） …… 280
fig. 390　足跡平面型取り　右半分が型取り部分（垂水・日向遺跡） …… 280
fig. 391　切り取る範囲以外を掘り下げる（西神第55地点２号墳） …… 281
fig. 392　発泡ウレタンと鋼材で全体を梱包する（西神第55地点２号墳） …… 281
fig. 393　クレーン車で吊り上げる重さ約13トン（西神第55地点２号墳） …… 281
fig. 394　トレーラーに積込東方約 200 ｍの移設地へ向かう（西神第55地点２号墳） …… 281
fig. 395　移設地に穴を掘り、元の方位に合わせて据えつけ、コンクリートで固める。発泡ウレタンの表面にＦＲＰ（合成樹脂とガラス繊維）を吹きつける（西神第55地点２号墳） …… 282
fig. 396　埋め込んだ本体の上に土を盛り、新たに墳丘をつくる。頂部に木棺の復元模型を置く（西神第55地点２号墳） …… 282
fig. 397　本物の型をもとに墓壙を復元し、棺の痕跡から合成樹脂で棺を復元し、遺物も合成樹脂で復元している（西神第55地点２号墳） …… 282
fig. 398　墳丘には一か所に階段を設け、その横には説明板を置いている（西神第55地点２号墳） …… 282
fig. 399　保存処理前の状態（住吉東古墳出土鉄鏃群） …… 284
fig. 400　Ｘ線透過写真 110KV-5mA-3min（住吉東古墳出土鉄鏃群） …… 284

Ⅰ．昭和63年度事業概要

1．普及啓発事業

史跡五色塚古墳の公開

史跡五色塚古墳（垂水区五色山4丁目）は、復元整備された前方後円墳として、年間を通じ、無料公開している。昭和63年度は小学校等団体23,786名、個人28,153名、計51,939名の見学者があった。

文化財保護強調月間の催し

大歳山遺跡公園（垂水区西舞子4丁目）では、11月1日から11月7日までの期間、復元竪穴住居の内部の公開とともに、古代人の生活の一部を実際に体験できるよう、火おこし・脱穀等を行った。

「地下に眠る神戸の歴史展Ⅵ－古墳時代の造形－」

例年、11月1日から30日までは、市立旧考古館において、最近の発掘調査で発見された資料を、いち早く知っていただくために、特別展示「地下に眠る神戸の歴史展」を開催している。本年は、特に古墳時代の埴輪や土器など、古代人の造形品に焦点を当てるとともに、近年の発掘調査の成果を広く公開した。

五色塚古墳展示室「住吉東古墳の埴輪たち」の開催

昭和63年度の住吉宮町遺跡の発掘調査で、円筒埴輪や人物・馬形等の形象埴輪が出土した、住吉東古墳が発見された。

市内での大きな発見であったため、これらの出土品を展示した。

地域活動への参加

市内各地の公民館、学校では、様々な地域・文化活動が行われているが、各地域の歴史を地元の方々に知っていただくために、周辺の遺跡の出土遺物や写真パネルの展示会を開催している。今年度は以下の場所で行った。

		開催場所	展示会名
(1)	西　区	玉津町南公民館	「西神ニュータウンの今・昔」 西神ニュータウンの開発に伴う調査で出土した遺物の展示
(2)	北　区	長尾町公民館	「長尾昔物語展」 長尾地区での圃場整備に伴う調査で出土した遺物の展示
(3)	中央区	葺合公民館	「雲井遺跡展」 雲井遺跡の発掘調査で出土した縄文土器や弥生土器の展示
(4)	中央区	サンパル内	「住吉東古墳展」 住吉東古墳の馬形埴輪や円筒埴輪を中心に展示
(5)	須磨区	須磨区民センター	「古からのメッセージ」 須磨区内の遺跡から出土した土器等を集めて展示

現地説明会の開催

発掘調査の状況や成果を市民の方々に知っていただくために、下記のとおり現地説明会を開催し、多くの見学者の参加を得た。

番号	遺跡名	開催年月日	参加者数
1.	住吉宮町遺跡	昭和63年 5 月29日	約1,300名
2.	垂水・日向遺跡	昭和63年 6 月26日	約1,500名
3.	住吉宮町遺跡	昭和63年 8 月 7 日	約 750名
4.	上小名田遺跡	昭和63年 8 月14日	約 120名
5.	郡家遺跡	昭和63年 9 月 4 日	約 600名
6.	宅原遺跡	昭和63年 9 月11日	約 80名
7.	舞子・東石ヶ谷遺跡	昭和63年11月27日	約 350名
8.	大開遺跡	昭和63年12月18日	約 400名

刊 行 物

昭和63年度の埋蔵文化財関係の刊行物は以下の5点である。

1. 昭和61年度　埋蔵文化財年報　頒価2,000円
2. 昭和61年度　現地説明会資料　頒価 300円
3. 日暮遺跡発掘調査報告書　頒価1,300円
4. 戎町遺跡第1次発掘調査概報　頒価1,500円
5. 地下に眠る神戸の歴史展Ⅵ　頒価 100円

2. 文化財調査事業

平成2年度埋蔵文化財試掘調査および緊急発掘調査状況

	試掘調査件数	緊急発掘調査件数	緊急発掘調査面積
東灘区	56	9	約7,300㎡
灘区	22	2	600㎡
中央区	11	1	30㎡
兵庫区	11	2	2,200㎡
長田区	23	5	2,200㎡
須磨区	12	2	500㎡
垂水区	18	5	7,500㎡
西区	51	21	19,170㎡
北区	20	14	16,500㎡
合計	224件	61件	約56,000㎡

当市における今年度の埋蔵文化財発掘調査件数は94件となり、昨年より9件の増加である。このうち、当教育委員会及び神戸市スポーツ教育公社では61件の埋蔵文化財調査事業を行った。昭和63年度の埋蔵文化財発掘調査に要した経費は7億5千8百万円、調査面積は約56,000㎡であった。

また、開発計画の際に提出される遺跡分布調査依頼件数は296件（開発行為の事前審査、ゴルフ場開発、土地利用目的審査を含む）と前年度より164件の減少であるが、それに基づく試掘調査件数は224件（前年度比33件増）と急激に増加した。これは、開発の計画の段階から、実施の段階に移り変わった為に生じたものと理解される。バブル景気と称された土地に対する投資機的な関心がピークを迎えようとする時期であった。

これらの調査を地域別に見ると、発掘調査は宅地造成と圃場整備事業が重なって実施された西・北区で半数以上を占めた。旧市街地での発掘調査原因の多くは、再開発事業やマンション建設事業に伴うものであった。

試掘調査の半数以上は、旧市街地でのもので、特に阪神間に位置する東灘・灘の2区で集中する傾向が認められ、今後の発掘調査の増加を予見させる。

遺構遺物の科学的保存業務

また、科学的保存業務によって、遺物の保存および遺構の切り取り等の作業をさらに押し進めた。

3. 市内の遺跡の発掘調査の概要

市内の調査では、年々縄文時代の遺構・遺物の発見が増加しつつある。今年度は垂水・日向遺跡で、アカホヤ火山灰の下の湿地に残された縄文人の足跡が発見された。我が国最古の足跡の発見である。また、縄文時代後期頃の流路が検出され、土器片のほか大量の自然木が発見された。当時の植生等の自然環境を知るための貴重な資料といえる。

縄文時代

また、郡家遺跡御影中町地区の調査では、高山寺式の押形文土器が土坑から発見され、堅田遺跡では自然流路の中から宮滝式の土器が発見された。付近に当時の集落の発見が予想される。

弥生時代

弥生時代でも重要な発見があった。大開遺跡では、近畿地方最古の環濠集落が発見された。土器も一括資料としては畿内で現在知られる、最も古い段階のものと考えられる。縄文系の突帯文土器も出土しており、遠賀川式土器の伝播の時期や、当時の社会変化を考える上に貴重な資料となろう。

戎町遺跡では、弥生時代前期後半の遺構が今年も発見された。周辺一帯に当時の集落が広がるようである。また、中期以降は引き続き居住地域となるようで、上層では竪穴住居等も発見された。その後、古墳時代まで遺跡は継続しており、竪穴住居などが発見された。

東石ヶ谷遺跡では、中期から後期にかけての高地性集落が発見された。遺跡は明石海峡を望む見晴らしの良い場所に立地している。また、竪穴住居・

掘立柱建物の双方が存在し、建物の用途と形態について考えるための重要な資料の提供である。

古墳時代

吉田南遺跡では弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居22棟・古墳時代前期の掘立柱建物1棟が発見された。小規模な調査であったが、複数の遺構面で複雑に切り合って発見された竪穴住居群は、人口密度の高さを物語っている。異形土器など出土遺物にも注目されるものも多い。

淡河中村遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居2棟が発見された。山間部の小盆地に位置する地域でこのような遺構が発見されたことは、未だ確認されていない遺跡の発見が、今後も増加することを予見させる。

住吉宮町遺跡（第9次）では、また洪水に埋もれた古墳が発見された。4基の古墳の内、1基は全長24ｍの帆立貝式古墳で、住吉東古墳と故小林行雄博士によって命名された。墳丘の断ち割り調査の段階で発見された掘立柱建物は葬送儀礼と密接に関連する遺構と考えられる。また、古墳の周辺には多くの同時期の竪穴住居が発見されている。多くの遺構・遺物は古墳時代後期の研究の上で多くの問題点を提供した。

中宮黄金塚古墳は、大正時代の発掘調査で豊富な副葬品が出土した古墳であったが、市街化の際に消滅したものと考えられていた。今回の調査では石室の保存状態がよく、石室の規模や築造の時期をしる手掛かりが得られた。

歴史時代

上小名田遺跡の調査では、今年度も多くの掘立柱建物が発見された。平安時代中頃の四面廂の建物や平安時代後期の大規模な建物の存在は、一般の集落と異なった様相を示している。また、緑釉の香炉や石帯などの出土遺物からも、この建物群が有力者の居館であった可能性は高いと考えられる。

垂水・日向遺跡では、平安時代後期から鎌倉時代にかけての、15棟の掘立柱建物が発見された。建物は同一軸の方向性で、南北2群に分かれる。その間の部分には、遺構の分布の希薄な空間が認められた。各々が塀などで囲まれた屋敷地を想定させるものである。また、立地や出土遺物から漁労と密接に関係する遺跡と考えられる。

長谷遺跡では、中世の鋳造遺構が発見され、石製の鋳型が出土した。鋳型は破損し小片であるため、何をつくる鋳型かは不明である。

昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表 (1)

番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
1	神出地区圃場整備事業	神出遺跡	西区神出町	神戸市教育委員会	2,130㎡	63.10.11～01.02.23	鎌倉初頭の粘土採掘坑・掘立柱建物・灰原・溝	須藤　宏
					1,600㎡	63.06.20～63.07.15	試掘、磁気探、中世窯跡	富山直人
2	栄・小幡地区圃場整備工場	栄遺跡	西区押部谷町栄	神戸市教育委員会	100㎡	63.05.09～63.05.10	試掘調査、遺構なし、少量の遺物	須藤　宏
				(財)神戸市スポーツ教育公社	24㎡	63.07.11	試掘調査、少量の遺物、時期不明	口野博史
				神戸市教育委員会	60㎡	63.08.03 63.09.28	試掘調査、流土内中世遺物	西岡誠司 富山直人
3	押部地区圃場整備事業	押部遺跡	西区押部町押部	神戸市教育委員会	22㎡	63.07.16	試掘調査、中世ピット	富山直人
4	西盛南地区圃場整備事業	西盛南遺跡	西区押部町西盛	神戸市教育委員会	64㎡	63.06.16～63.06.18	試掘調査	富山直人
					34㎡	63.11.30～63.12.01	古墳時代中期、中世の遺物包含層、古墳時代後期の竪穴住居	山本雅和
					200㎡	63.11.17～63.11.29	古墳時代後期の竪穴住居	山本雅和
5	西神墓園建設事業	鍋谷池遺跡	西区平野町黒田	(財)神戸市スポーツ教育公社	1,600㎡ 3,000㎡	63.04.11～63.06.30 63.07.01～63.08.25	弥生時代中期後半の焼土坑 弥生中期の円形竪穴住居・甕棺	黒田恭正
				神戸市教育委員会	100㎡	01.01.18～01.01.25	試掘調査	丹治康明
6	西神N，T内及び関連事業	堅田遺跡他	西区平野町堅田他	神戸市教育委員会	4,000㎡	63.06.01～01.01.28	縄文晩期～弥生中期の溝、古墳後期の掘立柱建物、奈良後半の溝・土坑他、鎌倉時代の掘立柱建物	山口英正 中村健二
7	西神22号線建設工事	養田遺跡	西区押部谷町養田	神戸市教育委員会	180㎡	01.01.17～01.01.31	縄文晩期、中世	東喜代秀
8	養田地区圃場整備事業	養田遺跡	西区押部谷町養田	神戸市教育委員会	90㎡	63.12.05～63.12.13 01.01.25～01.01.29	中世の土坑・ピット	富山直人
					150㎡	63.12.05～63.12.17	試掘調査、中世の遺物包含層	富山直人
9	宮前地区圃場整備事業	大畑遺跡	西区平野町宮前	神戸市教育委員会	200㎡	63.04.27～63.05.17 63.11.25～63.12.01	弥生時代後期～中世の溝	富山直人
					150㎡	63.05.18～63.06.15	弥生時代後期～中世の溝・ピット	富山直人
10	印路地区圃場整備事業	印路遺跡	西区平野町印路	神戸市教育委員会	316㎡	63.05.09～63.05.17 63.11.09～63.11.12	試掘調査、古墳時代・12～13世紀の遺物包含層	山本雅和 佐伯二郎
					754㎡	63.05.23～63.07.02 63.11.04～63.11.08	弥生時代前期の土坑、古墳時代後期の竪穴住居、中世遺物包含層	山本雅和 佐伯二郎
11	倉庫建設	居住遺跡　第8次調査	西区玉津町小山字川端	神戸市教育委員会	140㎡	63.12.05～01.03.15	弥生前期の溝、弥生後期～古墳後期の溝、平安後半～鎌倉の溝・掘立柱建物	山本雅和 富山直人 佐伯二郎
12	明石・国包線建設事業	出合遺跡　第28次調査	西区平野町中津	神戸市教育委員会	840㎡	01.01.23～01.03.31	中世以前の水田・中世以降の土坑	黒田恭正
13	自然崩壊に対する保護措置	枝吉城	西区玉津町枝吉4丁目	神戸市教育委員会	60㎡	01.01.06～01.01.17	14～15世紀の城跡、土塁、ピット	富山直人
14	玉津環境センター増設事業	吉田南遺跡　第17次調査	西区森友1丁目	神戸市教育委員会	852㎡	63.09.19～63.12.15	弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居・掘立柱建物・土坑・ピット	西岡　誠、黒田、山本須藤、東、斎木
15	都市計画道路明石・木見線拡幅工事	上池遺跡	西区玉津町上池	(財)神戸市スポーツ教育公社	250㎡	01.01.17～01.03.10	平安時代後期の河道、奈良時代後期～平安時代末葉の遺物包含層	西岡誠司 富山直人 池田　毅
16	変電所管理棟増築・ケーブル設置工事	吉田南遺跡　第16次調査	西区森友1丁目	神戸市教育委員会	420㎡	63.07.11～63.09.14	平安時代後期～鎌倉時代前半の遺物包含層	山本雅和
17	東河原地区区画整理事業	新方遺跡	西区玉津町東河原	神戸市教育委員会	60㎡	01.01.12～01.01.14	弥生時代～中世の遺物包含層	丹治康明 東喜代秀
18	水谷地区区画整理事業	水谷遺跡	西区玉津町水谷	神戸市教育委員会	28㎡	01.01.11	試掘調査、ピット2基	丹治康明
19	二ッ屋地区区画整理事業	二ッ屋遺跡	西区玉津町二ッ屋	神戸市教育委員会	60㎡	01.01.09～01.01.11	試掘調査、中世遺物包含層	丹治康明 東喜代秀
20	栃木地区圃場整備事業	如意寺遺跡	西区櫨谷町谷口字真谷中	(財)神戸市スポーツ教育公社	60㎡	01.01.17～01.01.26	室町時代の落ち込み状遺構	口野博史 水嶋正稔
		栃木・谷口遺跡	西区櫨谷町栃木字赤田井	(財)神戸市スポーツ教育公社	170㎡	01.01.24～01.02.03	弥生中期の溝・ピット、中世の土坑・溝、近世の落ち込み状遺構	口野博史 水嶋正稔
21	櫨谷中地区圃場整備事業	櫨谷中遺跡	西区櫨谷町長谷	神戸市教育委員会	130㎡	63.04.14～63.04.21	試掘調査、弥生～中世包含層	口野博史
				(財)神戸市スポーツ教育公社	122㎡	63.07.16～63.07.26	弥生後期の溝・落ち込み、中世のピット	口野博史 水嶋正稔
				(財)神戸市スポーツ教育公社	200㎡	63.07.26～63.07.30 63.12.07～01.01.13	中世のピット群・土坑・鋳型片、弥生時代中期～後期の溝	口野博史 水嶋正稔
22	狩口住宅街区整備事業	狩口台遺跡	垂水区狩口台7丁目	(財)神戸市スポーツ教育公社	639㎡	63.04.06～63.04.26	試掘調査	口野博史
					354㎡	01.03.22～01.03.31	きつね塚周溝、弥生時代の土坑、ピット竪穴住居6棟	菅本宏明 松林宏典
23	保存のための遺跡範囲確認	舞子古墳群舞子台支群	垂水区舞子陵	神戸市教育委員会	80㎡	63.12.20～01.01.15	古墳6基の周溝確認	丹治康明 東喜代秀
24	マンション建設	舞子・東石ケ谷遺跡	垂水区舞子坂3丁目	神戸市教育委員会	2,600㎡	63.08.29～63.11.28	弥生中期の竪穴住居4棟、弥生後期の竪穴住居4棟、弥生中・後期の掘立柱建物	丸山　潔 松林宏典
25	マンション建設	五色塚古墳	垂水区五色山3丁目	神戸市教育委員会	100㎡	01.01.26～01.02.02	五色塚古墳の周溝	丹治康明

昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表 (2)

番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
26	垂水駅東地区第二種市街地再開発事業	垂水・日向遺跡　第1次調査	垂水区日向1丁目	(財)神戸市スポーツ教育公社	3,700㎡	63.04.01～01.02.20	縄文流木・足跡、弥生～古墳自然流路、平安・鎌倉掘立柱建物、中近世河道	谷　正俊 扇木　厳
27	マンション建設	権現町遺跡	須磨区権現町3丁目	神戸市教育委員会	150㎡	63.06.21～63.07.11	奈良～中世の遺物包含層・ピット	前田佳久
28	診療所兼住宅建設	戎町遺跡　第3次調査	須磨区戎町3丁目	神戸市教育委員会	37㎡	63.04.06～63.06.30	縄文時代晩期の遺物包含層、弥生時代前期後半の土坑、弥生時代中期の竪穴住居、弥生時代末の竪穴住居、古墳時代前期の落ち込み	山本雅和
					263㎡	63.04.06～63.06.30		
29	事務所用ビル建設	神楽遺跡　第5次調査	長田区神楽町2丁目	神戸市教育委員会	100㎡	63.04.06～63.04.12	平安時代の遺物包含層	前田佳久
30	長田商店街1丁目東地区第一種市街地再開発事業	長田神社境内遺跡	長田区大塚町1丁目	(財)神戸市スポーツ教育公社	110㎡	63.09.30～63.11.02	縄文時代の遺物包含層、古墳時代の溝・ピット	谷　正俊
				神戸市教育委員会	900㎡	01.03.29～次年度に継続	表土掘削のみ	
31	市営二番町住宅建設	三番町遺跡　第2次調査	長田区二番町3丁目	(財)神戸市スポーツ教育公社	500㎡	63.05.09～63.07.06	弥生前期の溝、古墳時代の流路・溝、中世の水田面（2面）	口野博史 水嶋正稔
32	住宅地区改良事業	三番町遺跡　第3次調査	長田区三番町3丁目	神戸市教育委員会	435㎡	63.09.05～63.11.11	5世紀前半の溝、14世紀代の掘立柱建物・土坑	黒田恭正
33	房王寺線建設事業	上沢遺跡	長田区六番町1丁目	神戸市教育委員会	140㎡	01.03.13～次年度に継続	弥生時代後期の土坑、古墳時代後期の土坑	西岡誠司
34	市立兵庫・大開小学校新築	大開遺跡	兵庫区大開通4丁目	神戸市教育委員会	1,500㎡	63.08.03～次年度に継続	弥生前期前半の環濠集落、中世の溝・井戸	前田佳久 内藤俊哉
35	マンション建設	兵庫津遺跡	兵庫区永沢町	神戸市教育委員会	700㎡	63.11.01～63.12.19	土坑、足跡状遺構、畦状遺構	丹治康明
36	遺跡保存範囲確認調査	中宮黄金塚古墳	中央区山本通5丁目	(財)神戸市スポーツ教育公社	30㎡	01.03.07～01.03.17	墳丘および横穴式石室の遺存状況の確認	菅本宏明 松林宏典
37	西郷小学校改築工事	大石東遺跡	灘区大石東町6丁目	神戸市教育委員会	550㎡	63.08.11～63.09.30	鎌倉時代の土坑・柱穴・溝	西岡誠司 中村健二
38	共同住宅建設個人住宅分	篠原遺跡	灘区篠原中町2丁目	神戸市教育委員会	36㎡	01.03.23～01.03.31	弥生時代中期の土坑・溝	富山直人
39	個人住宅建設	郡家遺跡　城の前地区第28次調査	東灘区御影町城の前	神戸市教育委員会	38㎡	63.07.20～63.07.26	弥生時代後期の竪穴住居、古墳時代中期の竪穴住居	前田佳久
40	マンション建設	郡家遺跡御影中町地区第2次	東灘区御影中町2丁目	神戸市教育委員会	200㎡	63.04.27～63.06.21	弥生中期の遺物包含層、古墳中期の竪穴住居、古墳後期の土坑	前田佳久
41	市立御影中学校体育館改築工事	郡家遺跡御影中町地区第3次調査	東灘区御影中町5丁目	(財)神戸市スポーツ教育公社	1,000㎡	63.08.08～63.12.03	縄文早期の土坑、弥生中・後期の溝、古墳時代の水田面	口野博史 水嶋正稔 内藤俊哉
42	灘神戸生協パーキングビル建設	住吉宮町遺跡　第9次調査	東灘区住吉東町5丁目	神戸市教育委員会	3,200㎡	63.04.01～63.10.08	古墳時代後期の帆立貝式古墳・方墳・竪穴住居、弥生時代末の周溝墓、奈良時代の掘立柱建物	丹治、東、須藤、橋詰
43	土地売買に伴う事前調査	住吉宮町遺跡　第11次調査	東灘区住吉宮町6丁目	神戸市教育委員会	1,300㎡	63.05.23～63.08.12	9・11世紀の掘立柱建物5棟、弥生末の竪穴住居5棟、弥生中期の竪穴住居2棟	丸山　潔 須藤　宏 松林　宏典
44	マンション建設	本山遺跡	東灘区本山中町4丁目	神戸市教育委員会	170㎡	63.05.13～63.05.27	弥生・中世遺物包含層・柱穴・土坑	須藤　宏
45	マンション建設	本山遺跡	東灘区本山南町	神戸市教育委員会	60㎡	63.12.16～63.12.23	弥生時代～鎌倉時代の遺物包含層	西岡誠司
46	マンション建設	井戸田遺跡	東灘区本山中町1丁目	神戸市教育委員会	200㎡	63.04.27～63.05.26	古墳時代の土坑・溝、弥生～平安時代の遺物包含層	山口英正
47	マンション建設	森北町遺跡	東灘区森北町4丁目	神戸市教育委員会	10㎡	63.10.17～63.10.19	銅鏃他	富山直人
48	六甲北有料道路2期築造事業	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	(財)神戸市スポーツ教育公社	3,940㎡	63.04.15～63.12.01	平安時代中期～鎌倉時代初頭の掘立柱建物13棟・土坑・溝・河道	菅本、水嶋 池田、中村
49	県道三木・三田線自歩道設置工事	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	(財)神戸市スポーツ教育公社	300㎡	63.09.19～63.10.22	平安時代末葉の河道	菅本宏明 池田　毅
50	消防ポンプ小屋建設	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	神戸市教育委員会	41㎡	63.11.19～63.11.24	12世紀代の柱穴	菅本、池田 水嶋
51	県道神戸・三田線拡張工事	二郎遺跡	北区有野町二郎	神戸市教育委員会	150㎡	63.12.08～63.12.19	鎌倉時代の溝・ピット	安田　滋
52	（仮称）西宮北ゴルフ場建設	ショブ谷遺跡・稲荷神社裏山古墳群	北区道場町生野・平田	神戸市教育委員会	470㎡ 180㎡	01.01.13～01.02.01 01.01.31～01.02.21	試掘調査、ピット 試掘調査、古墳時代後期の円墳2基 奈良時代の須恵器	安田　滋 橋詰清孝
53	北神ニュータウン建設事業	北神N．T内遺跡	北区長尾町宅原他	神戸市教育委員会	1,010㎡	63.04.01～63.06.22	鎌倉時代の掘立柱建物・土坑・溝	西岡誠司
54	北神中央線建設　墓地移転	宅原遺跡　岡地区	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	1,030㎡	63.04.07～63.04.30	鎌倉時代の掘立柱建物2棟	丸山　潔 須藤　宏
55	北神中央線建設工事	定塚古墳群	北区長尾町定塚	神戸市教育委員会	180㎡	63.07.20～63.07.29	文化財なし	西岡誠司
56	長尾地区圃場整備事業	宅原遺跡宮ノ元・豊浦・西豊浦地区	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	3,080㎡	63.05.20～63.08.31	有舌尖頭器、古墳時代の掘立柱建物、奈良時代のピット、平安時代・安土桃山時代の掘立柱建物	安田　滋 佐伯二郎 橋詰清孝
					2,960㎡	63.04.04～63.05.11	古墳後期の溝・用水路、飛鳥円面硯、奈良・平安・江戸の掘立柱建物	
		下上津遺跡	北区長尾町上津	神戸市教育委員会	80㎡	63.09.01～63.12.12	鎌倉時代の溝	

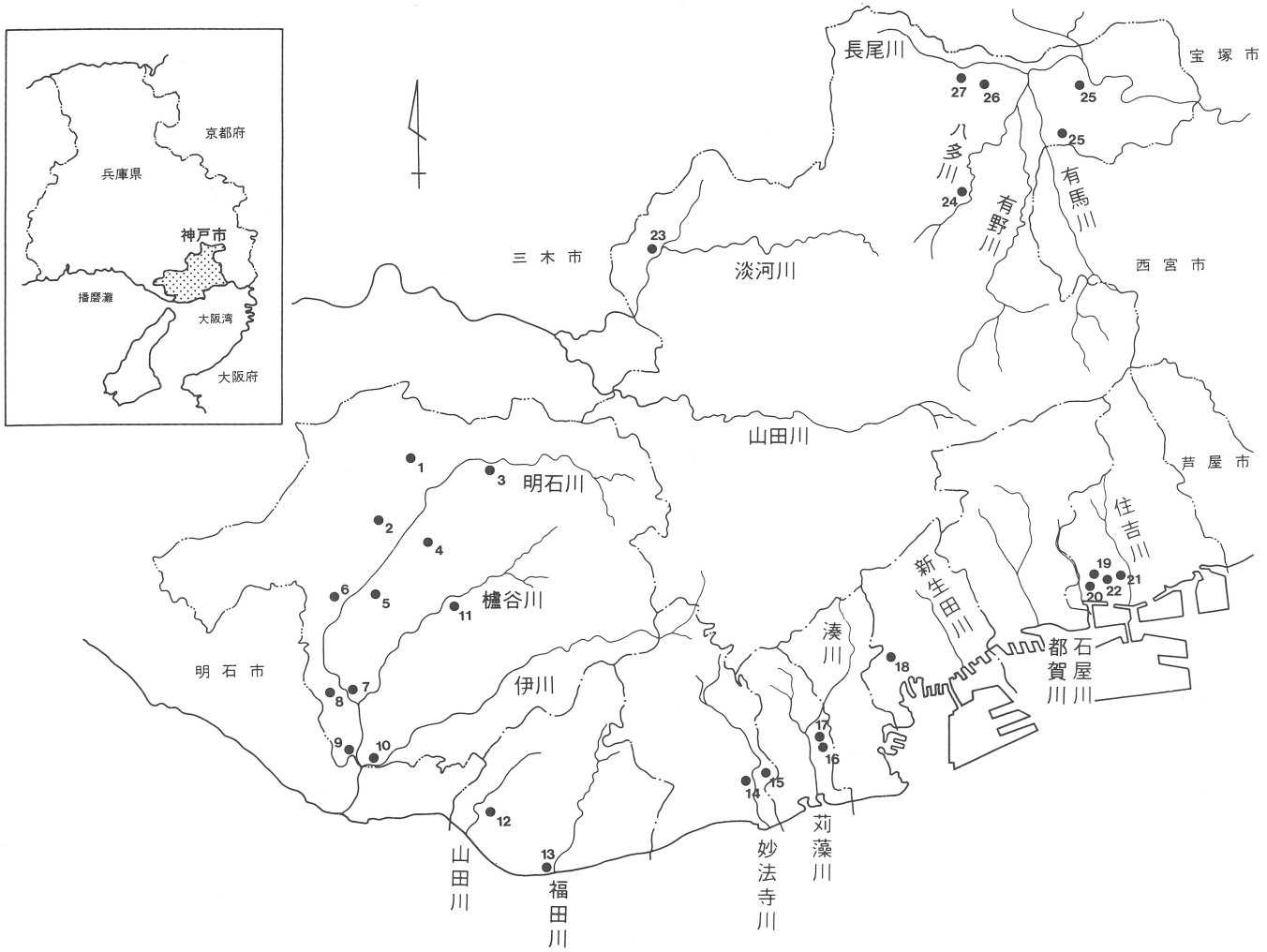
昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表 (3)

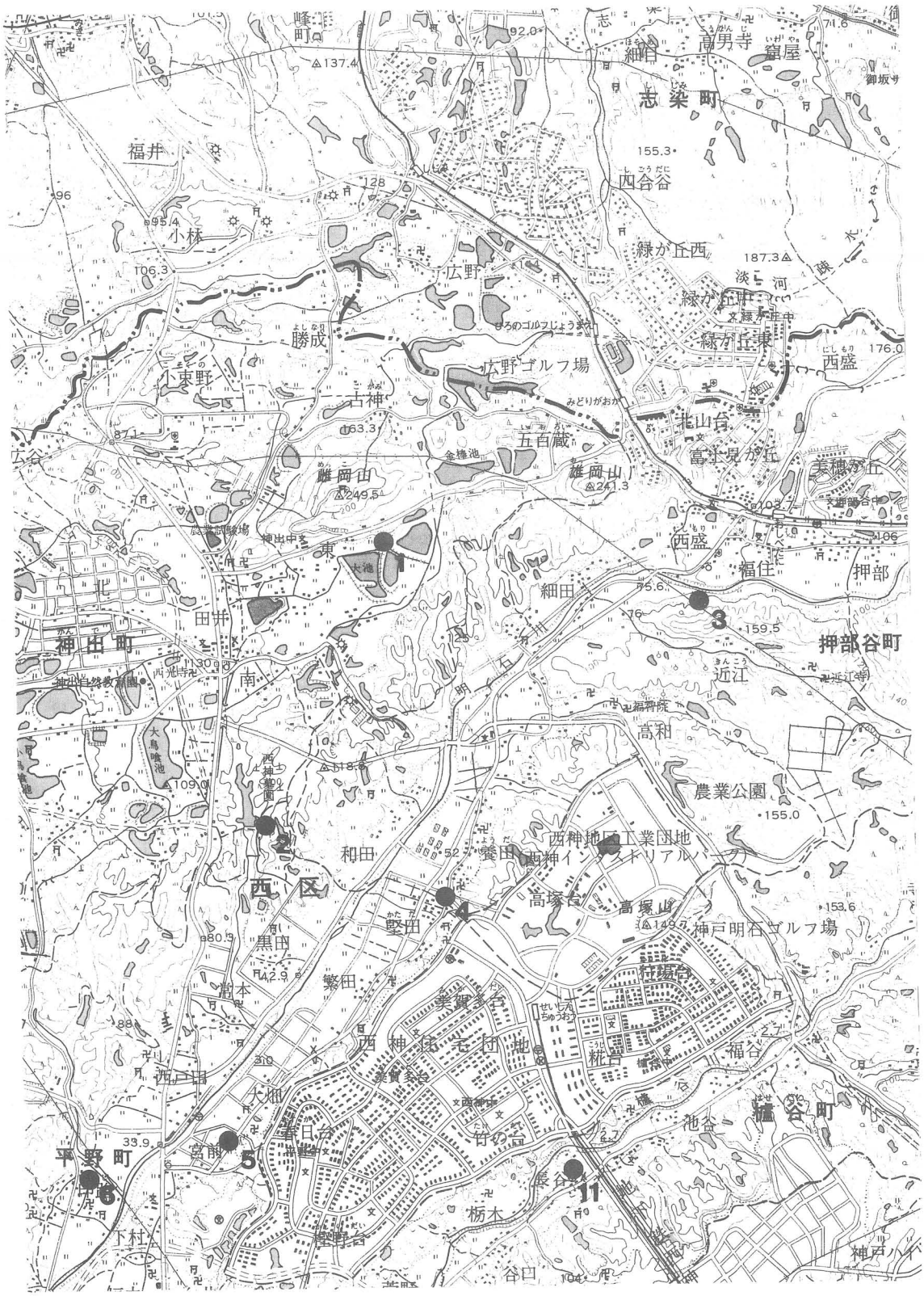
番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
57	下水道竪坑設置	宅原遺跡　岡下地区	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	35㎡	63.11.07～63.11.28	弥生時代後期・飛鳥・中世・近世の溝、流路	中村健二
58	県道山田・三田線移設工事	上上津遺跡	北区長尾町上津	神戸市教育委員会	60㎡	63.12.22～63.12.27	鎌倉時代のピット	安田　滋
59	ゴルフ場建設工事	法仙坊遺跡	北区八多町上小名田・附物	神戸市教育委員会	600㎡	63.06.22～63.07.19	試掘調査、明確な遺構なし	西岡誠司
60	ゴルフ場建設	六甲国際ゴルフ場内遺跡	北区山田町衝原	神戸市教育委員会	500㎡	63.07.15～63.07.29	縄文時代～中世の遺物包含層、石器、須恵器採集、土坑	富山直人
61	淡河中村地区圃場整備事業	淡河中村遺跡	北区淡河町中村	神戸市教育委員会	84㎡	63.05.16～63.05.18	試掘調査、8～9世紀・11～12世紀代のピット、包含層、鎌倉時代の柱穴・溝、鎌倉時代の溝・柱穴・井戸、古墳時代の竪穴住居	安田　滋
					100㎡	63.07.01～63.07.05		富山直人
					440㎡	63.12.19～63.12.27		丸山、松林
					493㎡	63.12.01～63.12.18 01.01.05～01.02.03		丸山　潔 松林宏典
62	ホテル建設	生田遺跡	中央区下山手通2丁目	神戸市教育委員会			古墳時代中・後期の遺物整理作業	丸山　潔
63	雲井通6丁目地区市街地再開発	雲井遺跡	中央区雲井通6丁目	神戸市教育委員会			縄文前期・晩期、弥生前期・中期の遺物整理作業	丹治康明
64	マンション建設	郡家遺跡	東灘区御影町御影	神戸市教育委員会			弥生後期・古墳後期遺物整理作業	丸山　潔
65	土地区画整理事業	玉津田中遺跡	西区玉津町田中	兵庫県教育委員会	9,134㎡	63.10.17～01.03.20	縄文時代後期の土坑、弥生時代の墓・水田、古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・水田、中世の掘立柱建物	大平　茂 中川　渉 山田清朝 藤田　淳 甲斐昭光 篠宮　正 菱田淳子
66	団地造成	平野地区	西区平野町印路	兵庫県教育委員会	58㎡	63.12.19～01.01.13	確認調査 遺構、遺物なし	山下史朗 山田清朝
67	福祉センター改修	玉津陵墓参考地	西区曙町	兵庫県教育委員会	40㎡	63.07.27～63.08.12	平安～中世の落ち込み	村上泰樹
68	本四連絡道	舞子浜遺跡	垂水区東舞子町	兵庫県教育委員会	48㎡	63.09.08～63.09.09	確認調査 遺構、遺物なし	市橋重喜 高瀬一嘉
69	河川改修	長田神社南遺跡	長田区御蔵通	兵庫県教育委員会		63.12.01	確認調査 遺構、遺物なし	井守徳男 村上泰樹
70	新交通システム	住吉宮町遺跡 （坊ケ塚遺跡）	東灘区住吉宮町4丁目	兵庫県教育委員会	140㎡	63.04.28	古墳周溝？	渡辺　昇
					60㎡	63.05.09～63.05.23	古墳時代後期の溝 中世のピット	渡辺　昇 村上泰樹
					70㎡	63.09.27～63.10.08	古墳周溝	村上泰樹
					50㎡	63.10.21～63.10.22	弥生時代後期の周溝墓周溝	池田正男 西口圭介
					35㎡	63.11.21～63.12.17	古墳周溝、奈良時代の溝・水田	西口圭介 久保弘幸
71	分譲住宅	本山遺跡	東灘区本山　町	兵庫県教育委員会	267㎡	63.10.27～63.11.11	中世の畑地・流路 7～13世紀の遺物	西口圭介 久保弘幸
72	団地建替	深江北町遺跡	東灘区深江北町3丁目	兵庫県教育委員会	520㎡	01.03.23～01.03.30	古墳時代のピット 中世の大溝	吉田　昇 平田博幸
73	団地建設	本庄町遺跡	東灘区本庄町2丁目	兵庫県教育委員会	250㎡	63.04.25～63.04.26	確認調査 遺構、遺物なし	吉田　昇 岸本一宏
74	中国縦貫道	宅原遺跡	北区長尾町上津	兵庫県教育委員会	480㎡	63.11.11～63.11.30	奈良～平安時代後半の掘立柱建物、溝	山下史朗 山田清朝
75	中国縦貫道	籠谷古墳	北区有野町二郎	兵庫県教育委員会	150㎡	63.10.24～63.11.30	7世紀前半の直径9m、高さ3mの横穴式石室墳	山下史朗 山田清朝
76	神戸電鉄北摂線	天王散布地 狭間散布地 定塚古墳群	北区長尾町宅原	兵庫県教育委員会	160㎡	01.03.06～01.03.29	確認調査 遺構、遺物なし	中川　渉 甲斐昭光
77	総合教育センター建設	東川崎遺跡	中央区東川崎町1丁目	真野　修	400㎡	63.07.08～63.07.28	近代の耕作跡	真野　修
78	マンション建設	西求女塚古墳	灘区都通3丁目	瀬戸内考古学研究所	670㎡	63.07.25～63.08.29	遺構、遺物なし	鎌木義昌
79	マンション建設	舞子病院跡地内遺跡	垂水区五色山3丁目	真野　修	690㎡	63.07.05～63.10.15	近世墓地	真野　修
80	マンション建設	西岡本遺跡	東灘区西岡本6丁目	六甲山麓遺跡調査会	1,961㎡	63.10.01～01.03.31	弥生時代後期の集落	橋本　久
81	マンション建設	兵庫津遺跡	兵庫区御崎本町1丁目	藤井　直正	1,200㎡	63.04.11～63.11.12		藤井直正
82	マンション建設	菊水町遺跡	兵庫区菊水町6丁目	阿部　嗣治	87㎡	63.11.01～63.12.10		阿部嗣治
83	マンション建設	森北町遺跡	東灘区森北町3丁目	川口　宏海	400㎡	63.03.15～63.03.31	古墳時代前期～後期の集落	川口宏海

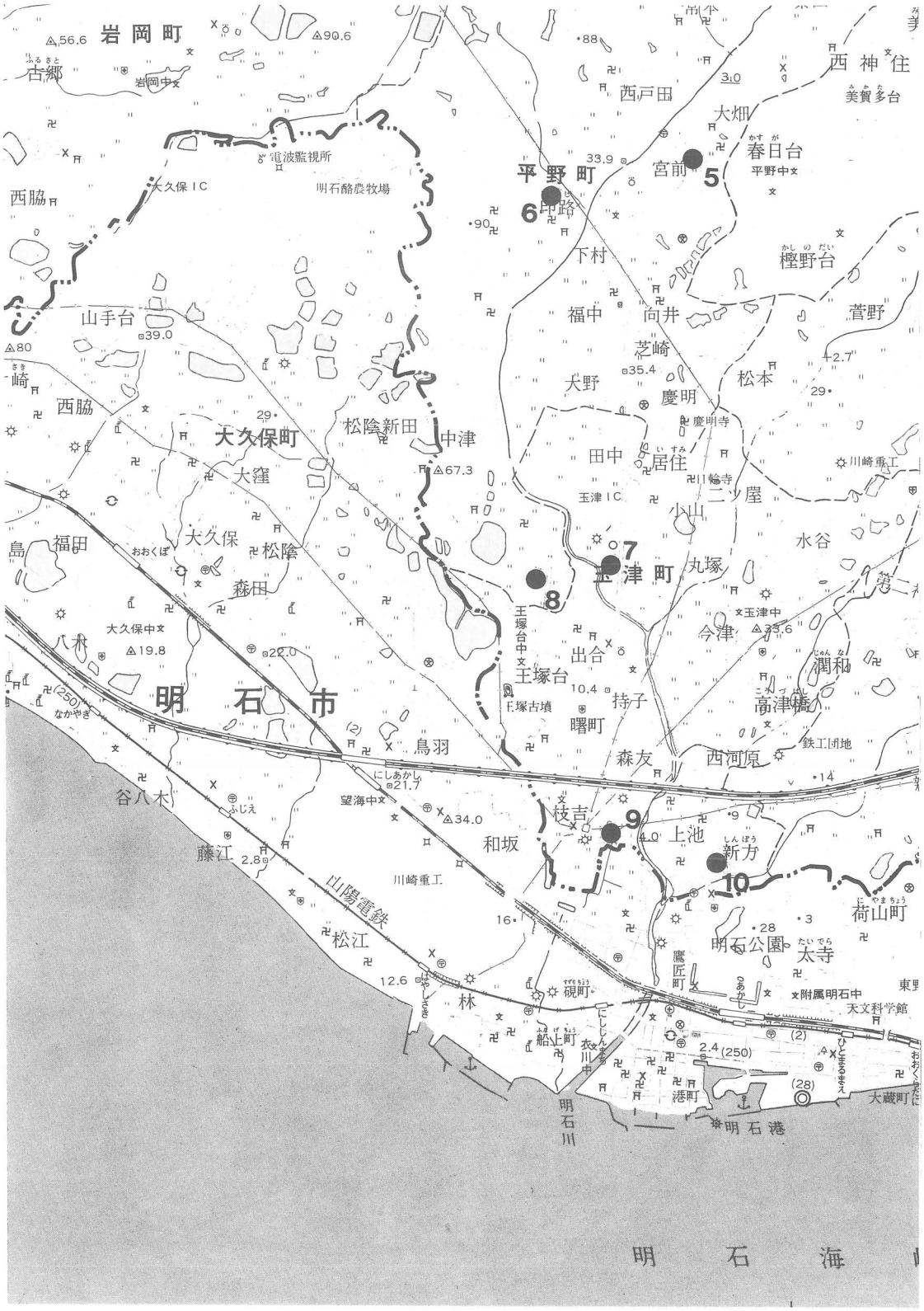
昭和63年度埋蔵文化財発掘調査一覧表 (4)

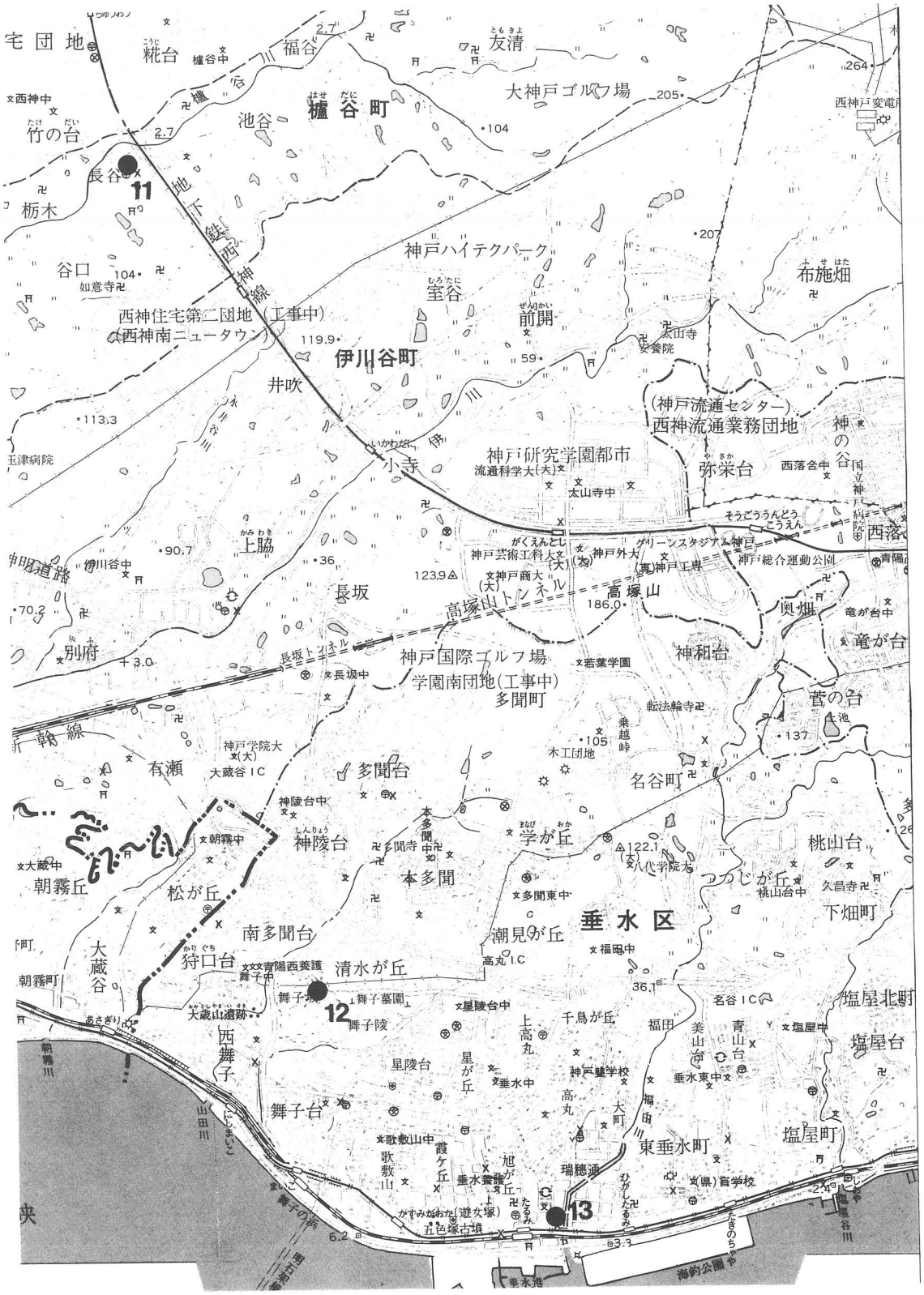
番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	調査内容	調査担当者
84	市営住宅建設	三番町遺跡	長田区三番町4丁目	妙見山麓遺跡調査会	447㎡	63.10.20～01.03.25	古墳時代の大溝・竪穴住居	熊田幸雄
85	マンション建設	舞子病院跡地内遺跡	垂水区五色山3丁目	真野　修	2,100㎡	63.11.20～01.03.31	近世墓地	真野　修
86	圃場整備	宅原遺跡	北区長尾町宅原	妙見山麓遺跡調査会	2,000㎡	63.11.20～01.03.25	古墳時代～中世の集落	熊田幸雄
87	マンション建設	魚崎遺跡	東灘区魚崎中町	田代　克己	392㎡	63.12.18～01.01.10		田代克己
88	マンション建設	須磨東町遺跡	須磨区東町4丁目	藤井　直正	300㎡	63.12.14～01.02.08		藤井直正
89	マンション建設	神楽遺跡	長田区神楽町6丁目	妙見山麓遺跡調査会	566㎡	01.02.01～01.03.31		熊田幸雄
90	マンション建設	二葉町遺跡	長田区久保町6丁目	神戸女子大学遺跡調査会	421㎡	01.03.01～01.03.31	平安時代後期の集落	藤井利章
91	マンション建設	楠・荒田遺跡	中央区楠町6丁目	河本　健介	170㎡	01.02.06～01.02.24	中世の大溝	河本健介
92	マンション建設	徳井町遺跡	灘区徳井町2丁目	妙見山麓遺跡調査会	417㎡	01.03.01～01.03.31	平安時代の集落	熊田幸雄
93	レジャー施設	居住遺跡	西区玉津町小山字大田	阿部　嗣治	1,167㎡	01.03.01～01.03.31	平安時代の土坑・弥生時代の溝	阿部嗣治
94	圃場整備	神出遺跡	西区神出町東	妙見山麓遺跡調査会	2,600㎡	63.04.20～01.03.31	古墳時代後期の横穴式石室 平安時代後期の窯址	山仲　進

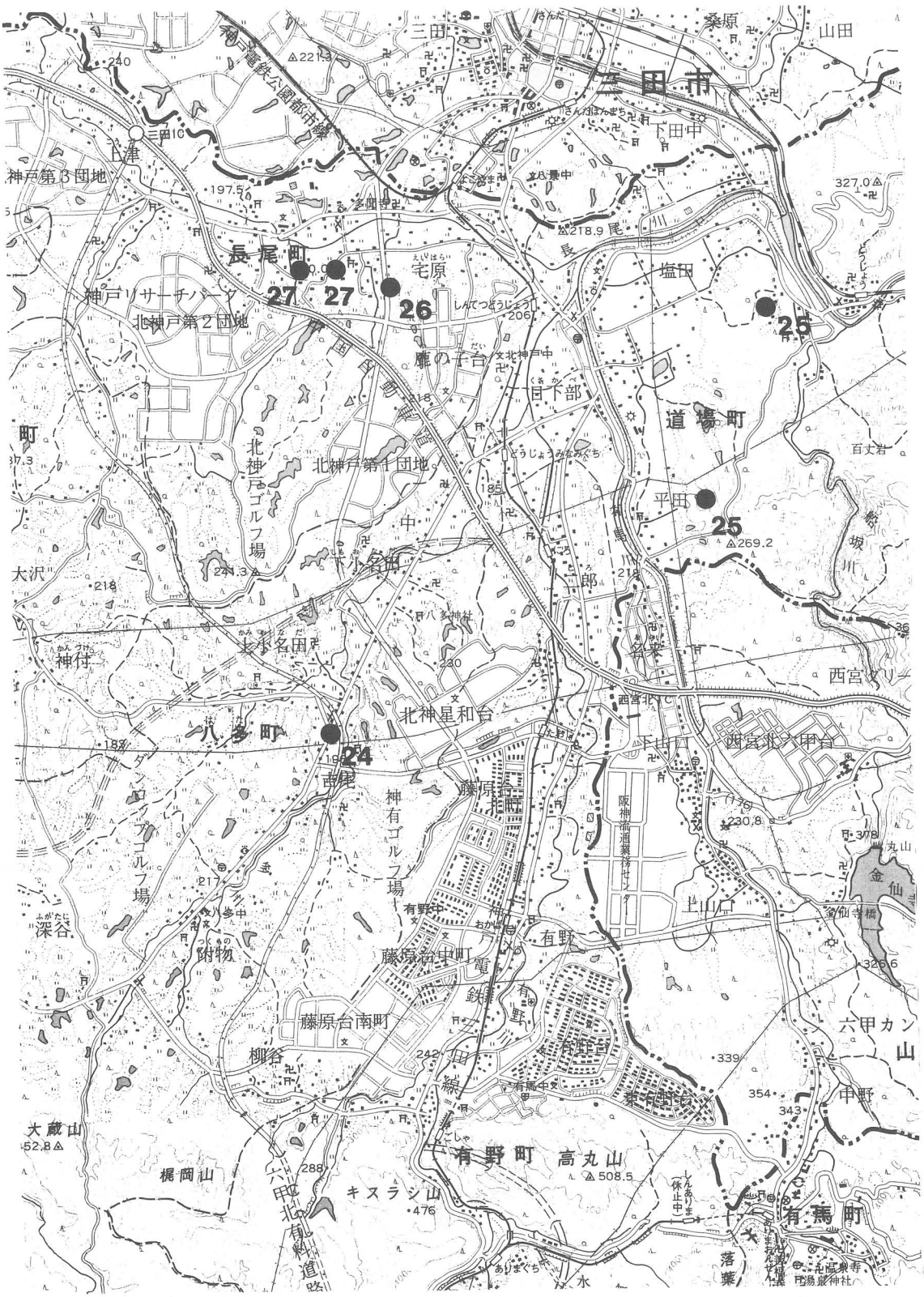
昭和63年度　神戸市埋蔵文化財調査地位置図
（各遺跡の番号は掲載遺跡と一致）




志染町
福井
小林
西合谷
緑が丘西
広野
淡河
緑が丘中
緑が丘東
勝成
広野ゴルフ場
小東野
古神
五百蔵
北山台
富士見が丘
美穂が丘
雌岡山
西盛
福住
押部
細田
東
北
田井
神出町
押部谷町
近江
南
高和
農業公園
西神地区工業団地
和田
養田
西神インダストリアルパーク
西区
高塚台
高塚山
神戸明石ゴルフ場
堅田
黒田
繁田
特別台
美賀多台
西神住宅団地
枝吉
福谷
西戸田
大畑
美賀多谷
竹の台
池谷
櫨谷町
平野町
宮前
長谷
栃木
下村
谷口
神戸ハイ


岩岡町
古郷
岩岡中
電波監視所
大久保IC
明石酪農牧場
西脇
平野町
6
印路
5
宮前
西戸田
大畑
春日台
平野中
西神住
美賀多台
下村
樫野台
福中
向井
菅野
山手台
芝崎
大野
慶明
松本
崎
西脇
大久保町
松陰新田
中津
大窪
田中
居住
川崎重工
玉津IC
二ツ屋
小山
水谷
島
福田
大久保
松陰
森田
7
玉津町
丸塚
8
玉塚台中
玉津中
今津
大久保中
八木
出合
潤和
明石市
玉塚台
玉塚古墳
持子
高津橋
曙町
鉄工団地
鳥羽
森友
西河原
谷八木
望海中
枝吉
9
上池
新方
10
藤江
和坂
川崎重工
山陽電鉄
荷山町
松江
明石公園
太寺
林
硯町
鷹匠町
附属明石中
天文科学館
船上町
港町
明石川
明石港
大蔵町
明石海


宅団地
糀台
福谷
友清
大神戸ゴルフ場
西神中
竹の台
池谷
櫨谷町
長谷
11
栃木
地下鉄西神線
谷口
如意寺
神戸ハイテクパーク
室谷
前開
布施畑
西神住宅第二団地（工事中）
（西神南ニュータウン）
伊川谷町
井吹
(神戸流通センター)
西神流通業務団地
神の谷
小寺
神戸研究学園都市
流通科学大(大)
弥栄台
西落合中
太山寺中
上脇
神戸芸術工科大(大)
神戸外大
神戸商大(大)
高塚山トンネル
高塚山
奥畑
竜が台中
竜が台
別府
長坂
長坂トンネル
長坂中
神戸国際ゴルフ場
学園南団地(工事中)
多聞町
若葉学園
神和台
菅の台
転法輪寺
乗越峠
木工団地
有瀬
神戸学院大(大)
大蔵谷IC
多聞台
名谷町
神陵台中
神陵台
本多聞
学が丘
八代学院大
桃山台
朝霧丘
松が丘
多聞東中
つつじが丘
桃山台中
久昌寺
下畑町
垂水区
南多聞台
潮見が丘
福田中
大蔵谷
狩口台
清水が丘
高丸IC
12
舞子墓園
舞子陵
星陵台中
名谷IC
塩屋北町
大蔵山遺跡
西舞子
上高丸
千鳥が丘
福田
美山台
青山台
塩屋中
塩屋台
星陵台
星が丘
垂水中
神戸聾学校
垂水東中
舞子台
高丸
大町
東垂水町
塩屋町
歌敷山中
歌敷山
霞ケ丘
旭が丘
瑞穂通
(県)盲学校
垂水養護
13
五色塚古墳
海釣公園
垂水港


三田市
三田
桑原
山田
神戸電鉄公園都市線
三田
下田中
長尾町
宅原
塩田
神戸リサーチパーク
北神戸第2団地
鹿の子台
道場町
北神戸第1団地
北神戸ゴルフ場
平田
中小名田
大沢
神付
北小名田
八多町
北神星和台
西宮北ハ甲台
舌尾
神有ゴルフ場
深谷
附物
藤原台中町
有野
藤原台南町
柳谷
有野台
六甲カン山
中野
大蔵山
有野町
高丸山
梶岡山
キスラシ山
有馬町
落葉
27
27
26
25
25
24

星和台
南五葉
君影町
中里町
再度山
鍋蓋山
486.5
七三峠
大竜寺
世継山
天王ダム
天王川
神戸電鉄有馬線
鳥原
菊水山
458.9
菊水ゴルフ場
高尾山
403.2
鵯越墓園
下谷上
ひよどり北町
ひよどり台
303.4
294.3
神戸トンネル
平野町
兵庫区
山麓バイパス
烏原町
烏原貯水池
諏訪山
187.9
奥平野浄水場
337.6
市章山
錨山
中央区
北野町
西神戸有料道路
雲雀丘中
萩乃町
127
鹿松町
緑が丘
去寺
高取山
320.5
長田区
丸山町
熊野町
夢野中
湊川町
湊川中
氷室町
石井町
荒田町
神戸文化ホール
中央図書館
徳照寺
神戸生田中
海洋気象台
五宮町
三宮町
市立図書館
メリケンパーク
ポートタワー
中突堤
新港第一突堤
兵庫県庁
相生町
福原町
東川崎町
川崎重工造船所
東出町
兵庫中
兵庫中北分校
兵庫港
兵庫突堤
築地町
中央市場
中之島
能福寺
真光寺
須佐野中
清盛塚
和田岬線
薬仙寺
和田崎町
浮ドック
三菱重工造船所
和田岬砲台
和田岬
神戸
高尾山
181
明神町
板宿町
勝福寺
飛松中
前池町
西代通
長尾町
39
123
高取山町
西山町
高取台中
長田神社
丸山中
房王寺町
会下山町
みなとがわこうえん
上沢通
新開地
湊町
市立高
兵庫中
兵庫町
東出町
阪神高速道路2号線
(予定線)
地下鉄西神線
地下鉄山手線
中道通
遠矢通
大橋中
大橋町
大谷町
県立文化体育館
西代中
丸山中
御菊通
菊藻中
宝満寺
東尻池町
川崎車輌
浜中町
吉田町
吉田中
御崎町
中央球技場
菊藻通
菊藻島町
遠矢浜町
神戸検疫所
南駒栄町
駒ケ林中
駒ケ林南町
久保町
太田中
丸田町
寺田町
JR工場
月見山町
鷹取中
若宮町
外浜町
水族園
須磨浦通
須磨の浦
須磨港
フェリー発着場
長田港
新湊川
第一防波堤
14
15
16
17
18

六甲ゴルフ場
801
六甲山町
五助滝
692
てんぐいわ
大月地獄谷
ろっこうさんじょう
花原ゴルフ場
457
荒地山
芦屋市
芦屋川
六甲トンネル
423
六甲ケーブル
625.9
六甲ドライブウェイ
高座ノ滝
鷹尾山
芦屋市霊
424.9
山手中
東灘区
渦森台
住吉台
鶴甲
鶴甲(大)
鶴子ケ原
住吉山手
日鶴美術館(大)
甲南女子大(大)
保久良神社
神戸女子薬大(大)
本山北町
森北町
岡本
西岡本
甲南大
28
90
御影山手
桜ケ丘町
神戸大学(大)
峰台
松陽女子学院大
六甲台町
長峰中
住吉中
香雪美術館
住吉町
本山中町
森南町
本庄町
本山南町
深江本町
阪神高速
深江南町
篠原本町
高羽町
植丘町
鷹匠中
西平野
御影町
御影郡家
石屋
田中町
甲南町
北青木
本庄中
南船大
青木
魚崎北町
魚崎中町
魚崎中
魚崎南町
東神戸フリーター
東部市場
深江浜町
19
20
21
22
24
御影本町
御影塚町
宗教法人酒造記念館
住吉宅造酒蔵
魚崎浜町
神戸製鋼
御影浜町
住吉浜町
新交通六甲アイランド線
六甲大橋
灘浜東町
灘浜西
都賀川
西鳴川
フェリー発着所
向洋町西
向洋町東
向洋中
向洋町中
摩耶埠頭
第四防波堤
第五防波堤
(将来計画道路)
六甲アイランド
中埠頭
南埠頭

美囊郡
吉川町
吉祥寺
湯谷
西奥
殿畑
大島
南畑
善祥寺
関西クラシック
ゴルフ場
三木吉川ゴルフ場
奥谷
太平寺
石上山
保木
228.7
227.9
瑞穂
オリムピック
ゴルフ場
北僧尾
有馬ロイヤル
ゴルフ場
中里
法輪寺
南僧尾
北畑
諭破山
251.0
石切山
淡河町
東
行原
淡河中
愛宕山
256
萩原
淡河八幡神社
勝雄
木津
ホセランハントレッドゴルフ場
伽耶院
118.3
河
不動滝
369.2
投町山
岩谷峠
戸田
帝釈山
586.1
シビレ山
466
丹生山
516
三津田
東広野
ゴルフ場
若王子

Ⅱ．昭和63年度の発掘調査

1．神出（かんで）・東（ひがし）遺跡

1．はじめに

神戸市西区神出町は、印南野台地の北東部に位置する。神出遺跡は標高249.5mの独立丘陵雌岡山周辺の隆起扇状地上に存在し、大字では東・南・北・田井・老ノ口などに所在する。神出遺跡は、平安時代後期（11世紀後半）から鎌倉時代初期（13世紀前半）にかけての瓦や須恵器の生産遺跡として有名であるが、古墳時代後期（6～7世紀）の古墳群が存在するとともに、先土器時代から縄文時代の石器の散布も知られる。

神出遺跡に対する組織だった調査は、昭和40年代に神戸古代史研究会によって窯址の分布調査が行われたのを嚆矢とする。昭和51年に東地区（茶山支群）において平安時代の窯址が発掘調査され、その後、昭和53年から土地改良事業に伴う発掘調査が神戸市教育委員会と妙見山麓遺跡調査会によって継続的に行われている。

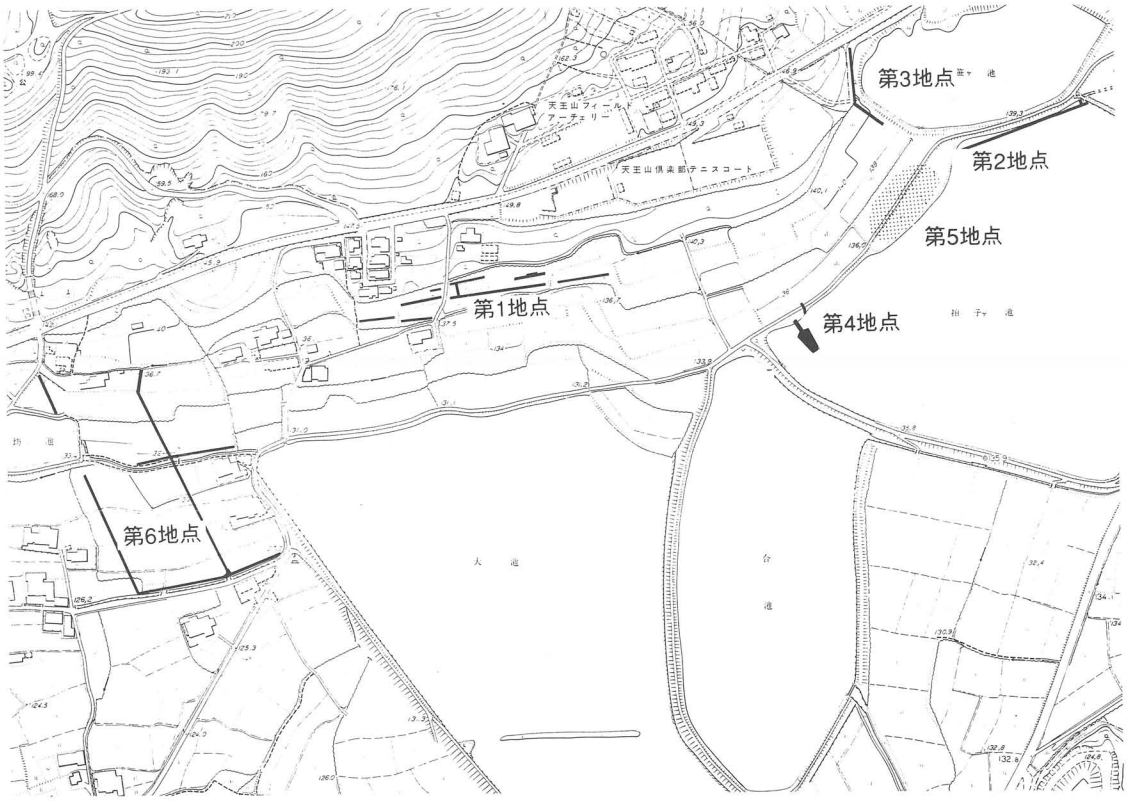


fig. 1　調査地位置図　1：6000

2．調査の概要

第１地点

今回の調査は、昭和63年度東地区の土地改良事業に伴う発掘調査である。

遺構の磁気探査を行い、その成果をもとに幅１ｍのトレンチ 11 本（延長 713 ｍ）を設定し、調査を行った。

すべてのトレンチで遺物包含層が確認され、トレンチ４で SX 01、トレンチ５で SX 02、トレンチ９・11 で SX 03、トレンチ６・７で SX 04 の遺構が検出されている。

SX 01　深さ約 20 ㎝、幅４ｍ以上の広く浅い落ち込みで、その北端部分のみを検出した。出土遺物から 13 世紀前半の遺構と推定される。

SX 02　南北に延びる幅約 1.7 ｍの溝状の遺構である。深さ約 30 ㎝で、溝の中央はさらに 15 ㎝ほど深い。覆土上層からは礫とともに須恵器片が出土している。出土遺物から 13 世紀前半の遺構と推定される。

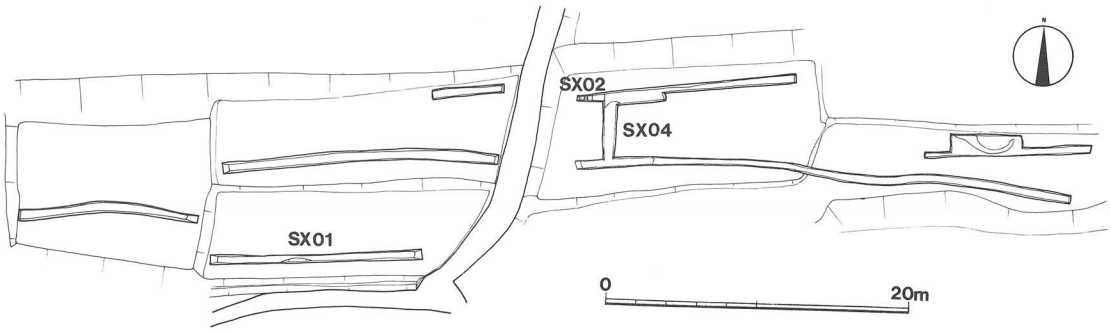


fig. 2　第１地点遺構分布図

fig. 3　SX 02 上層　礫と土器の出土状況（北から）

SX 03　弧状に巡る幅 60 ㎝、深さ 20 ㎝の溝状遺構である。北西部ではその幅が大きく広がる。遺構内には多量の礫が詰め込まれている。礫の間からは土師器・須恵器片が出土している。出土遺物から13世紀前半の遺構と推定される。

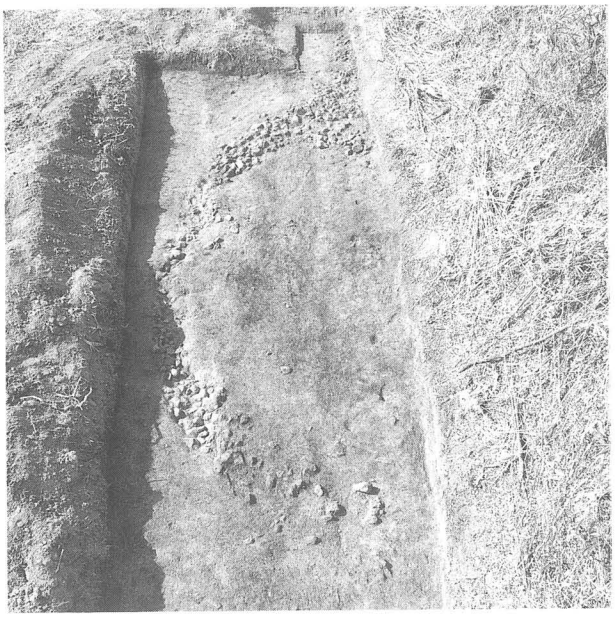


fig. 4　SX 03 検出状況（東から）

SX 04　SX 02 の東にある集石遺構である。南北 8 m以上、東西 5 m以上の範囲に礫が集中している。礫の間からは土師器・須恵器片が出土している。出土遺物から 13 世紀前半の遺構と推定される。

第 2 地点　幅 1 m、延長 180 mのトレンチと 1 × 1 mの試掘坑 3 箇所を設定して調査を行った。34 基の粘土採掘坑が 36 mの範囲にわたり、相接し、あるいは切り合った状態で確認された。粘土採掘坑は長径が 0.5 ～ 2.0 mの不整楕円形である。拍子ケ池の造池など後世の攪乱によってその上部が削平されており、深さは 10 ～ 30 ㎝である。粘土採掘坑内からの遺物の出土はなかった。周辺から出土した須恵器は 13 世紀前半のものである。

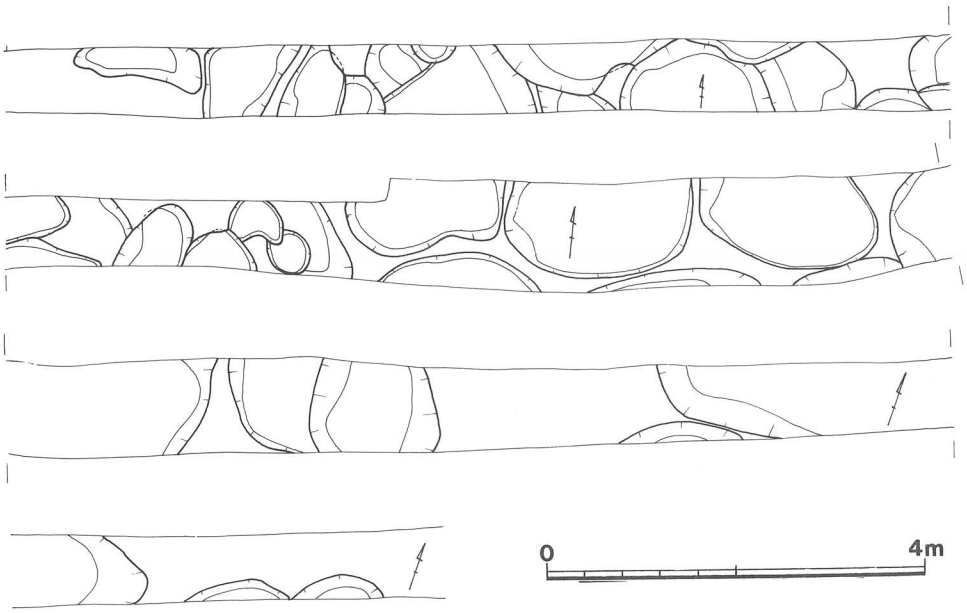


fig. 5
第 2 地点
粘土採掘
坑平面図

第3地点　幅1m・延長38mのトレンチを設定して調査を行った。遺構・遺物ともに確認されなかった。

第4地点　拍子ケ池の底にあたる部分に約127㎡の調査区（A区）と拍子ケ池の堤に幅1.2m、延長8mのトレンチ（B区）を設定して調査を行った。

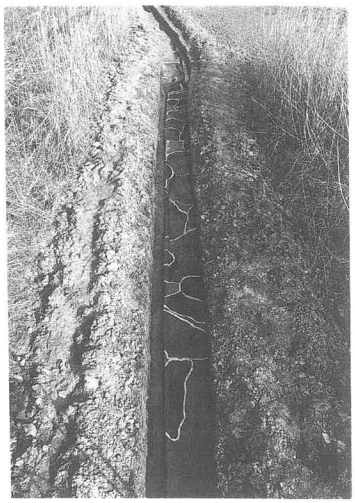


fig. 6　第2地点粘土採掘坑群（西から）

A区　A区付近には一面に須恵器・瓦が堆積しており、その東には窯体も露出している。A区部分で採集した須恵器・瓦は28ℓ入りのコンテナに約80杯である。13世紀前半のものである。しかし、調査の結果、この部分は過去の工事によって破壊され、遺構が残存せず、須恵器・瓦は二次的に移動されたものであることが判った。

B区　灰原の一部が確認され、原位置を保つ須恵器・瓦が28ℓ入りのコンテナに2杯出土した。このほか二次的に移動された須恵器・瓦が28ℓ入りのコンテナに32杯出土した。ともに13世紀前半のものである。

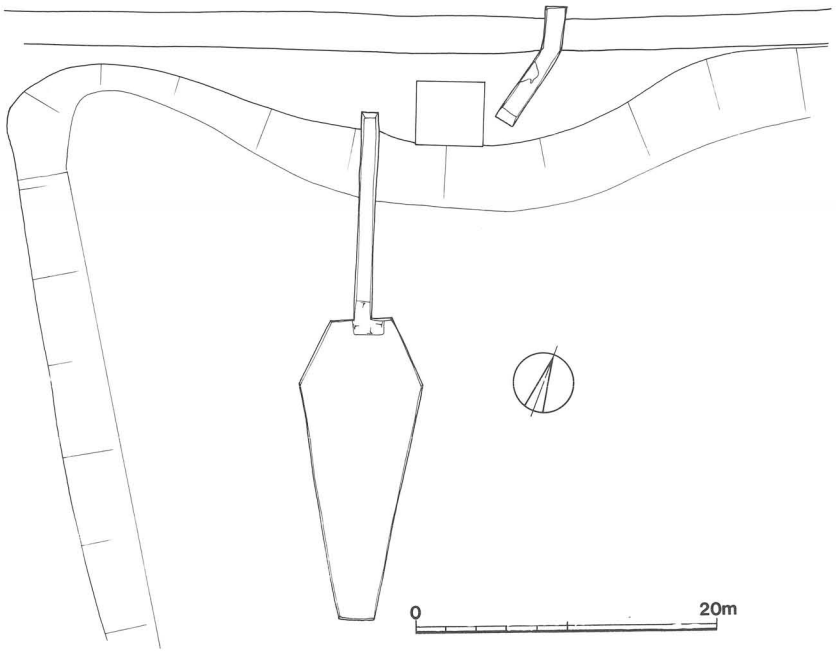


fig. 7　第4地点トレンチ配置図

第5地点　2×2mの試掘坑を6箇所設定して調査を行った。遺構・遺物ともに確認されなかった。

第6地点　幅1.2mのトレンチ2本（トレンチ1・2）、幅1.5mのトレンチ2本（トレンチ3・4）、幅1mのトレンチ2本（トレンチ5・6）、1.2mのトレンチ2本（トレンチ1・2）を設定し（延長523m）、調査を行った。

トレンチ1　長さ30mのトレンチである。幅7mほどの浅い落ち込みが確認され、

灰原1　焼土・灰とともに須恵器・瓦が出土している。灰原と考えられ（灰原1）、この北に窯址の存在することが推定される。また、遺物包含層から出土した須恵器・瓦のなかに梵字の瓦頭文様をもつ軒丸瓦があり注目される。

トレンチ2　長さ102mのトレンチである。トレンチの北半で柱穴2（SP 01・02）と溝1（SD 06）が、南半で落ち込み1（SX 01）と溝3（SD 02・03・04）が検出された。

SP 01　径35cm・深さ26cmの柱穴である。須恵器大甕胴部の大型破片が出土している。

fig. 8　第6地点出土瓦拓影（S＝½）

SP 02　径35cm・深さ23cmの柱穴である。破砕された軒平瓦、SP 01のものと同一個体と思われる須恵器の破片などが出土している。SP 01とSP 02は同一の掘立柱建物の柱穴であると考えられるが、他の柱穴が調査区外にあるため、建物の形状・規模などについては明らかにしがたい。SP 02出土の軒平瓦から12世紀代のものと考えられる。

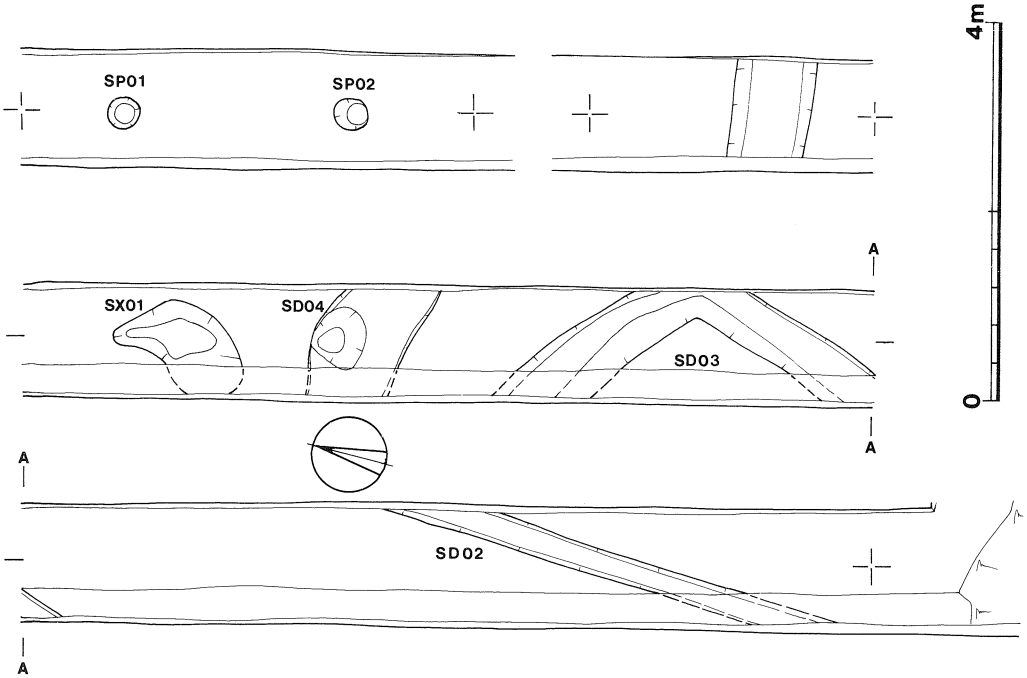


fig. 9　第6地点トレンチ2遺構平面図

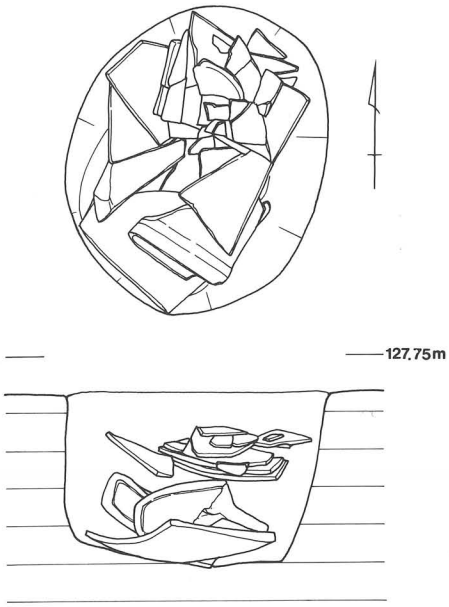


fig. 10　SP 02 遺物出土状況図（S＝1/10）

fig. 11　SP 02 遺物出土状況（南から）

fig. 12　SP 02 出土軒平瓦（S＝1/6）

SD 06　東西方向に延びる幅 80 ㎝、深さ 15 ㎝の溝である。遺物の出土は見られなかった。

SX 01　1.2 × 1.0 m、深さ 20 ㎝の不整形の落ち込みである。焼けた扁平な礫とともに須恵器の小片が出土した。12 ～ 13 世紀代のものと考えられる。

SD 04　東西方向に延びる幅 90 ㎝、深さ 4 ～ 5 ㎝の浅い溝である。溝の一部が 80 × 60 ㎝の楕円形で 40 ㎝ほど凹み、ここから 13 世紀前半の須恵器鉢が出土している。

SD 03　西から東へ延び、南へ屈曲する幅 60 ㎝、深さ約 10 ㎝の溝である。須恵器の小片が出土した。12 ～ 13 世紀代のものと考えられる。

SD 02　南北方向に延びる幅 30 ㎝、深さ 20 ㎝の溝である。須恵器の小片が出土している。12 ～ 13 世紀代のものと考えられる。

トレンチ 3　長さ 76 m のトレンチである。柱穴 1（SP 03）と井戸 1（SE 02）が検出された。

SP 03　径 20 ㎝、深さ 10 ㎝の柱穴である。出土遺物はない。

SE 02　径 90 ㎝、深さ 4 m以上の素掘りの井戸である。出土遺物はない。崩落の可能性があるため、地表面下 3.7 mで掘削を中止した。

トレンチ 4　長さ 104 mのトレンチである。トレンチ 6 にまたがって広がる粘土採掘坑（SK 11・16 ～ 49 他）50 基以上、溝 4 条（SD 01・07・08・09）、土坑 2 基（SK 02・04）、柱穴 7 基（SP 09 ～ 15）が検出された。

SK 11　検出面では幅 9 m以上の遺構であると認められたが、遺構を掘り下げていく段階で 6 基以上の粘土採掘坑の切り合った状態が確認された。それぞれの大きさは 3 m程度で不整楕円形である。それぞれの粘土採掘坑が一定の深さまで埋められ、あるいは埋没したのち、その上を褐色粘土質シルトが覆ったものと考えられる。粘土採掘坑の切り合った状態を確認した面の高さが工事影響範囲の高さを下回ったため、この遺構の調査はこの時点で中止した。上層出土の須恵器は 12 世紀後半のものである。

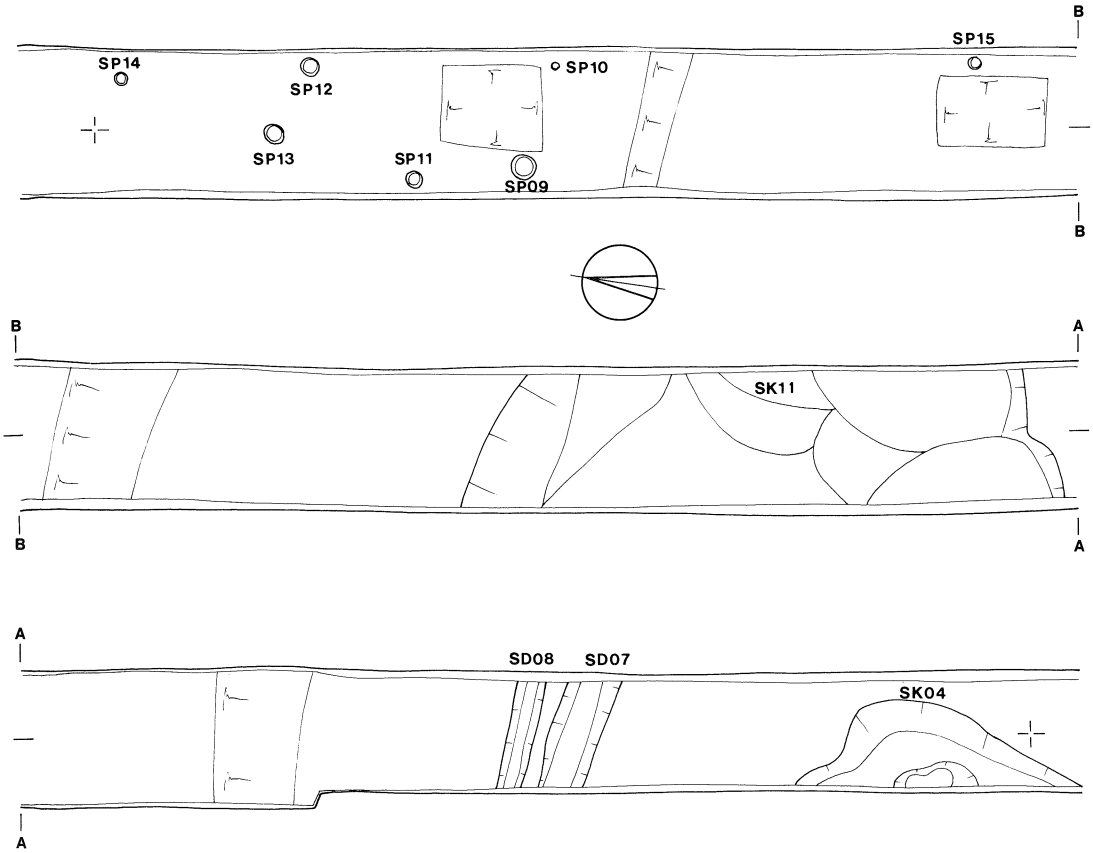
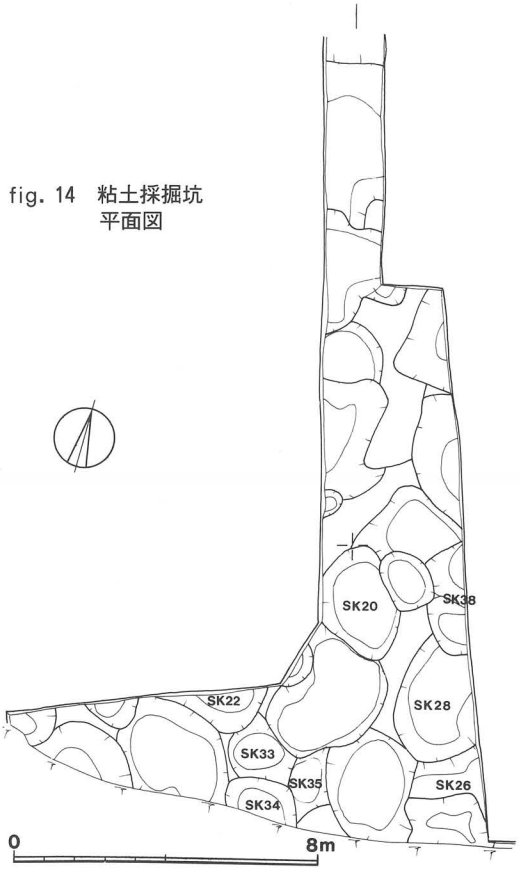


fig. 13　トレンチ 4 北半遺構平面図

fig. 14　粘土採掘坑
平面図



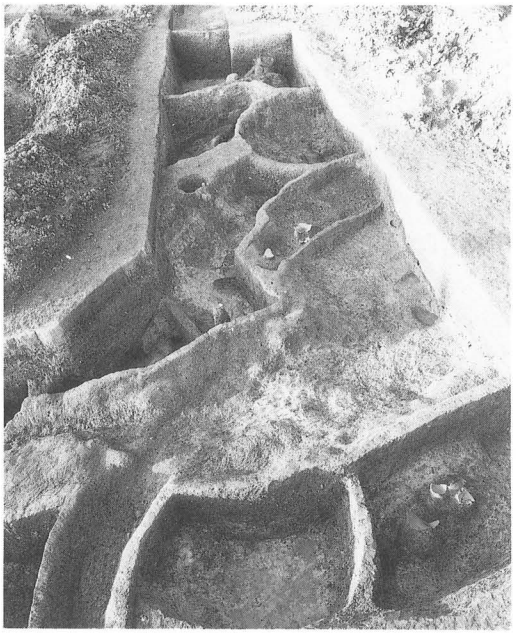


fig. 15　粘土採掘坑 SD 01（東から）

SK 10～49 他　　トレンチ4とトレンチ6にまたがってひろがる粘土採掘坑群である。南北 42 m以上、東西 68 mにわたって広がる。それぞれの規模・形状は径3～4 mの楕円形であり、深さは 80 ～ 150 cmである。トレンチ4とトレンチ6にかかるもので 50 以上を数える。粘土採掘坑の切り合い関係は、東西では方向性を確認できなかったが、南北では南のものが古く、北が新しいという傾向を確認することができた。

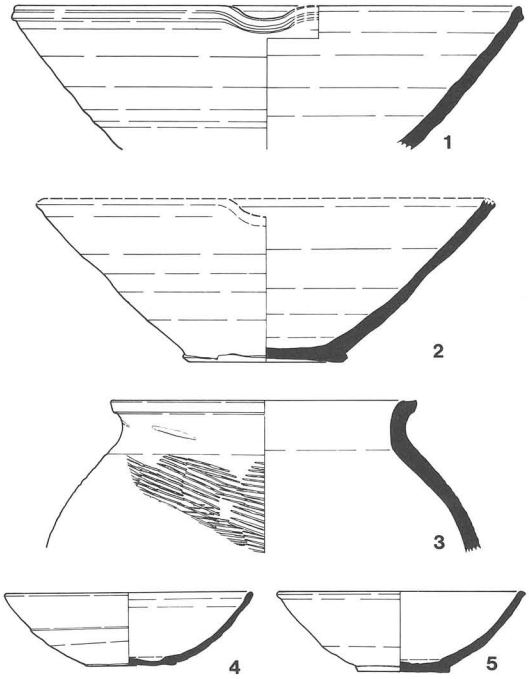


fig. 16　粘土採掘坑出土遺物実測図（S＝1/5）
1 SK35　2 SK33　3 SK34　4・5 SK22

多くの土坑からひずんだり、ひびのはいった製品として使えない須恵器が出土した。その年代は 12 世紀として考えられる。

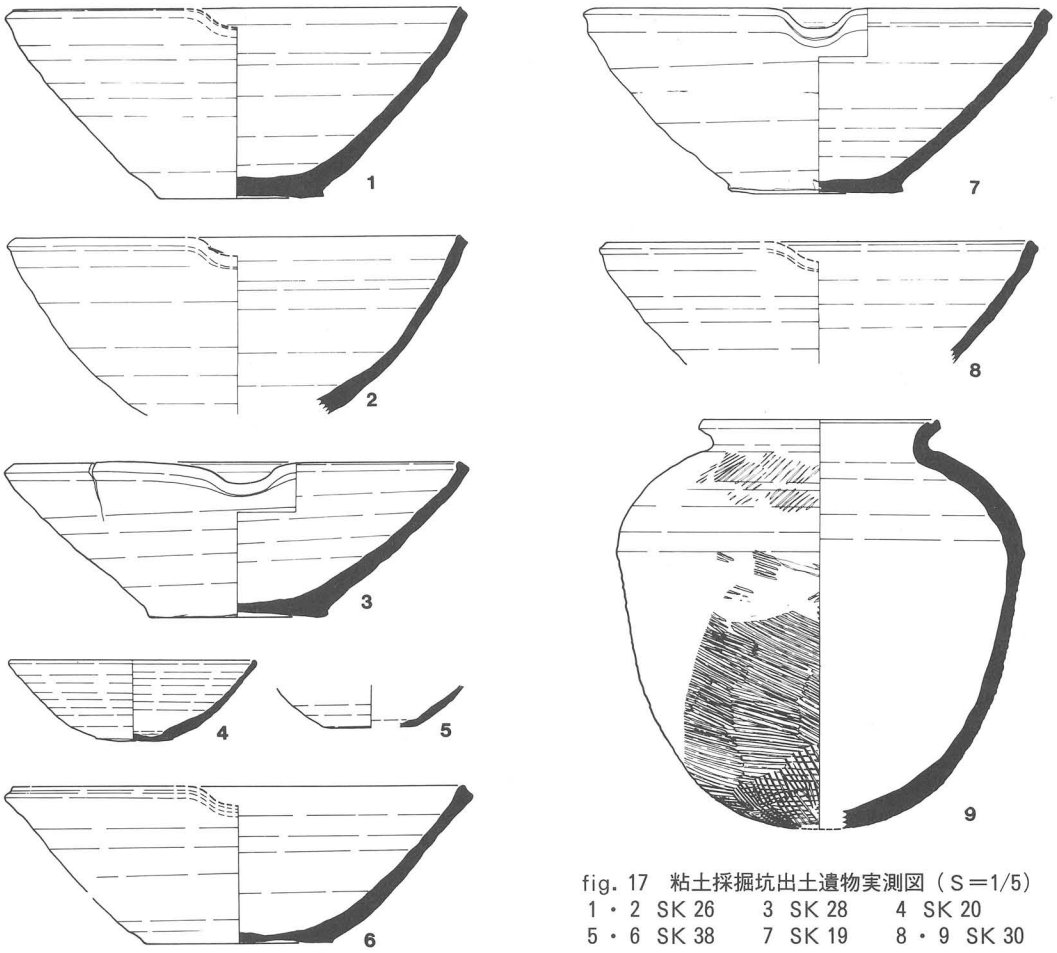


fig. 17　粘土採掘坑出土遺物実測図（S＝1/5）
1・2　SK 26　　3　SK 28　　4　SK 20
5・6　SK 38　　7　SK 19　　8・9　SK 30

fig. 18　SD 01 遺物出土状況（東から）

SD 01　粘土採掘坑群の埋没後、掘削された溝である。南西から延びる幅100㎝と幅70㎝の2条の溝が合流し、幅・深さを広げ、たまりのようになる。調査区内での最大幅は4.6ｍ、深さは1ｍである。

溝内には多量の土器が投棄されている。須恵器・土師器・瓦器・瓦・青磁・白磁などがある。融着した須恵器などはわずかで、煤の付着した須恵器・土師器・瓦器などが多く、これらの遺物が生活において用いられたものであること、すなわちこの近辺に須恵器工人の居住域があることを示している。これらの遺物のなかには燭台があり、須恵器工人の生活の一端を示すものとして注目される。遺物の年代は13世紀前半である。

fig. 19
SD 01遺物出土状況平面図

fig. 20　SD 01遺物出土状況（西から）

fig. 21　SD 01遺物出土状況（東から）

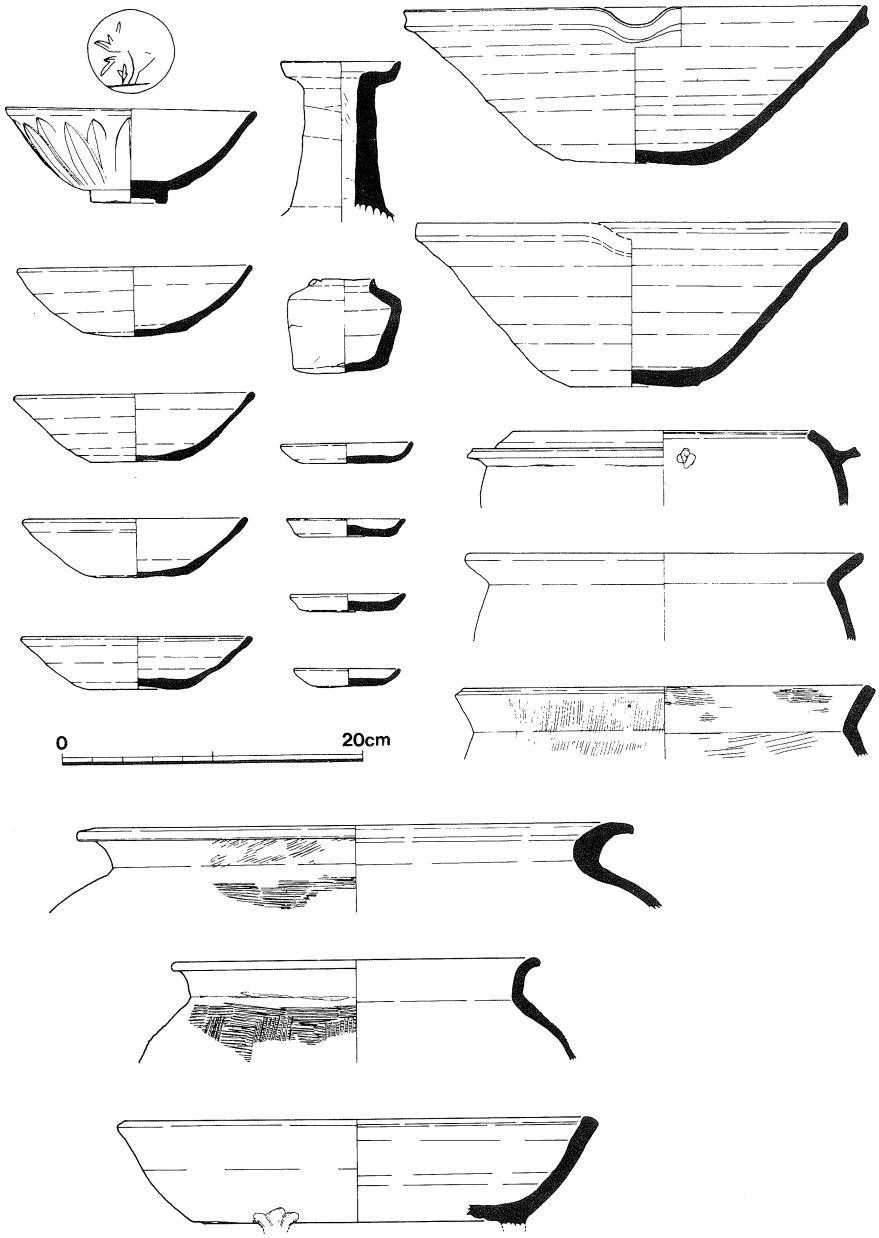


fig. 22　SD 01 出土遺物実測図（S＝1/8）

SD 09　粘土採掘坑群の埋没後、掘削された幅 70 cm、深さ 20 cmの溝であり、SD 01 に切られる。遺物の出土はなかった。

SK 02　SD 01 の埋没後、掘削された土坑である。76 × 58 cmの楕円形である。底面上で 52 × 38 cm、厚さ 5 ～ 10 mmの方形板が出土した。覆土中からは 13 世紀代の須恵器が出土している。

SK 04　粘土採掘坑群の埋没後、掘削された土坑である。6.8×1.3 m以上の規模があり、深さは1.1 m以上ある。焼土・炭とともに赤い生焼けの須恵器が多量に投棄されている。焼け損じた須恵器の投棄土坑であろう。須恵器の年代は13世紀前半である。

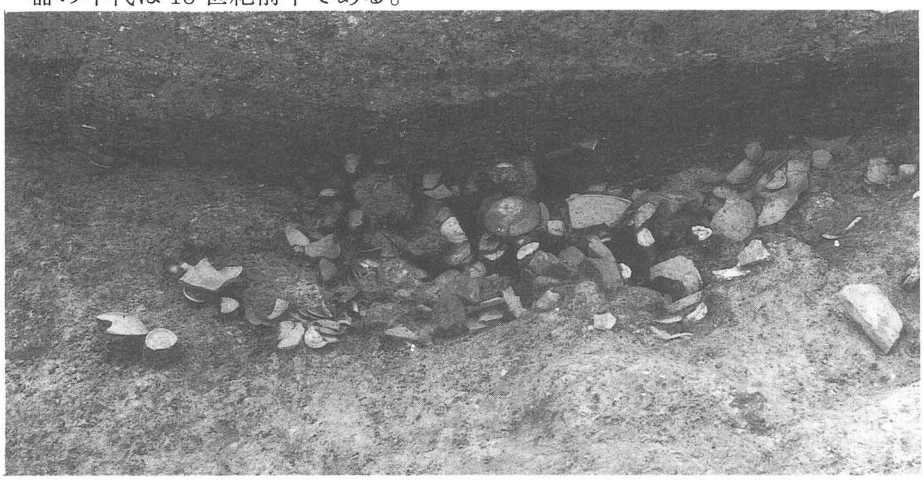


fig. 23　SK 04
遺物出土状況(東から)

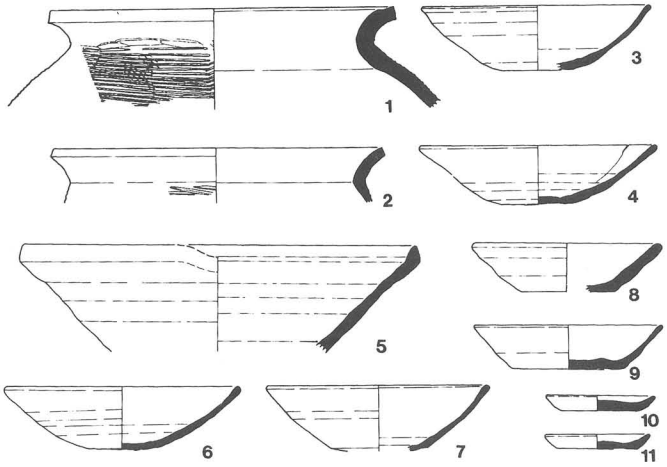


fig. 24　SK 04・11　出土遺物実測図
(S=1/6)　1～4　SK 11
5～11　SK 04

SD 07・08　SK 04の北にあり、粘土採掘坑群の埋没後、掘削された平行して東西に延びる2条の溝である。遺物の出土はなかった。

SP 09～15　ＳＫ11の北に柱穴7基が集中して検出されている。径10～38 cmで深さは20 cmである。遺物の出土はほとんどない。

トレンチ5　長さ84 mのトレンチである。遺物包含層からは須恵器片が出土している。トレンチの東半で柱穴5基（SP 04～08）が検出された。径約20 cmで、深さは約20 cmである。遺物の出土はない。

トレンチ6　長さ84 mのトレンチである。遺物包含層からは須恵器片が、攪乱土層からは須恵器片などのほか、18世紀後半・19世紀前半の染付けが出土している。遺構は粘土採掘坑のみである。

2．鍋谷池遺跡（なべたにいけ）

1．はじめに

当遺跡は、昭和52年度の分布調査で古墳または経塚の可能性のある隆起が確認されたことにより周知されるようになった。今回、西神墓園造成計画がおこったため、昭和61年8月～10月に、試掘調査を行い、鍋谷池と待池とにはさまれる丘陵部で弥生時代の土坑、古墳、平安時代の土坑等が確認された。

昭和62年11月～12月の調査では、地山整形遺構や土坑等を検出した。

当遺跡は、明石川右岸の北から南へ延びる多くの丘陵の一つに立地している。最高所は、標高約113ｍで、明石川沖積地との比高差は約50ｍである。

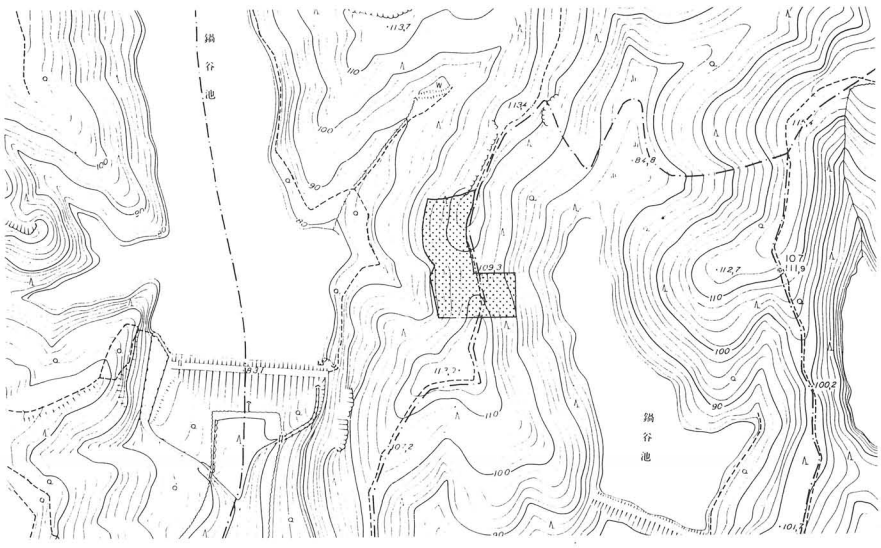


fig. 25
調査地位置図
1：5000

fig. 26
遺跡全景（北から）

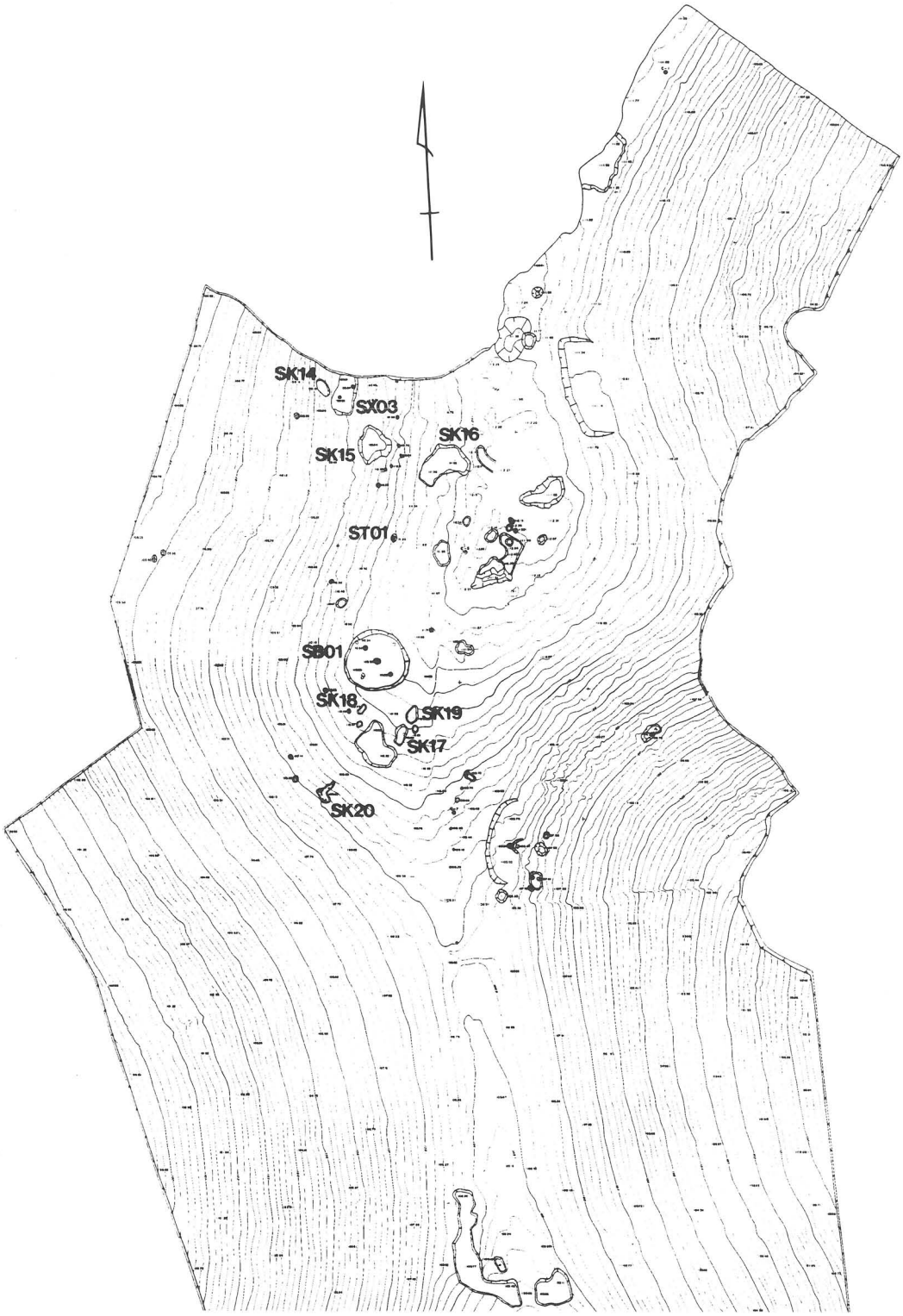


fig. 27　調査地平面図（S＝1/500）

2．調査の概要　発掘調査は、昭和62年度に調査した丘陵の西半部約800㎡と、これより南方に延びる丘陵部約3,800㎡について実施した。

その結果、円形竪穴住居、甕棺、土坑、L字状溝、ピット、焼土坑等が検出された。

SB 01　南北4.8ｍ、東西5ｍの円形竪穴住居で、深さは東で30㎝、西で10㎝残存する。主柱穴は3ケ所確認されたが、本来4本と考えられる。中央に長径50㎝、短径30㎝の土坑が存在する。中央土坑内は、炭を含む暗褐色砂礫土が堆積するが、土坑壁は焼けていない。東壁添いに長さ2ｍ、幅20㎝、高さ10㎝の階段状の施設を作り出しており、住居の入口部とも考えられる。遺物は小片でかつ量的にも少なく、弥生時代中期の土器片、砥石の他、サヌカイトのチップが数点出土したに留まる。なお、住居埋土および床面上から、ややまとまった量の炭化物が検出されており、焼失したものと考えられる。

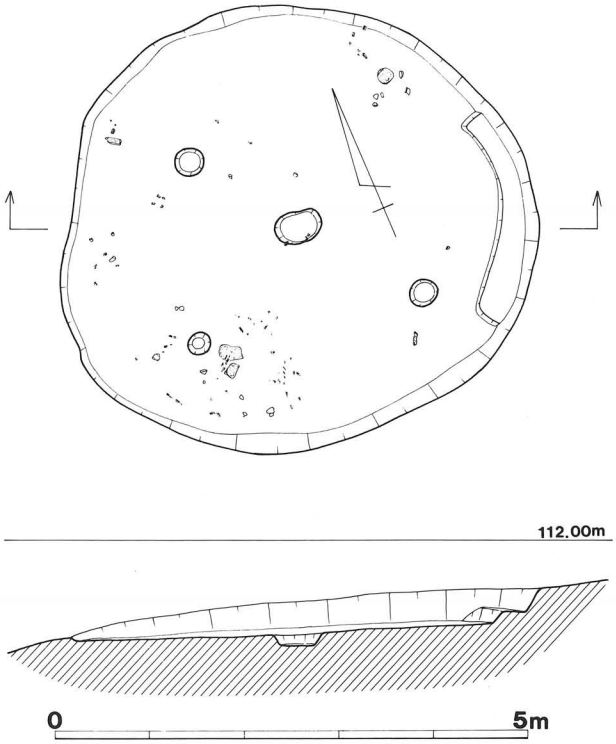


fig. 28　SB 01 平面・断面図

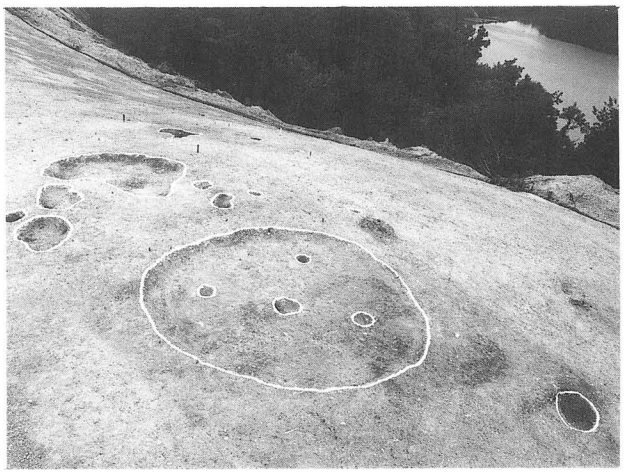


fig. 29　SB 01 完掘状況（北から）

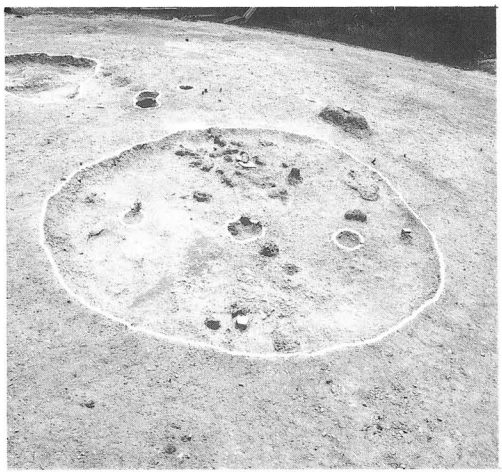


fig. 30　SB 01 炭化材検出状況（北から）

ST 01　SB 01 の北、約 6 m で検出された。南北 60 cm、東西 50 cm、深さ 10 cm の不整楕円形の土坑内に口縁部を東に置いた甕形土器が据えられていた。甕の周囲には礫が置かれ、土器の安定を保っていた。土坑内からはこの他、壺形土器の破片が出土しており、壺によって蓋がされていたことも考えられるが、破片数があまりに少なく、断定はできない。甕は器高 28.3 cm、口径 14.5 cmである。

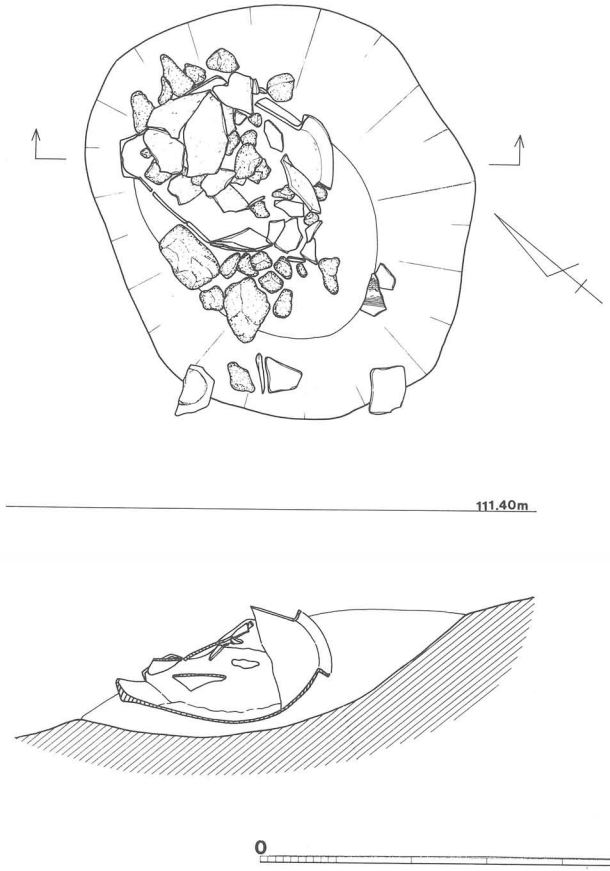


fig. 31　ST 01 平面・断面図

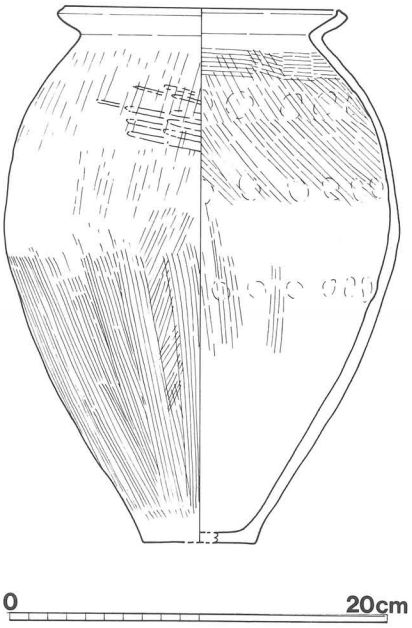


fig. 32　ST 01 甕実測図

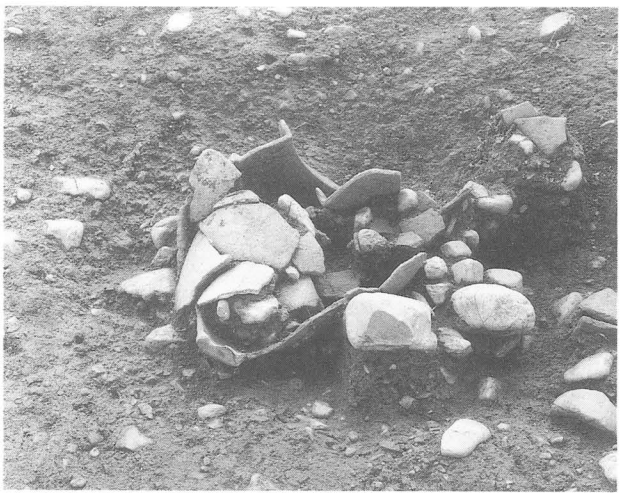


fig. 33　ST 01（西から）

SK 14　長径1.4ｍ、短径70㎝の楕円形土坑で北端に粘土塊がある。土坑上面からはサヌカイト製刃器が1点出土した。

SK 15　東西約3ｍ、南北約2.6ｍの不整形土坑で、深さ80㎝である。底部近くに炭や粘土塊が検出され、埋土中から弥生土器の小片が出土した。

SK 16　東西約4ｍ、南北約2.4ｍの不整形土坑で、東半が一段深くなっている。東半の深さは60㎝である。土坑東壁上部に若干の炭の集中箇所がみられる。

SK 17　長径60㎝、短径40㎝、深さ20㎝の小土坑である。内部には多量の炭が詰まっていた。

SK 18　長径80㎝、短径30㎝、深さ10㎝の長楕円形土坑で、内部には赤褐色焼土塊と炭が詰まっていた。

SK 19　長径1.4ｍ、短径1ｍ、深さ20㎝の不整楕円形土坑で、内部から若干の炭が検出された。

SK 20　住居の南西約7ｍで検出した土坑である。長辺1.3ｍ、短辺60㎝の隅円長方形の一部から長さ1ｍ、幅40㎝の溝が延びる。内部には焼土塊、炭等が見られ、壁面も赤褐色にやけて変色している。出土土器はない。

SX 03　北端部が崩壊しているが、長さ3ｍ、幅1.6ｍ、深さ20㎝の地山整形遺構で、床面からピットが2基検出された。

SX 04　短辺6.5ｍ、長辺8ｍ、幅2ｍ、深さ10㎝のＬ字状の溝で、短辺の中央部がとぎれている。コーナー部分の内側から長さ1.2ｍ、幅0.7ｍ、深さ20㎝の長方形土坑が検出された。遺物は長方形土坑から炭が出土した以外全くなく、時期決定の資料に欠ける。

ピット群　丘陵頂部で検出したピット群である。径25～60㎝で、いずれも炭を埋土中に含む。時期等は明確ではない。

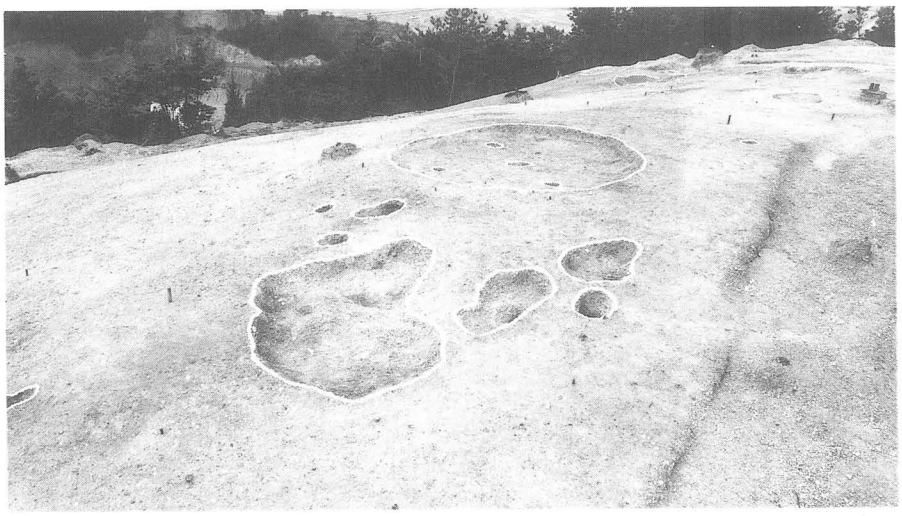


fig. 34　調査地全景（南から）

SK 21　長さ1.4ｍ、幅0.6ｍ、深さ40㎝の長楕円形土坑で、内部から炭と焼土塊が検出された。土坑壁面の一部は焼けて赤色を呈している。土器等は出土していない。

SK 22　長径約3ｍ、深さ80㎝の不整円形の土坑で、南よりの部分で焼土塊、炭等が検出された。炭は焼土上面にも若干あるが、焼土塊を取り除いた段階でも多量に検出された。壁面は焼けていない。土器等の出土はない。

SK 23　長さ2ｍ、幅90㎝、深さ40㎝の不整楕円形土坑である。壁面は焼けた痕跡はないが、南半部から炭、焼土が検出された。その他の遺物はない。

3．まとめ

今回の調査では、1棟の円形住居とほぼ同時期と考えられる甕棺、そして焼土坑が検出された。

低地の集落遺跡で住居と土器棺が近接する例はあるが、今回の調査で高地性集落でも同じようなことが確認された。

住居等の遺構内から出土した土器類は、昭和62年度分とあわせても多くなく、この集落が一時的なものだったことが推定できる。

また、SX 04を除く他の遺構については、住居等の埋土と色調、土質ともに似通ったところが多く、これらも弥生時代中期のものと考えられる。

また丘陵頂部や斜面から出土した遺物もすべて弥生時代中期であることも、遺構の時期を同期とする考えの補助とはなろう。

fig. 35　SX 04
（南から）

3．西盛南（にしもりみなみ）遺跡

1．はじめに

西盛南遺跡は、明石川上流域の両岸に発達した河岸段丘に立地する遺跡である。昭和60～61年度にかけて発掘調査が実施され、字垣内地区では、平安時代後半～鎌倉時代前半の溝状遺構が確認されている。

今年度は字向井の明石川右岸の試掘調査を実施し、段丘上面で古墳時代後期初めの遺物包含層が確認されている。今回の調査は、この試掘調査の成果にもとづいて、設計変更を行ってもなお保存が図れない排水路部分のうち、L字形に延びる幅3m×長さ70mについて発掘調査を実施した。

2．調査の概要

今回の調査地区は、南北方向に延びる排水路敷にあたる。1トレンチと呼称し、南から順に10m間隔で便宜的に地区を設定して、調査を実施した。

層序は、耕土・床土がそれぞれ3枚ずつ確認でき、このうちの最下層の耕土には、古墳時代後期および平安時代～鎌倉時代の土器が含まれている。そして、この直下の暗褐色粘質土が古墳時代後期の遺物包含層で、この下層は黄色粘土の基盤層となる。

検出できた遺構には、古墳時代後期初頭の竪穴住居2棟、掘立柱建物を構成するピット3個のほかピット26個、木棺墓1基、溝状遺構2条、落ち込みなどがある。また、平安時代後期では掘立柱建物を構成するピット4個や落ち込み・ピットなどがある。これらの遺構は、黄色粘土層を基盤としており、一部を除いてすべて同一面で検出している。

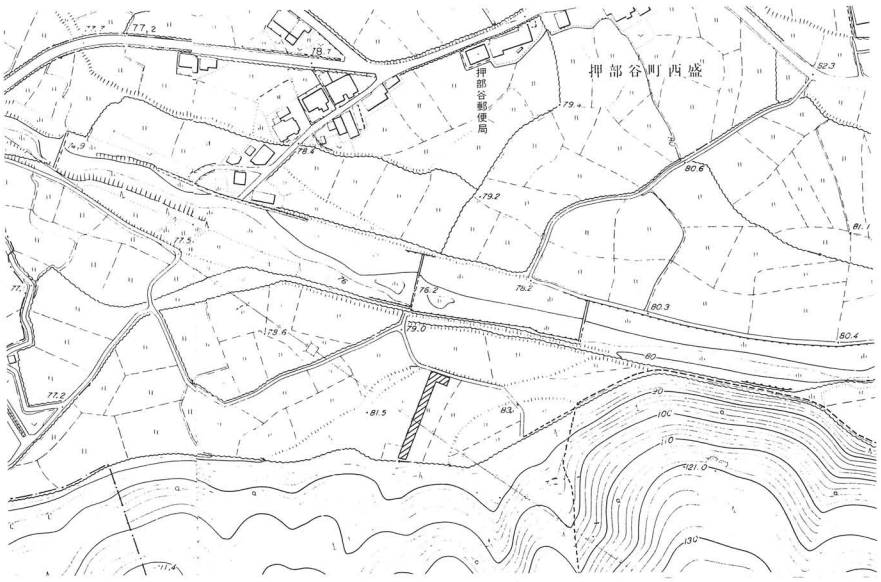


fig. 36　調査地位置図　1：5000

古墳時代　古墳時代後期の遺構は、南端の0区を除いてトレンチのほぼ全域に分布しているが、北半の4～5区に遺構が集中する傾向がある。

SB 01　SB 01は5～6区で検出した方形の竪穴住居で、全容は調査地区外で明らかにはできていない。一辺の長さは、最大4.5 mで、壁高は20 cm前後である。床面にピット及び落ち込みが確認されたが、柱穴と考えられるピットは確認できなかった。また、南東隅に長さ1.9 m、最大幅40 cm、高さ約10 cmの造り付けのベッド状遺構がある。ベッド状遺構の西辺には直径10 cm前後のピットを7個確認した。これがベッド状遺構の崩壊を防ぐための杭列であったと考えられる。

出土遺物には、床面よりやや浮いた状態で検出した須恵器壺があり、この他には須恵器・土師器・製塩土器の小片がある。

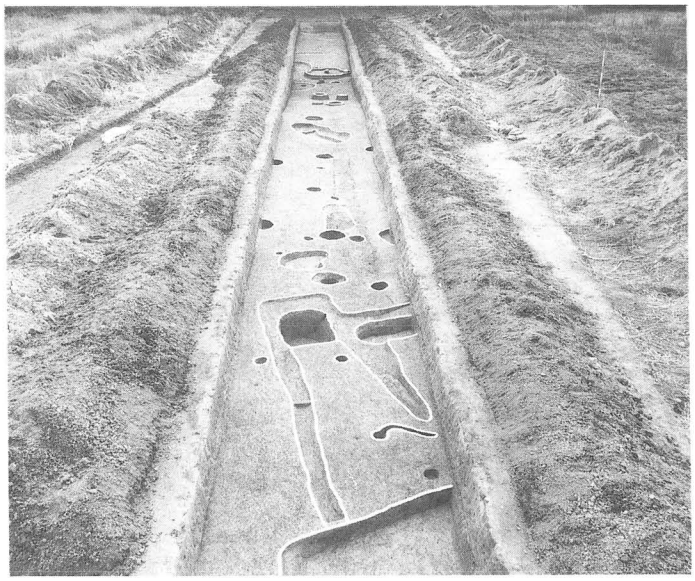


fig. 37　調査区全景（北から）

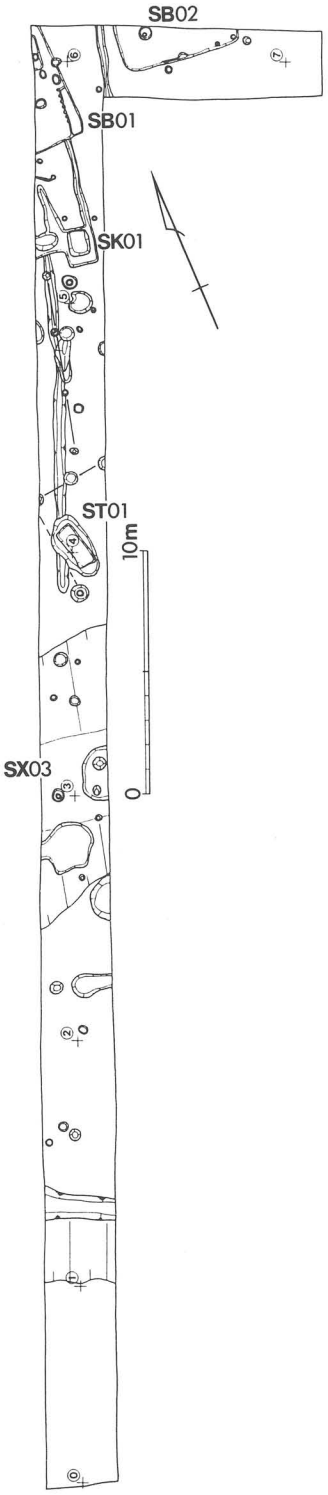


fig. 38　1トレンチ遺構平面図

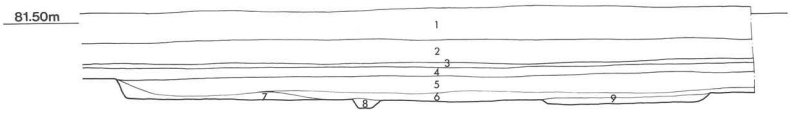
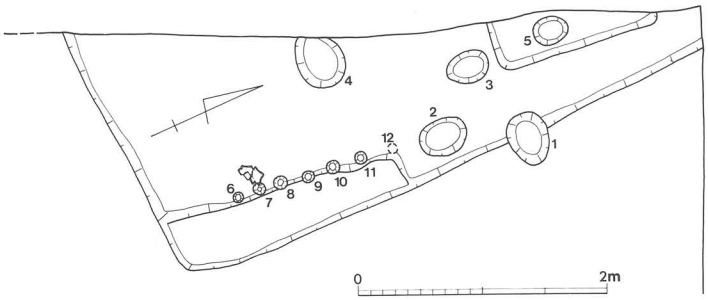


fig. 39　SB 01 実測図

1．淡黄灰色シルト混じり細砂～中砂（旧耕土）
2．灰色シルト混じり細砂～Gran.
3．黄色粘土（Pe. 多し）
4．暗乳褐色シルト質極細砂～中砂（遺物包含層）
5．淡灰褐色シルト混じり極細砂
6．灰色シルトのブロックを含む黄白色粘土
7．灰色シルトのブロックを含む黄色粘土
8．9．淡灰色シルト質極細砂



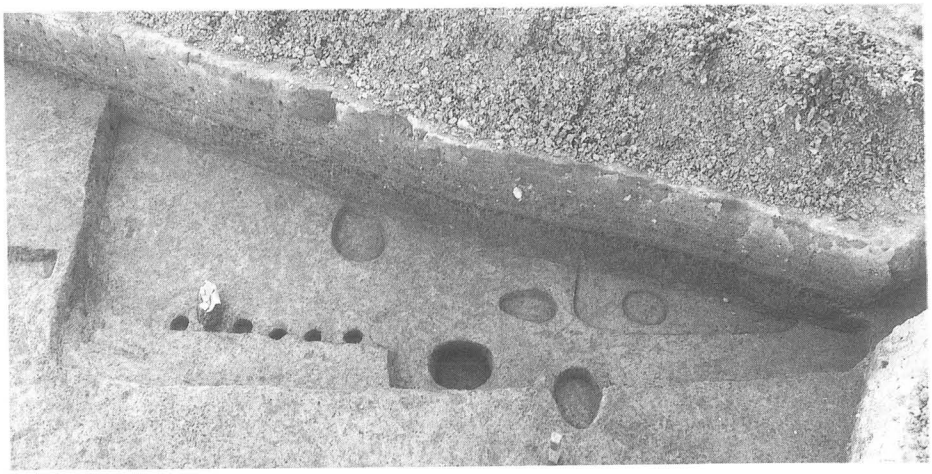


fig. 40　SB 01（東から）

SB 02　SB 02 は 6 区で検出した方形の竪穴住居で、調査地区外に広がっているため、全容は明らかにできていない。一辺の長さは、最大 4.9 m で、壁高は 10 cm前後である。床面にピット及び落ち込みが確認されており、主柱穴と考えられるピット 1 は、直径 55 cm、深さ 50 cmで、その中心よりやや西南に偏して直径 15 cm程度の柱痕が確認された。

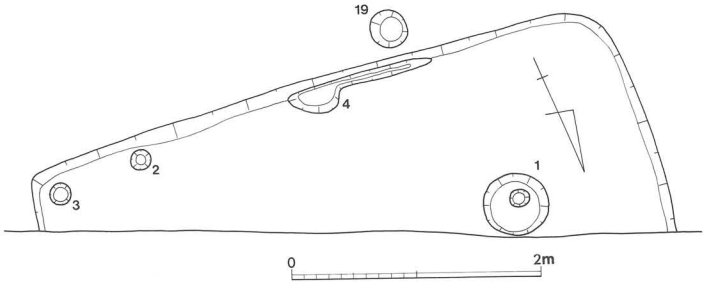


fig. 41　SB 02 平面図

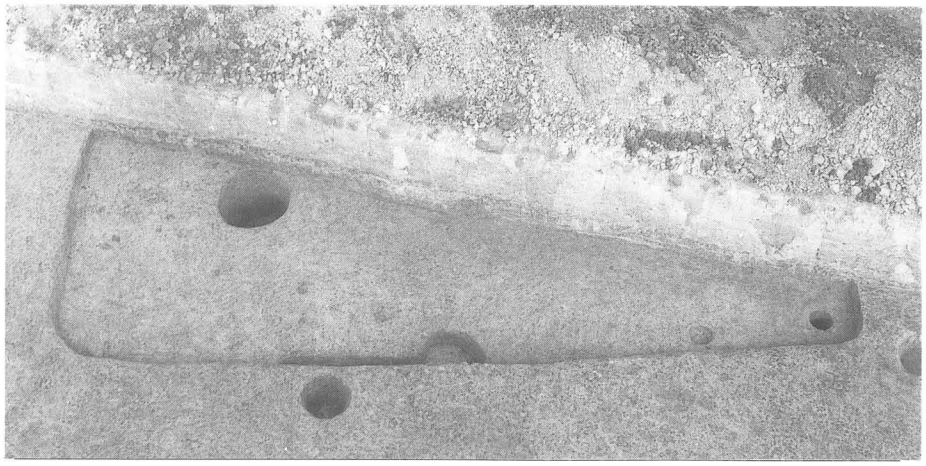


fig. 42　SB 02（南から）

fig. 43　SB 01・02（東から）

SP 05～08　これらのピットは、4～5区に集中して確認されたもので、直径50㎝前後、深さ35㎝前後の掘形である。それぞれの位置関係は、SP 06～08が東西方向に柱間1.5ｍでほぼ一直線に並んでおり、これに直交して、SP 06の南側に柱間4.3ｍでSP 05がある。このうち、柱痕が確認できたものは、SP 05のみで、柱痕の直径は約25㎝である。

ST 01　ST 01は3～4区にかけて検出した木棺墓である。墓壙はやや歪んだ隅円長方形に近いもので、南北長2.7ｍ、東西長1.2ｍ、深さ30㎝である。この墓壙のほぼ中心に、長さ1.75ｍ、幅55㎝の木棺が置かれている。出土遺物は小片で、古墳時代後期の須恵器・土師器である。

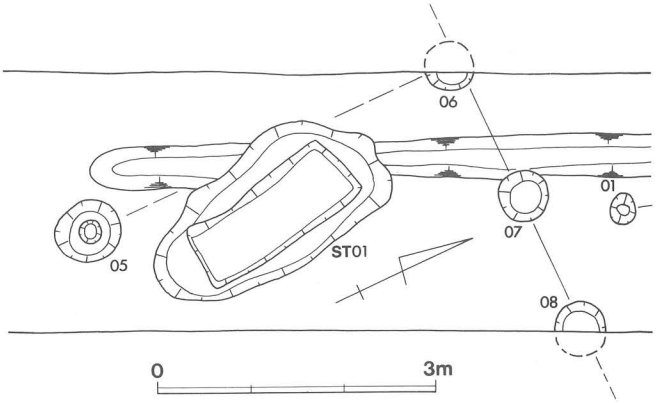


fig. 44　掘立柱建物と ST 01 平面図

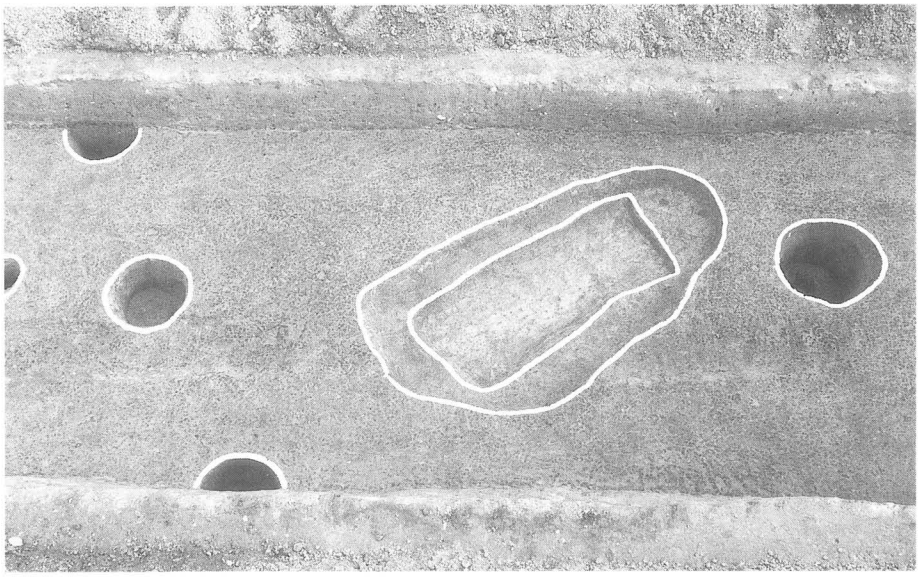


fig. 45
SP 05 ～ 08
ST 01（西から）

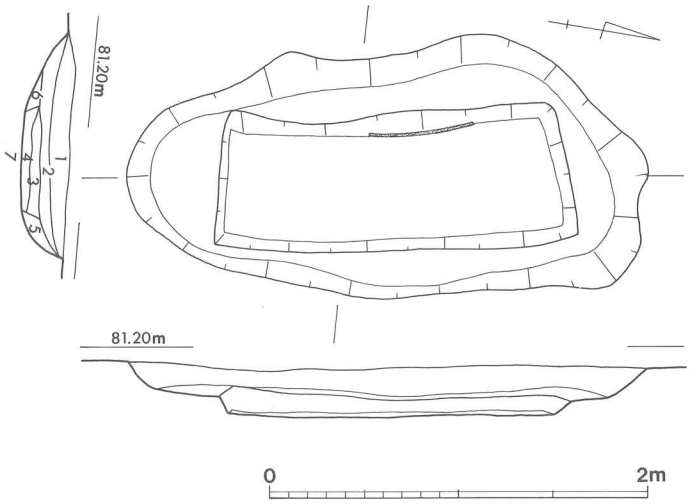


fig. 46
ST 01 実測図
1．暗灰褐色シルト混じり極細砂～細砂
2．黄灰褐色シルト混じり極細砂
3．灰色シルト混じり極細砂
4．淡黄色シルト質極細砂
5．淡灰褐色シルト混じり極細砂～細砂
6．淡黄灰色シルト混じり極細砂

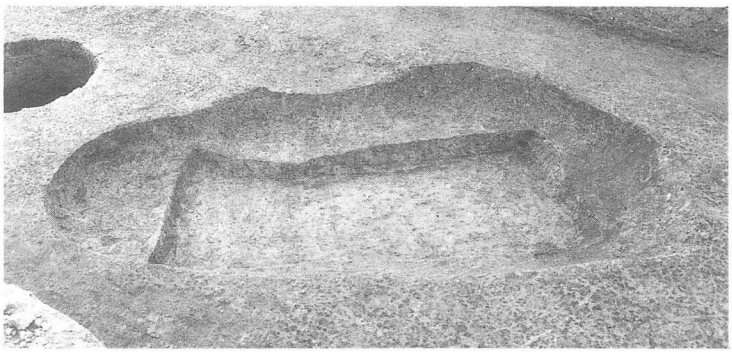


fig. 47　ST 01（北東から）

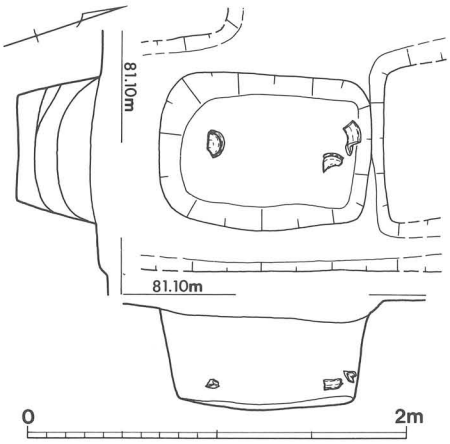


fig. 48　SK 01 実測図

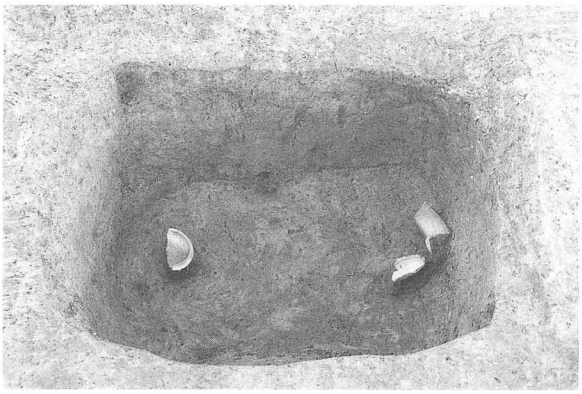


fig. 49　SK 01（西から）

SK 01　SK 01 は 5 区で検出した土坑で、長辺 1.15 m、短辺 85 cmである。平面形はほぼ長方形で、深さ 45 cmである。土坑の壁面が、ほぼ垂直に立ち上がるのが特徴的で、土坑底からやや浮いた状態で、須恵器坏身・壺などが出土している。

SX 03　SX 03 は 2 ～ 3 区にかけて検出した落ち込みで、幅約 10 m、最大深さ 25 cmである。埋土は礫を多く含む暗褐色砂質土が中心で、遺物包含層と類似する。出土遺物には、須恵器坏身の完形品を含む須恵器・土師器・製塩土器などがあり、量的には今回の調査地区のうちでは最も多い。

平安時代　平安時代後期の遺構は、調査地区の全域に分布するが、密度は高くはない。

SP 01 ～ 04　4 ～ 5 区にかけて検出したピットで、いずれも直径 25 cm前後のものである。これらのピットは、磁北からやや東に振っているものの、一直線に並んでおり、掘立柱建物の一部を構成するものと考えられる。ピットの柱間は、2.4 m前後である。

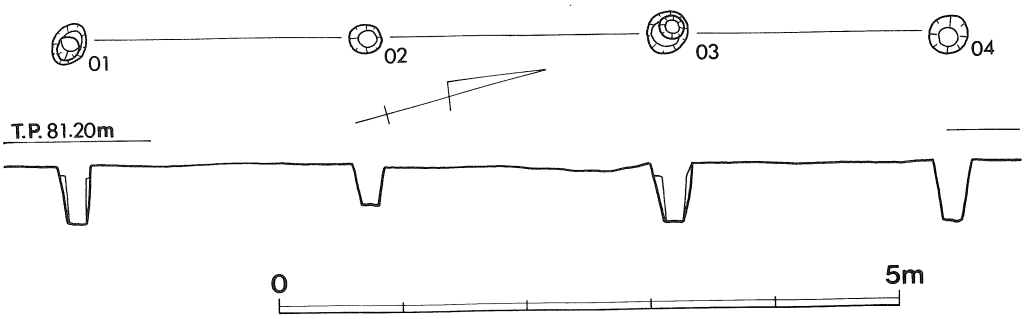


fig. 50　掘立柱建物実測図

出土遺物　出土遺物には、古墳時代後期初頭の須恵器・土師器・製塩土器と平安時代後期の須恵器・土師器がある。量的には、前者が圧倒的多数を占める。現状では、未整理であるが、多量の須恵器・土師器とともに、製塩土器が検出されている。

製塩土器はいずれも小片であるが、器高 10 cm、口径 5 cm前後の器壁の薄いものである。これまで内陸地で出土する製塩土器は、当地で製塩を行ったものではなく、海岸部で精製された塩をこの土器に入れて持ち運んできたものと言われており、当資料も同様の性格を有するものと考えられる。伴出した須恵器は、陶邑の田辺編年の TK 23 ～ 47 型式に併行するものと考えられる。

3．まとめ

今回の調査では、調査区ほぼ全域にわたって、古墳時代後期初頭の集落が確認できた。これまでに明石川上流域で行われた発掘調査では、押部谷町押部に所在する押部遺跡において、古墳時代前期初頭から後期初頭にかけての集落が昭和 59 年～ 62 年度の調査で確認されており、これに次ぐ古墳時代後期初頭の集落の発見例となった。

なかでも、方形竪穴住居や掘立柱建物の確認は、集落の中心地と考えられ、建物と墓地（木棺墓）が近接して営まれていることも、当時の集落形態を知るうえで重要な資料と言える。

一方、平安時代後期の遺構では、掘立柱建物の一部を検出できたに留まるが、集落の存在は確実である。昭和 61 年度の西盛南遺跡の発掘調査では、対岸に位置する段丘上で鎌倉時代前半の溝状遺構が検出されており、さらに東に隣接している押部谷町福住の福住遺跡でも平安時代後半の集落の一部が確認されており、当該期の集落が点々と分布することが明らかとなった。

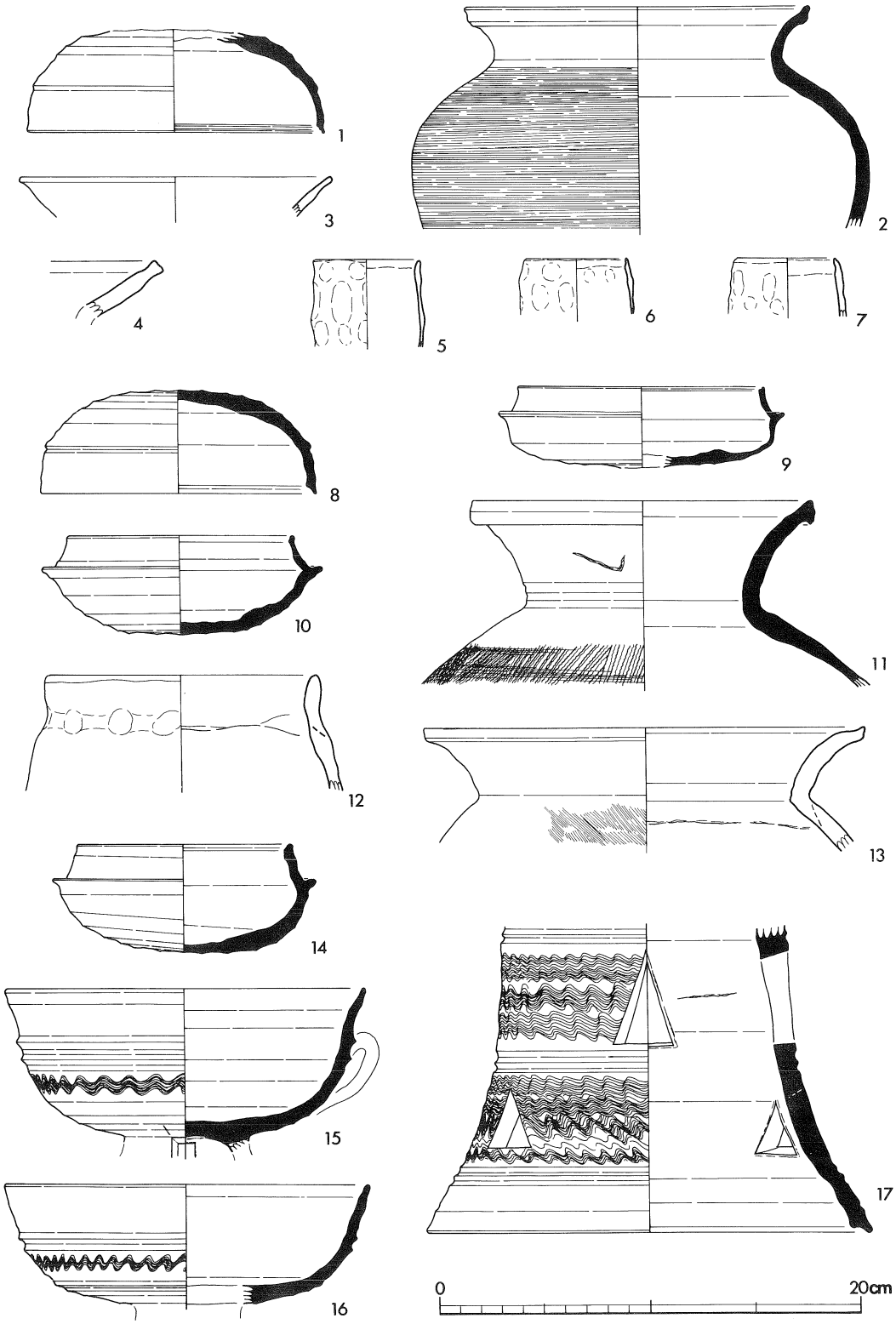


fig. 51　出土遺物実測図　　1～7　SB 01　　8～13　SK 01　　14～17　SX 03

4．堅田（かただ）遺跡

1．はじめに

昭和63年6月に西神中央線取付道路建設に伴い、工事の影響を受ける箇所について試掘調査を実施した。調査の結果、第1地点において奈良、平安時代の遺物、遺構が確認され、第2地点においては弥生、古墳時代の遺物が確認されたため、両地点において発掘調査を実施した。

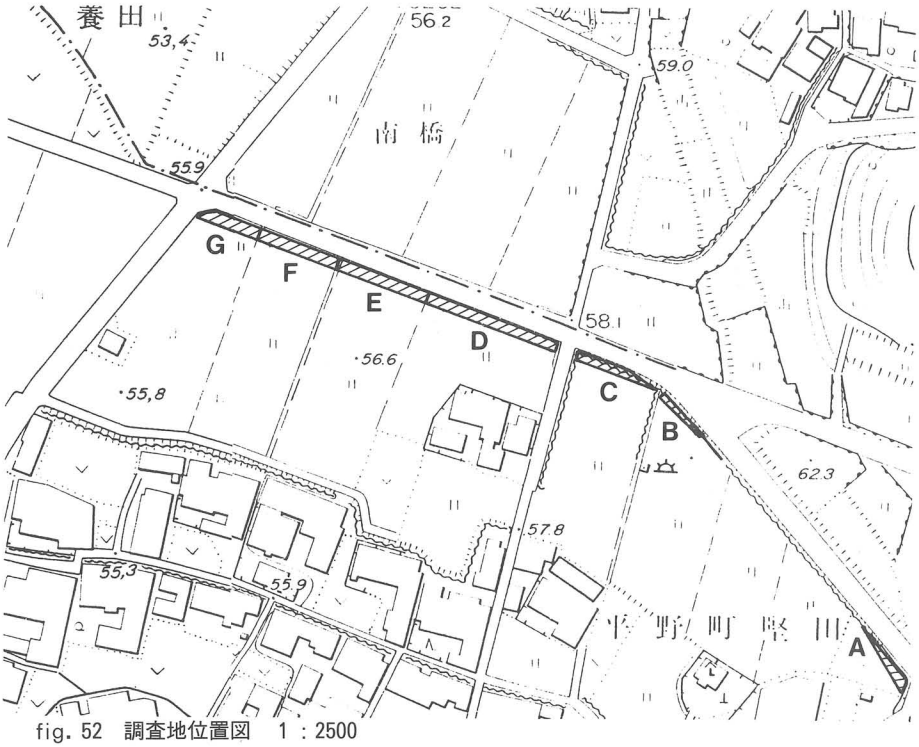


fig. 52　調査地位置図　1：2500

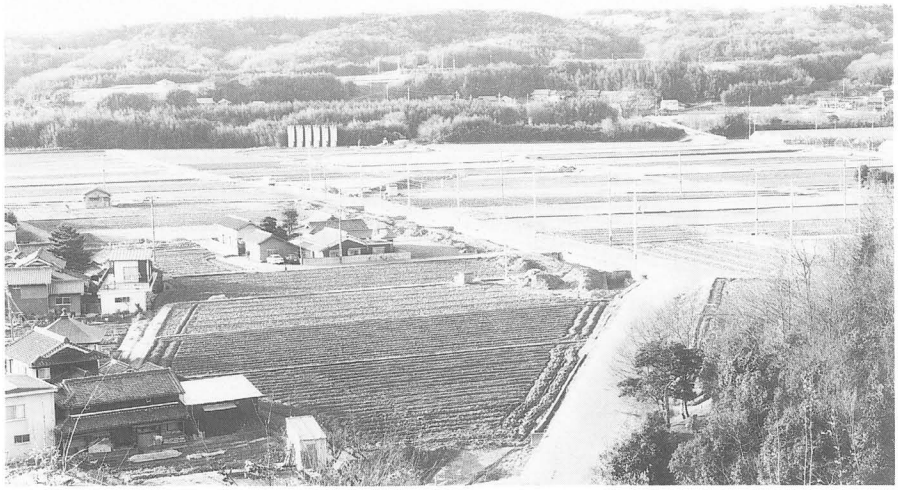


fig. 53　調査地遠景（東から）

2．調査の概要

当該地は昭和40年代に圃場整備事業が実施されていたため、現耕土下の埋蔵文化財に影響を及ぼしていると予想されたが、調査の結果、縄文時代から平安時代に至る遺構、遺物を比較的良好な状況で検出することができた。

第1地点

第1遺構面

遺物の出土量は少ないが、流路1・2・4は、縄文時代以降の遺物を含まないことから、当該時期の流路であると考えられる。

流路1　B区で検出した南西から北東に流れる幅約7m、深さ1mの流路である。埋土は23層に分層でき、埋土の大部分は砂礫層で占められる。暗褐色砂礫層（7層）上面より、縄文時代後期前葉の粗製深鉢、削器が出土し、暗褐色砂礫層（18層）中より宮滝式（縄文時代後期末葉）の土器片が少量出土している。

流路2　C区東端で検出した南西から北東に流れる流路で、幅約3m、深さ約40cmを測る。埋土は12層の堆積からなり、暗褐色砂質土層（10層）から、1個体と考えられる宮滝式の土器片が出土している。

流路3　C区中央で検出した南西から北東に流れる流路で、幅約1.8m、深さ60cmを測る。埋土は5層に分層でき、最上層の暗褐色砂礫層より、弥生時代中期の土器片が出土している。

流路4　E区西端で検出した流路で、南から北へ流れるものと思われる。この流路付近は南西から北東に流れる流路などが数条あり、明確な流路の形状などはわからない。

fig. 54　自然流路（西から）

縄文土器　今回の調査で出土した縄文土器は、そのほとんどが流路からの出土である。流路１からは後期前葉の粗製深鉢および宮滝式の深鉢片が出土している。流路２からは、接合しないが１個体になると思われる宮滝式の深鉢が出土している。流路４では後期末から晩期初頭の深鉢の口縁部が出土している。

弥生土器　今回の調査で出土した弥生土器は、すべて流路３から出土している。いずれも、畿内第Ⅲ・Ⅳ様式のものである。またⅢ様式の壺形土器の口縁部が表採されている。

石器　今回の調査で出土した石器・剥片類は、石鏃３点、削器１点、使用痕のある剥片１点である。流路１から出土した削器以外はすべて中世の包含層より出土している。

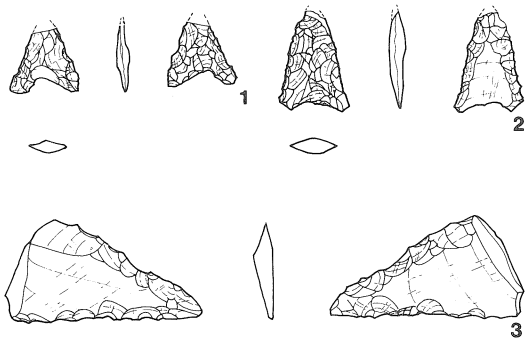


fig. 55　石器実測図（S＝⅔）

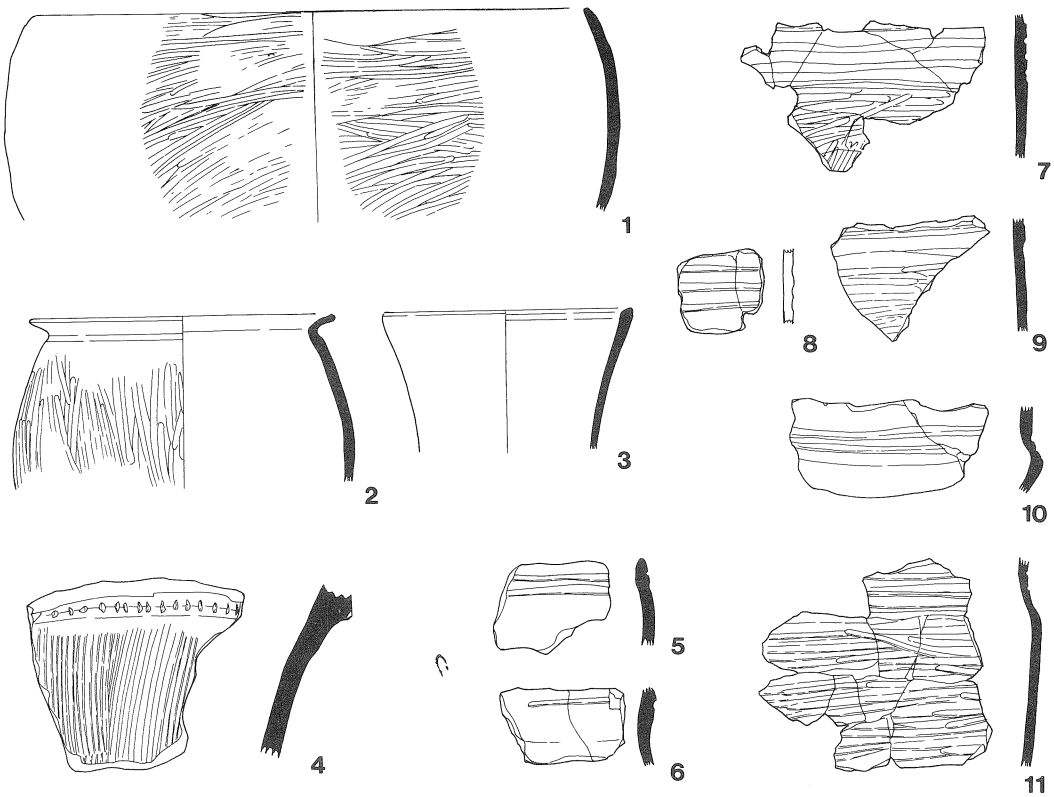


fig. 56　縄文・弥生土器実測図（２・３は¼、その他は½）

第２遺構面　古墳時代の遺構は、掘立柱建物３棟（SB 01 ～ 03）、土坑、用途不明遺構（SX 01）等である。調査対象地の制約により建物の規模は不明である。

E区
SX 01

幅約10ｍ、深さ約50cmの遺構で、土層の堆積状況より、２層に分層される。上層は黒灰色粘質土を主体とし、６世紀後半代の土器を包含する。最上層である黒灰色粘質土層中からは土器片の密な堆積がみられた。器種には、土師器甕の他に、須恵器坏蓋・坏身・甕・提瓶等がある。特に、提瓶は成形段階にできる穴をふさいだ痕跡が胴部両面にあり、製作技法上特殊な例である。また、出土した須恵器のほとんどが焼け歪んでおり、甕に坏身が熔着したものや窯体内で還元が良好に行われていないものもみられる。

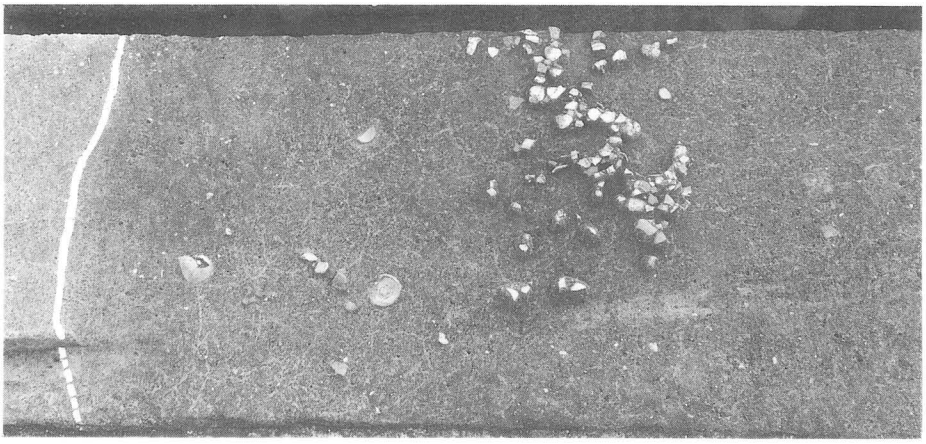


fig. 57　SX 01（北から）

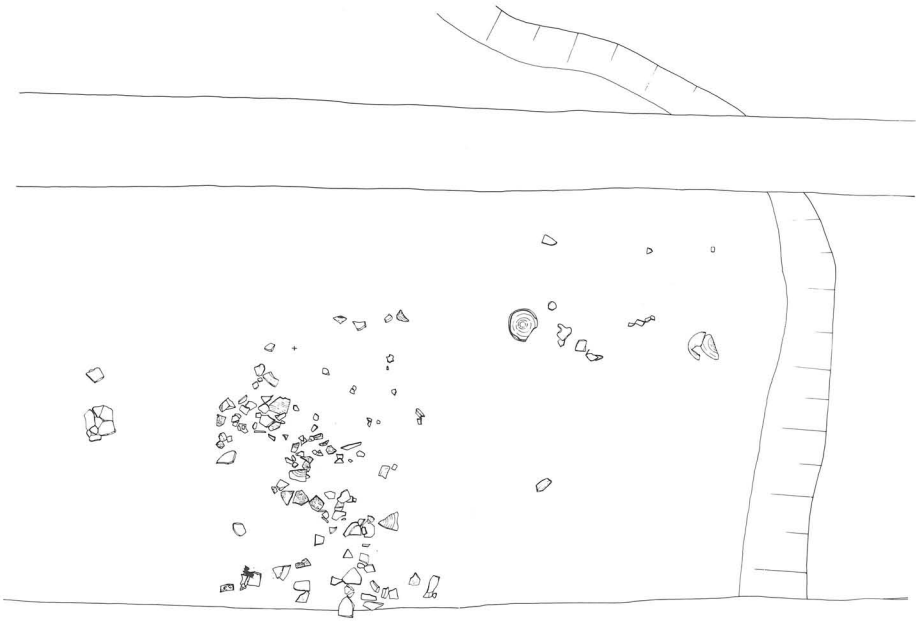


fig. 58　SX 01 平面図（S＝1/40）

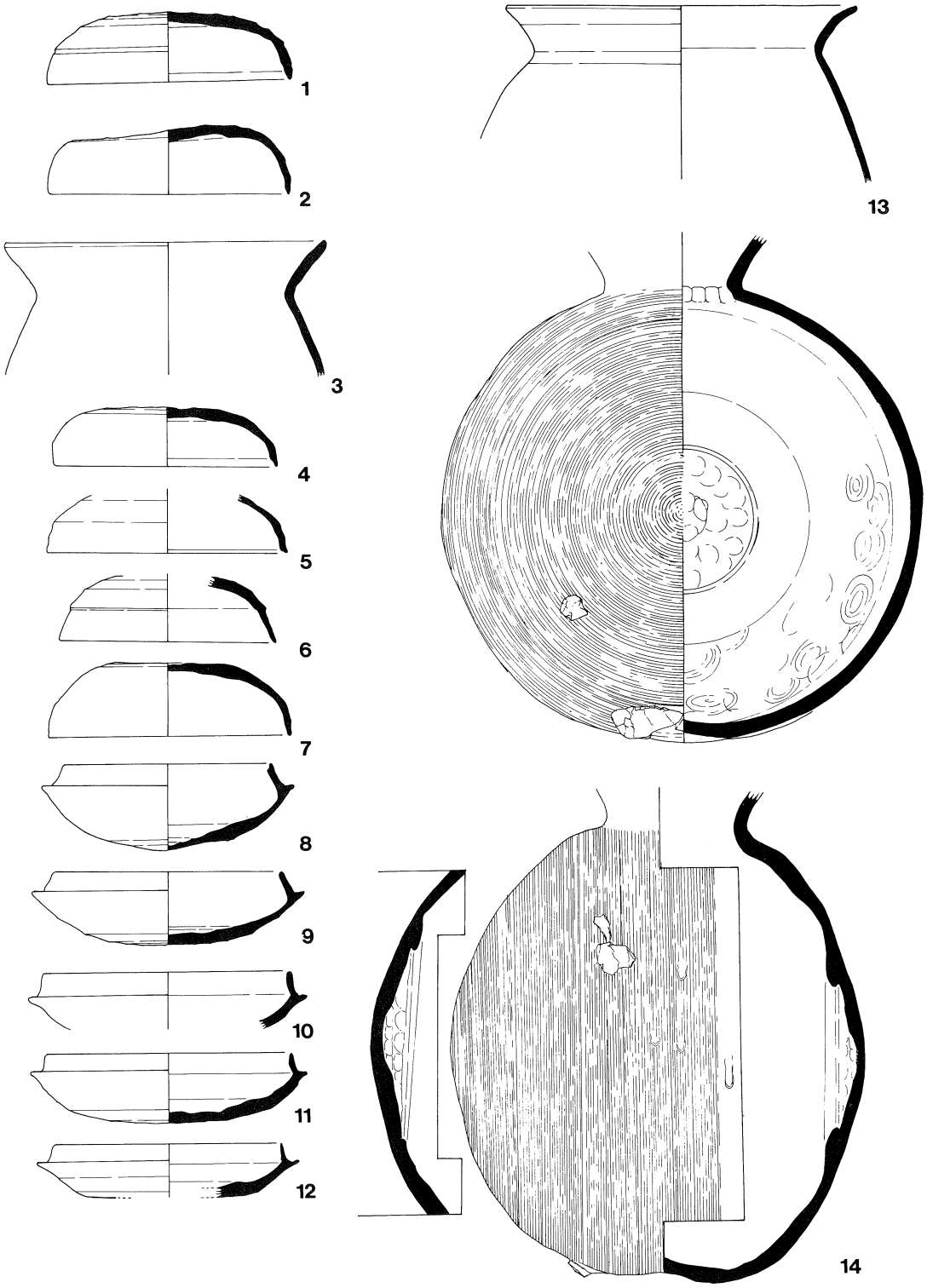


fig. 59　SX 01 出土遺物実測図（S＝¼）

下層は遺物を含まない間層をはさんだ砂礫層であり、土師器甕、須恵器坏蓋2点が重なって出土した。甕は胴部以下は失われているが、坏蓋は2点ともに完形である。これらの土器は、上層で検出された遺物との大きな時期差は認められない。

下層包含層を除去した段階で柱穴を4基検出したが、柱穴の配置に規則性は認められず、埋土から遺物は出土しなかった。当遺構が住居である可能性があるが、間層が流路の自然堆積により形成されており、当流路によって平面プランが影響を受けている可能性があることや、周壁溝の存在が確認できなかったことから遺構の性格を明らかにできない。

F区　　F区において掘立柱建物3棟を検出した。

SB 01　3間×1間以上の建物で、柱間は約140㎝である。柱痕の状況より直径15～20㎝の柱が復元できる。また、柱の沈下が認められるものもある。

SB 02　4間×2間以上の建物で、柱間は約150㎝である。柱が約40㎝沈下していた柱痕を確認した。

SB 03　1間以上×3間以上の建物で、柱間は約150㎝であるが、調査対象地の制約により建物の規模は不明である。

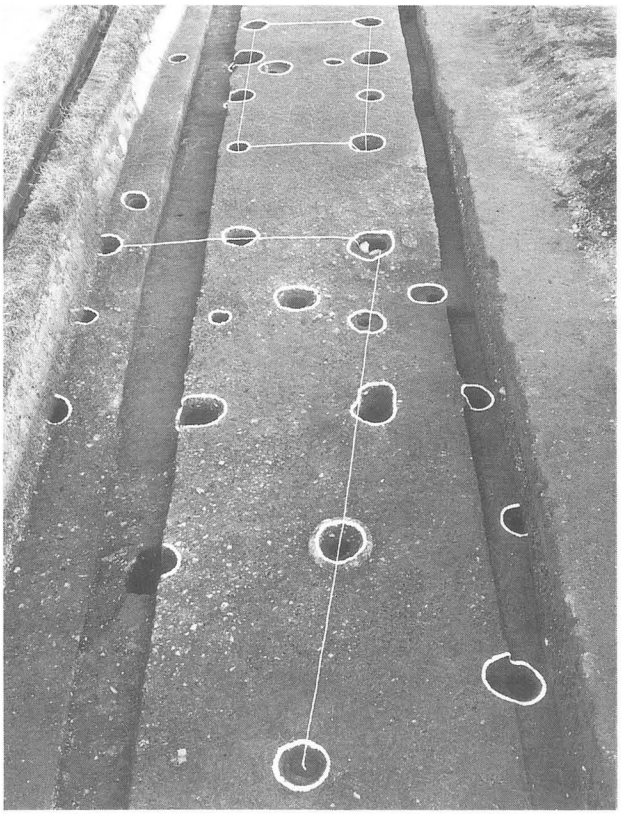


fig. 60　SB 01・02（西から）

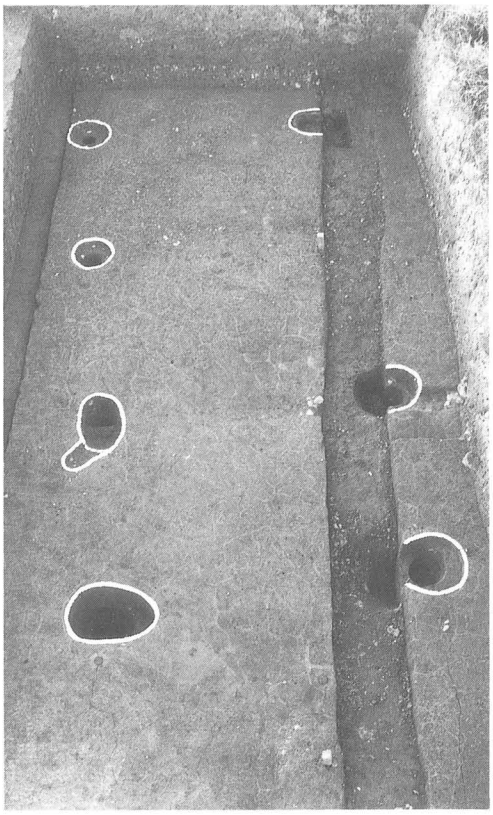


fig. 61　SB 03（東から）

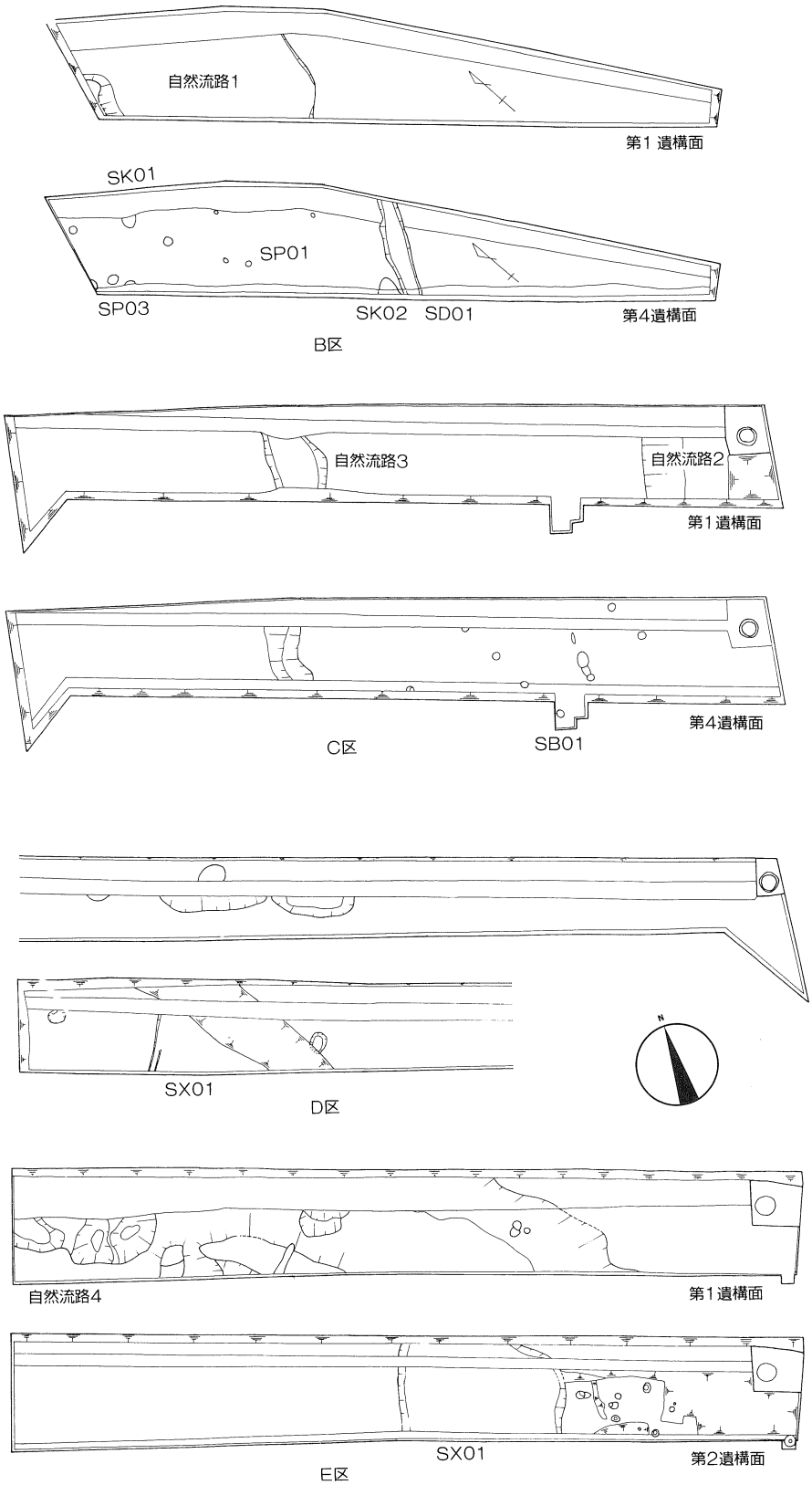


fig. 62
B～E区
遺構平面図
（S＝1/125）

第３遺構面　奈良時代の遺物は調査区全域から出土しているが、遺構面が確認できたのはＧ区である。

Ｇ区　ほぼ南北方向に流れる幅約 80 ㎝、深さ 80 ㎝の溝状遺構である。溝の肩

SD 01　部及び底から 10 ㎝程度上で土師器甕２点、皿１点、須恵器甕１点が出土した。溝の肩部で出土した須恵器甕の破片が、溝内の破片と接合することから、当地で投棄されたものと考えられる。遺物はいずれも奈良時代後半のものである。

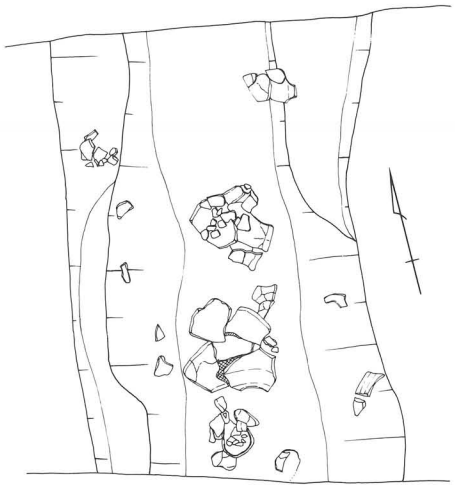


fig. 63　SD 01 平面図（Ｓ＝1/20）

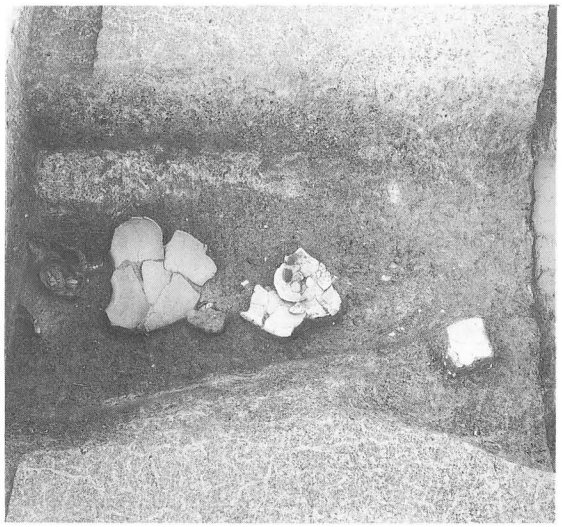


fig. 64　SD 01 下層土器出土状況（東から）

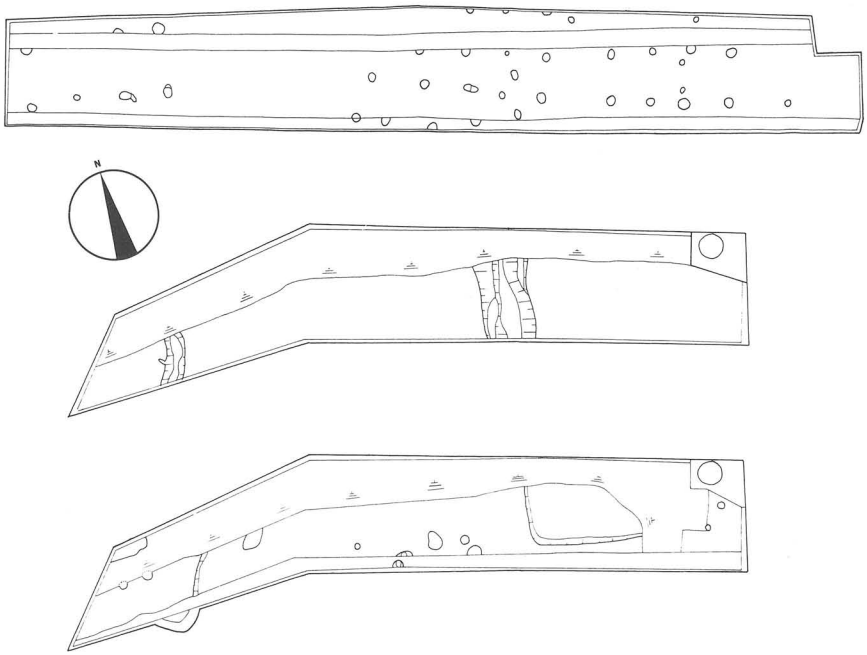


fig. 65　Ｆ・Ｇ区遺構平面図（Ｓ＝1/125）

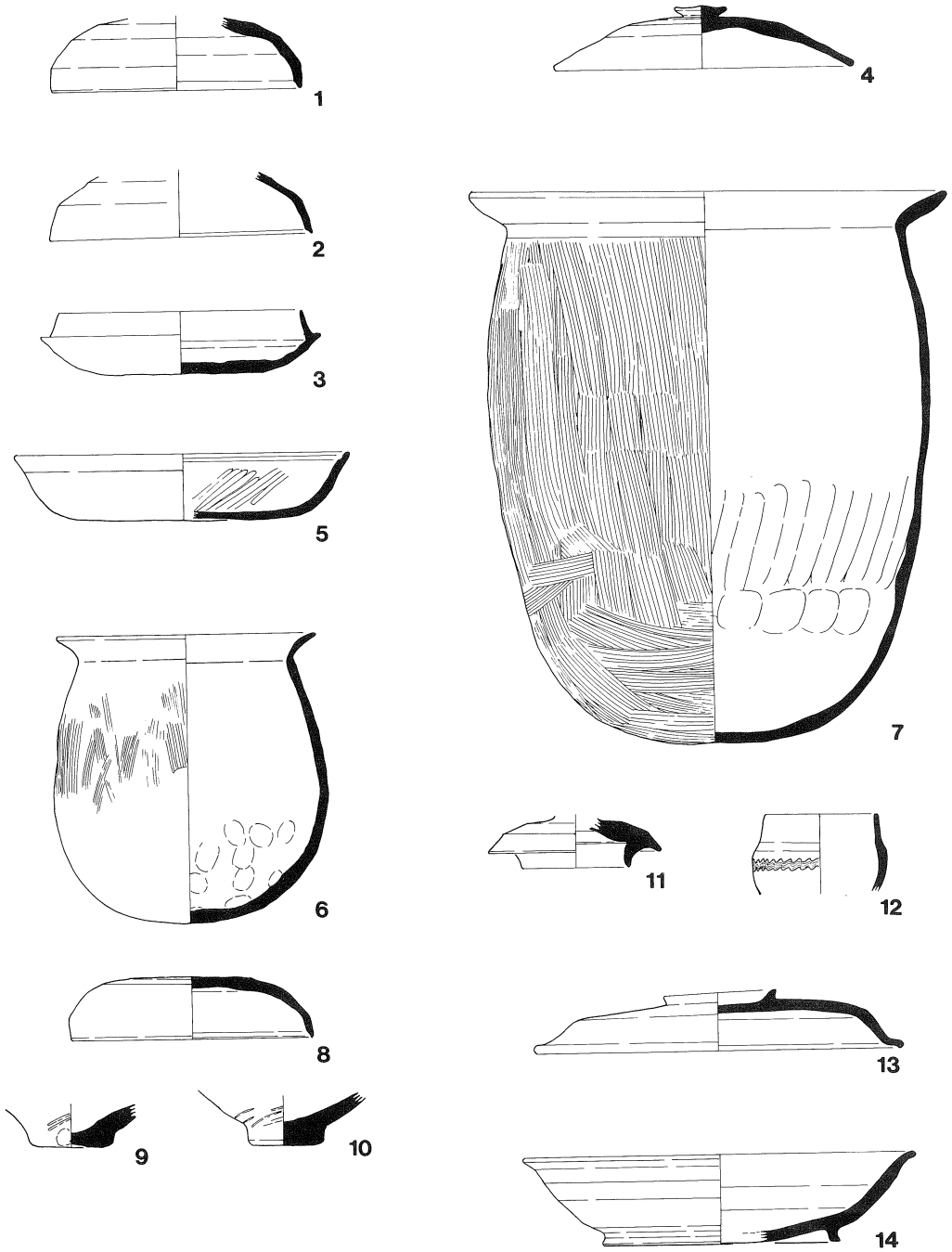


fig. 66　出土遺物実測図（S＝¼）1～3：E区包含層　5～7：G区 SD 01　8～14：第2調査地点　流土内

SP 01～05　　当区において柱穴を5基検出したが、建物の配置を明らかにできなかった。SD 01の西側に近接する柱穴の柱痕部分から須恵器坏蓋が出土した。出土状況より柱を抜き取った後、土器を埋めたと考えられる。他の柱穴から遺物は出土しなかった。

第４遺構面　12世紀後半から13世紀前半代の遺構面はＢ、Ｃ、Ｄ、Ｅ区で検出された。

Ｂ区　Ｂ区において溝状遺構、土坑、柱穴等の遺構が検出された。柱穴の検出状況から、建物の配置及び規模等については明らかにできなかったが、他の遺構とほぼ同一時期であると考えられる。

当区西側から東側に向けて緩やかに黄色粘土の地山面の標高が高まり、SD 01 付近から東側は、圃場整備以前の耕作により削平を受けているため、遺構は残存していない。

SD 01　Ｂ区で検出された溝状遺構で、幅 70 ～ 100 ㎝、深さ約 10 ㎝、ほぼ南北方向に流れる。

SK 01　直径約 60 ㎝、深さ約 15 ㎝の円形の土坑である。埋土より多量の焼土、炭が検出されたが、遺物は出土しなかった。

SK 02　幅 50 ㎝、長さ 80 ㎝以上の土坑である。切り合い関係から SD 01 より新しい時期のものである。埋土は２層に分層でき、上層の暗茶褐色粘質土層から、12 世紀後半代の須恵器埦、土師器皿等の土器や焼土、炭が出土した。下層から遺物は出土しなかった。

SP 01　掘形径約 30 ㎝、柱痕径約 20 ㎝の柱穴である。掘形埋土及び柱痕埋土より須恵器埦が出土しているが、両者に明確な時期差は認められない。

SP 03　掘形径約 30 ㎝、柱痕径約 15 ㎝の柱穴である。南東に溝状に延びる浅い落ちこみを伴い、掘形と同一の埋土を持つ。柱痕部より出土した遺物は、土師器片の他に木質が錆に取り込まれて残存している鉄製品が出土している。両端が欠損しており形状は不明であるが、断面がＶ字形であるため、刀子または鎌の一部である可能性がある。

Ｃ区　土坑、掘立柱建物等が検出された。当遺構面は西側へ緩やかに傾斜し当区の中央部付近で１段低くなる。

SB 01　３間以上×３間以上のプランを持つ掘立柱建物である。SK 04 は建物に伴う可能性があるが、柱穴を掘削する以前に存在した SK 03 と建物の関係は不明である。

SX 01　長さ約 30 ㎝、幅約 40 ㎝、深さ約 20 ㎝の不整円形の落ち込みである。焼土塊、炭が少量出土したが遺物は検出されなかった。

Ｄ区　当区の遺構面はわずかに西側へ傾斜するが、ほぼ水平である。土坑、溝等の遺構が検出された。

SK 01 ～ 03　土坑を３基検出したが、埋土から遺物は出土しなかった。

SX 01　調査区西側において検出した用途不明遺構である。幅約 20 ㎝、深さ約 15 ㎝の溝状の遺構を伴う。圃場整備以前の溝により影響を受けており、遺構の規模、性格は不明である。

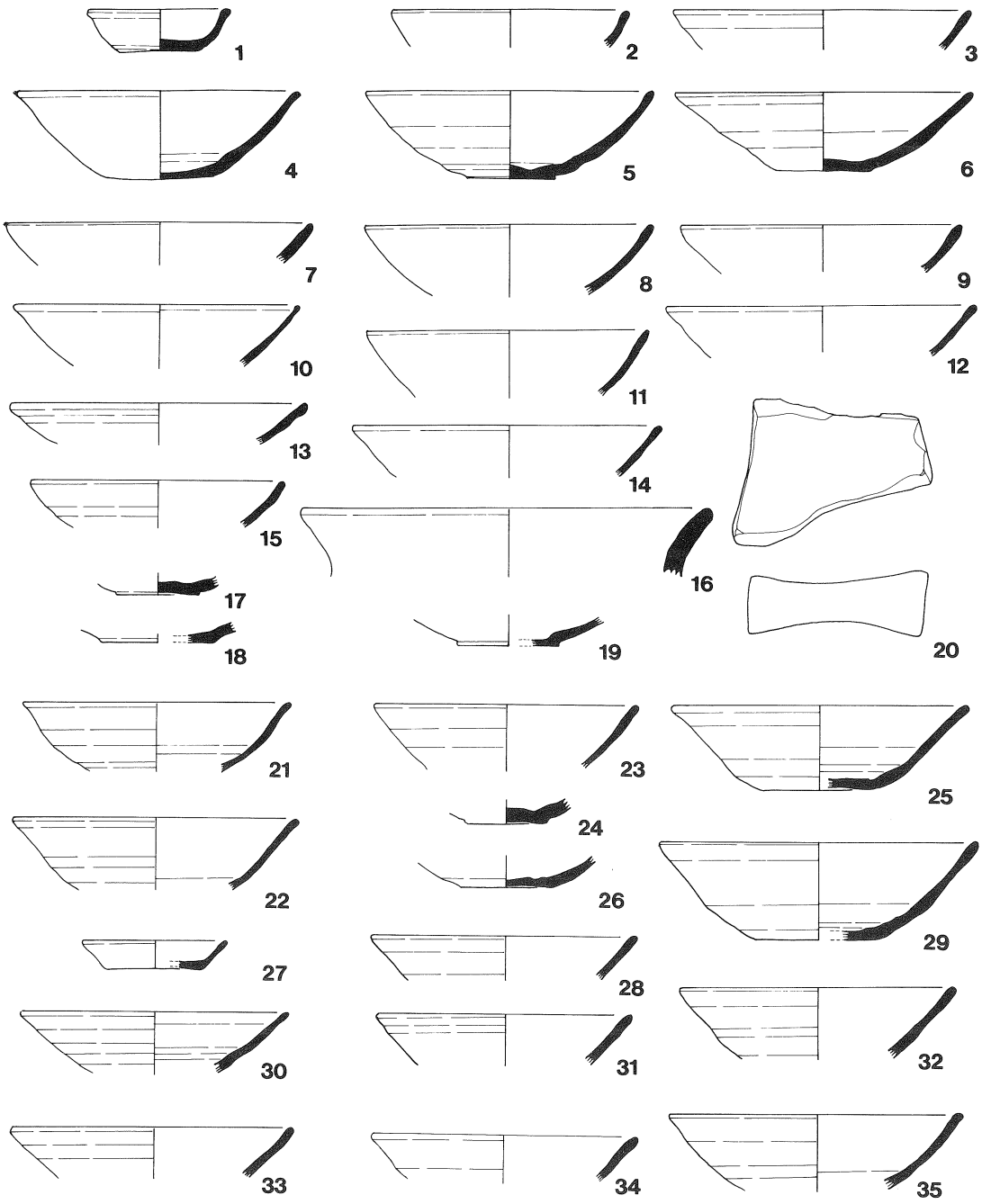


fig. 67　B区出土遺物実測図（S＝¼）　1～20　SK 02　21・22　SP 01　23・24　SP 02
25　SP 05　26～35　包含層

E区　　E区の東側は、パイプライン設置時にかなり地下に影響を及ぼしているため遺構面の残存状況は悪い。検出された遺構は柱穴及び不整形の土坑である。柱穴及び土坑から遺物は出土しなかった。

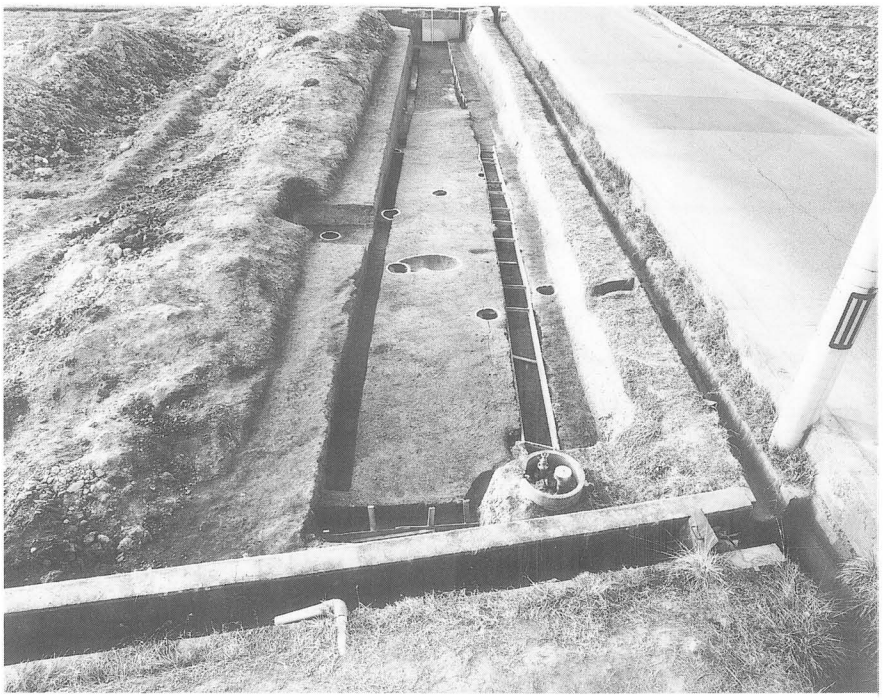


fig. 68　C区全景（東から）

3．まとめ

従来、堅田遺跡は古墳時代より始まる遺跡として知られていた。しかし、今回の調査では、縄文時代の遺物が少量ながら出土した。これらの遺物のほとんどがB区あるいはC区東端から出土しており、遺物の残存状態は良好である。また、石器は数量的には少ないが、石鏃以外に削器、使用痕のある石器などの生活に密着したものが出土している。以上のことから、今回の調査地では確認できなかった縄文時代後期の集落が、調査区の南東方向の傾斜変換点付近に存在する可能性が高いと考えられる。近接する養田遺跡においても滋賀里Ⅲ式の土器が出土しており、当地区が縄文時代後期から晩期にかけて、人々の生活の場であったことが想定される。

古墳時代後期の総柱の掘立柱建物の存在は、住居を検出することはできなかったが、堅田地区における古墳時代の集落の位置を示すものであり、変形または熔着した須恵器片の存在は、生産地に関係した集落であることを示すものかも知れない。調査面積の制約により、古墳時代における当遺跡の性格を明らかにできなかったが、須恵器の生産地の問題を含め、今後の課題となるであろう。

5．大畑（おおはた）遺跡

1．はじめに

宮前・大畑地区は、昭和44年度にすでに圃場整備事業が完了しているが、工事の際、多数の土器が出土したとされていた。このたび、あらたにパイプラインが施設されることになり、当該地に遺跡が残存している可能性があるため、昭和61年度から試掘調査を開始した。調査地は宮前地区と大畑地区にまたがって実施したが、圃場整備事業名が宮前地区とされていることから宮前遺跡として調査を実施した。今回報告を行う地区は字大畑に属しており遺跡名を大畑遺跡とした方が妥当との見地から、本報告では大畑遺跡として報告するものである。

大畑遺跡は明石川に合流する薬師谷川左岸の扇状地上に立地している。

大畑・宮前地区集落の散在する背後の丘陵上には、西神55地点遺跡（古墳時代）や西神56－57地点遺跡（弥生時代中期）・西神59地点遺跡（弥生時代中期）等が存在しており、丘陵下の大畑・宮前地区にはこの時期の遺跡の存在が予想された。

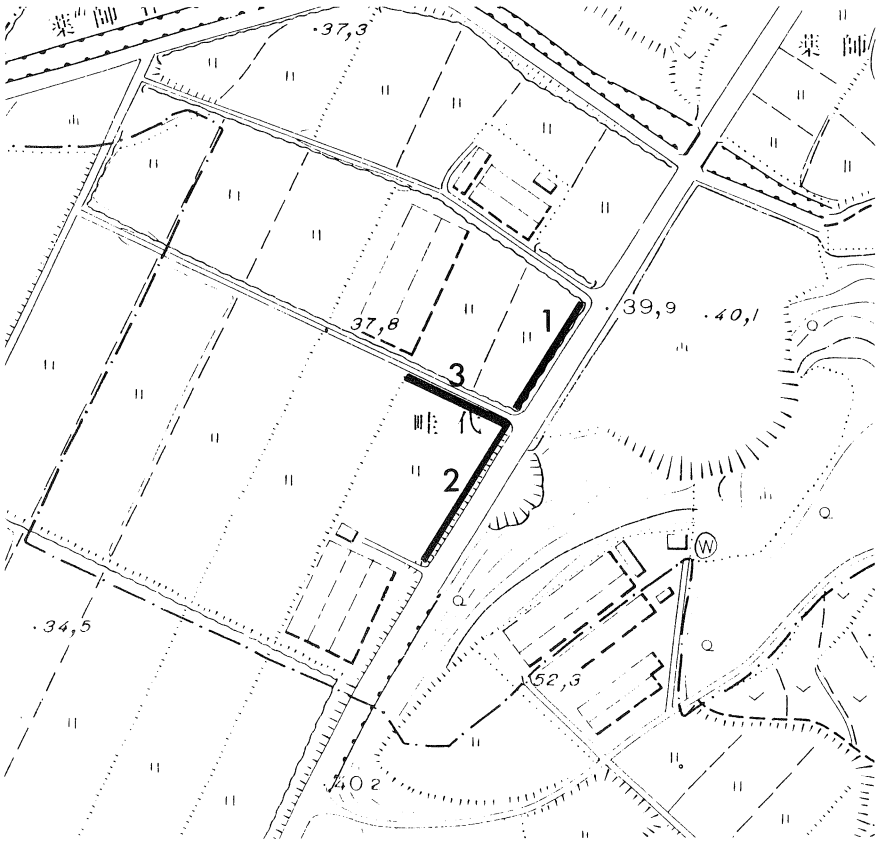


fig. 69　調査地位置図　1：2500

fig. 70　調査地全景（東から）

2．調査の概要

調査は春日神社の北西に広がる2か所の圃場で行った。

1トレンチ

幅1ｍ、長さ33ｍのトレンチを設定し層序に基づいて調査を行った。

上層　直径約0.8ｍの円形の土坑が検出された。その数は12基である。出土遺物には須恵器や土師器があるがいずれも細片である。おそらく中世のものと思われる。

下層　下層からは遺構が検出されなかったが、中世の遺構面を形成する灰褐色シルト層とこの層を切り込んでいる砂礫層に、多量の土器が含まれていた。これらの層は薬師谷川の洪水によって堆積したものと考えられ、1ｍ以上の厚さがあると思われる。中に含まれていた土器は弥生時代後期から古墳時代初頭のもので、堆積層の形成が短期間に成されたものと考えられる。

fig. 71　1トレンチ全景（南から）

fig. 72　1トレンチ遺物出土状況（南から）

fig. 73　2トレンチ遺物出土状況（北から）

2トレンチ　幅1ｍ、長さ50ｍのトレンチを設定して調査を実施した。

ほぼ全域が圃場整備工事による削平をうけ、中世の遺構は検出されなかった。南の一部で灰褐色シルト層が残存しており、土層中から土器が出土している。

3トレンチ　幅1ｍ、長さ33ｍのトレンチを設定して調査を実施した。

ほぼ全域が圃場整備工事による削平をうけ、遺構・遺物ともに検出されなかった。

3．まとめ

今回の調査において中世の遺構を検出した。また、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が多量に出土した。この下層出土遺物を含む堆積層は、もともとが水成層であり、薬師谷川の氾濫による堆積と土壌化によって形成されたと考えられる。出土した土器は土器の状態や出土状況からみて、かなりの距離を流されてきたとは考えられず、一括投棄されたか何らかの理由でそこにおきざりにされたものが埋没したものと考えられる。このような見地から当地区が集落内部か何れにしろ生活区域内と考えるのが妥当と思われる。

下層出土遺物の器種は甕・壺・高坏・器台などがその大半を占めている。なお土器型式はある程度の時期幅をもっており、2～3型式に細分が可能である。

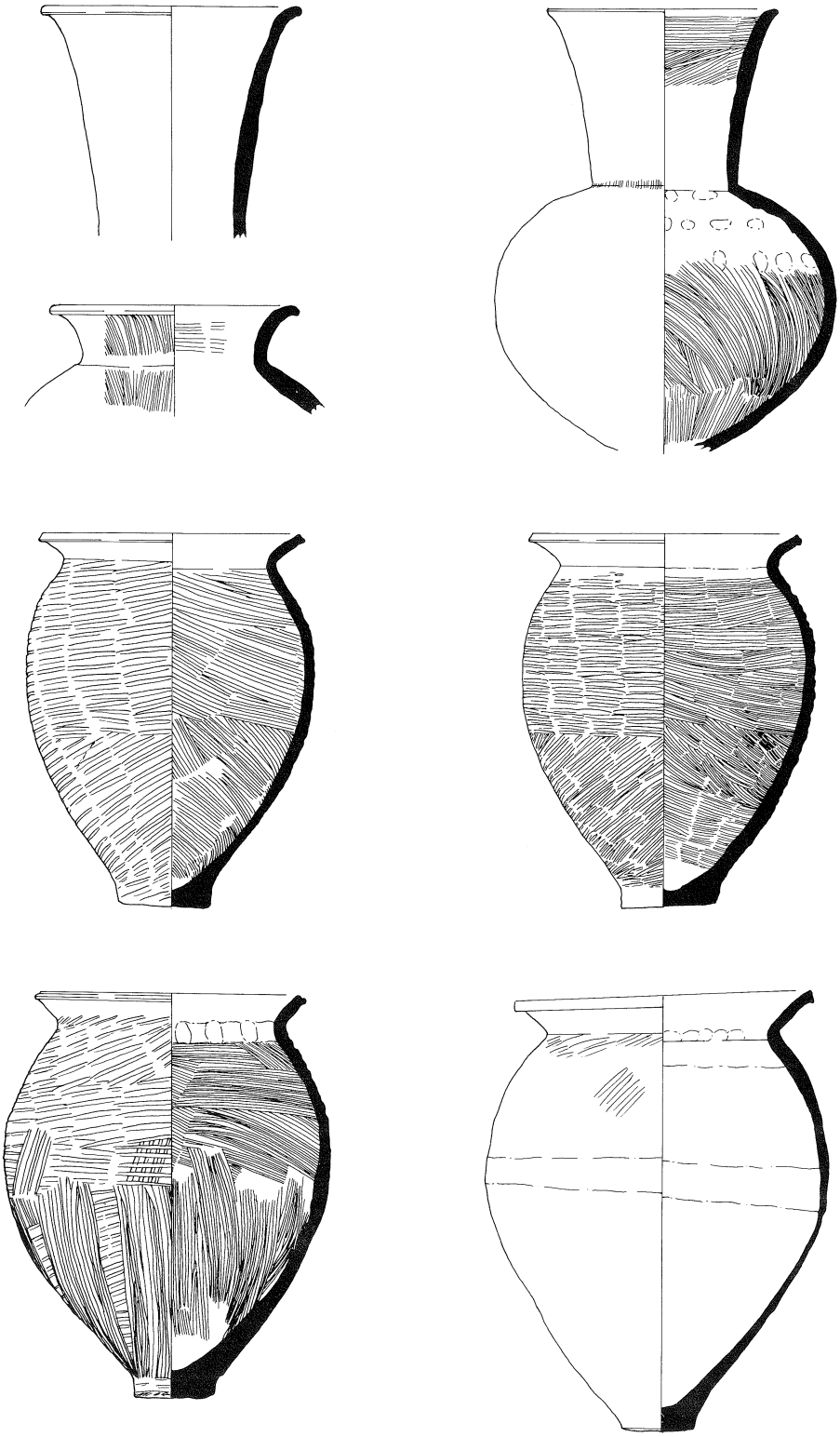


fig. 74
遺物実測図(1)
（S＝¼）

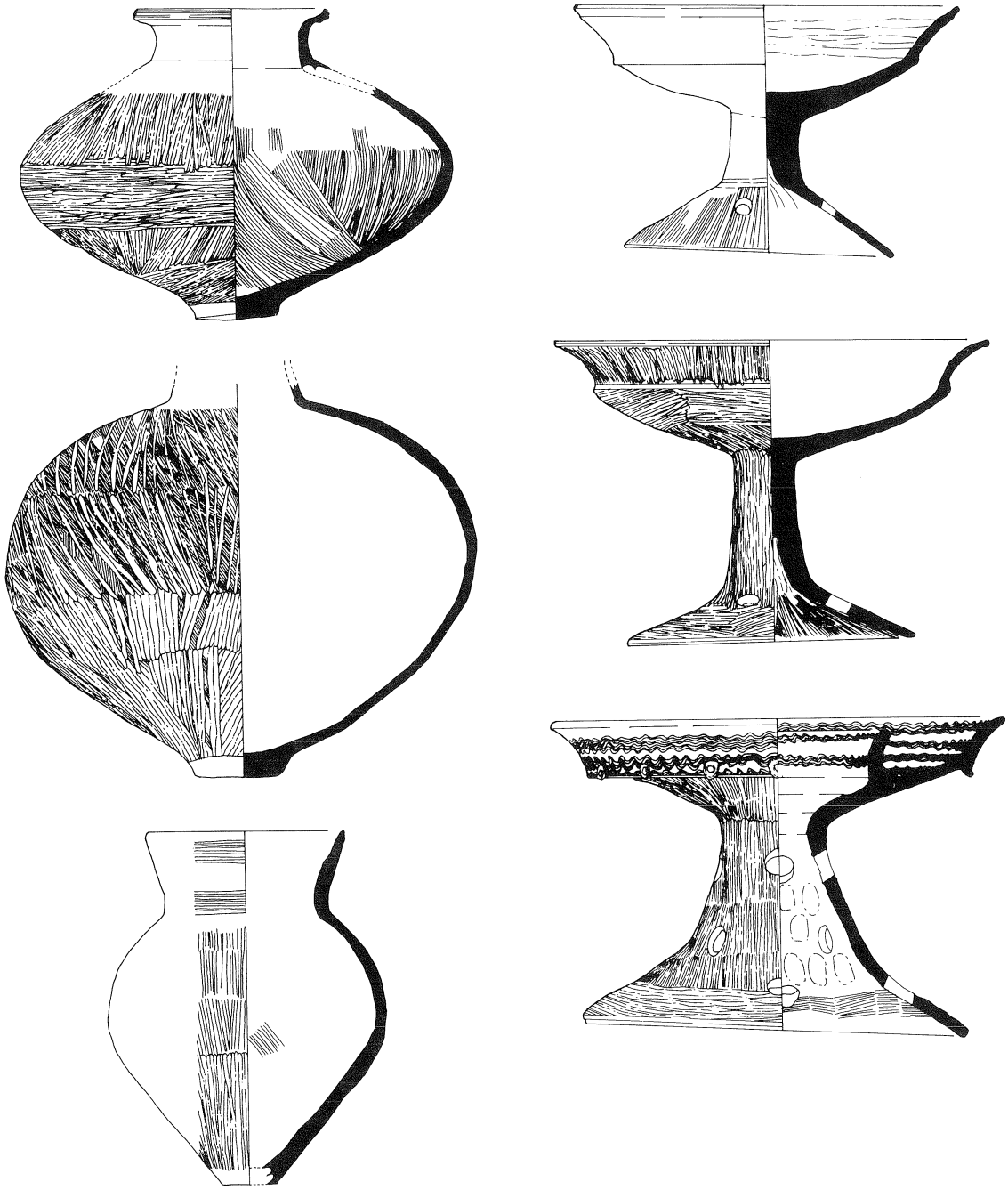


fig. 75　遺物実測図(2)（S＝¼）

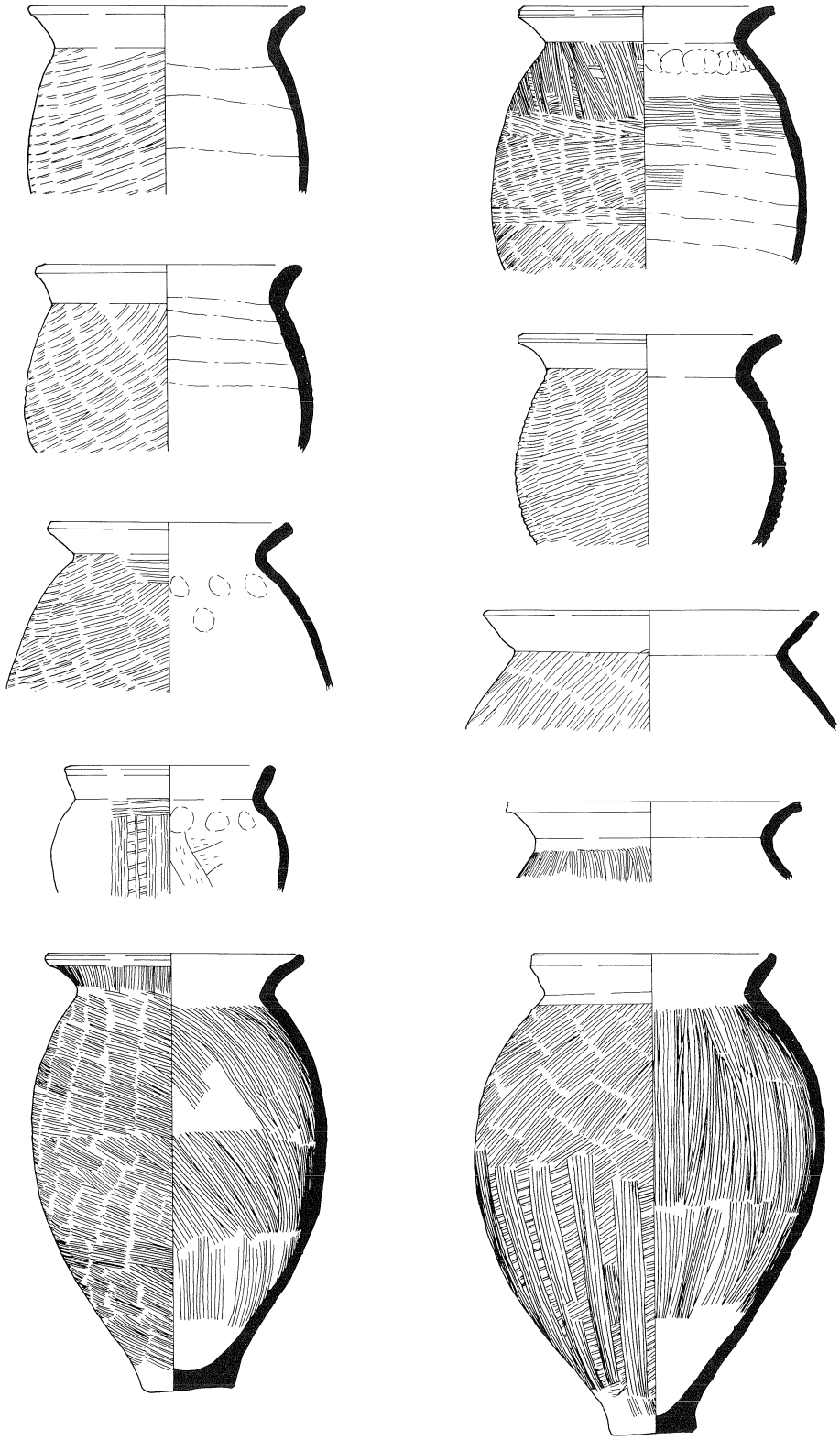


fig. 76
遺物実測図(3)
（S＝¼）

6．印路（いんじ）遺跡

1．はじめに　当遺跡は、明石川中流域右岸の沖積地に存在する。福地川を隔てて北側には西戸田遺跡（弥生時代前期・古墳時代後期）、さらに北方には常本遺跡（弥生時代前期・後期）、黒田遺跡（古墳時代）などが存在する。明石川をはさんだ南方には、玉津田中遺跡（弥生時代・古墳時代・中世）や、居住遺跡（弥生時代・古墳時代・中世）が広がり、西方丘陵上には、中村群集墳・印路群集墳などが分布する。

2．調査の概要　試掘調査の成果に基づいて、設計変更後も埋蔵文化財を保存できない排水路敷およびパイプライン敷部分について、トレンチ調査を実施した。

調査区は、便宜上、現水田畦畔、水路などで分割設定し、1～15トレンチとした。

1トレンチ　幅約2m、長さ約30mの東西方向のトレンチである。基本層序は、現代耕土（20cm）、淡黄灰色粘性砂質土（60cm）、黄褐色粘性砂質土（10cm）、暗茶褐色粘性砂質土（25cm）、暗黄褐色砂、灰色礫混砂である。

fig. 77　調査地位置図　1：5000

検出した遺構には、古墳時代後期の竪穴住居・溝・ピットなどがある。

SB 01　後述のSB 02に切られている竪穴住居で、一辺4mの方形住居と考えられる。東壁はSB 02によって、西壁はSD 03に切られているため残りが悪く、ピットは確認できなかった。古墳時代後期の須恵器片、土師器片が出土している。

SB 02　トレンチの西半で検出した一辺5mの方形の竪穴住居と推定される。柱穴と考えられるピットを2基検出した。周壁溝は東壁のみで確認した。また、西半では炭化物の散布が認められる。遺物としては、暗茶褐色の埋土から古墳時代後期の須恵器坏身、土師器甕等が出土した。

SD 02　トレンチ西端で検出した幅約80cm、深さ約20cmの溝である。遺物は古墳時代後期の須恵器坏蓋が出土した。

SD 03　トレンチに直交する幅約1m、深さ約40cmの溝である。埋土上層より古墳時代後期の須恵器坏身・坏蓋・高坏、土師器片が出土した。

fig. 78
1トレンチ
SB 01・02全景
（南西から）

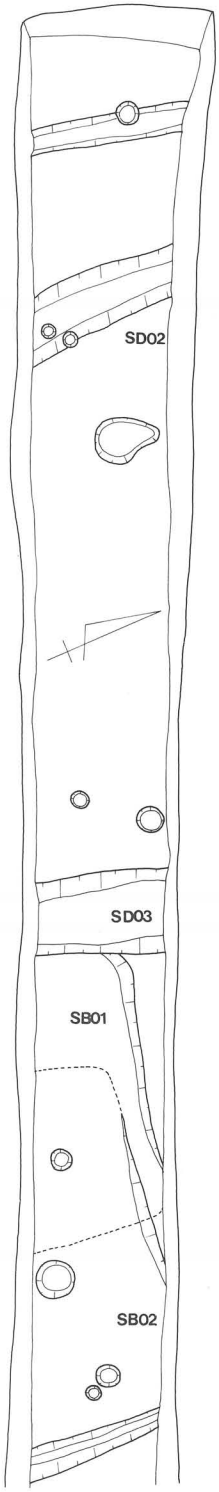


fig. 79　1トレンチ
遺構配置図（S＝1/100）

fig. 80　1トレンチ SD 03 遺物出土状況（南東から）

fig. 81　3トレンチ全景（西から）

2トレンチ　1トレンチの東側に接する幅約2ｍ、長さ約38ｍの東西方向に延びるトレンチである。遺物包含層より古墳時代後期の須恵器、土師器が多く出土したが、明確な遺構の検出には至らなかった。

3トレンチ　2トレンチの東側に接する幅約2ｍ、長さ約28ｍの東西方向に延びるトレンチである。基本層序は、耕土・黄褐色土・灰褐色砂・黄褐色細砂である。

上層より、古墳時代後期の須恵器、土師器をはじめとし、中世の遺物も出土したが、遺構は検出されなかった。黄色砂の堆積が著しく、洪水の影響を受けているものと考えられる。

4トレンチ　幅1.5ｍ、長さ20ｍのトレンチである。東半部の礫層上面で古墳時代後期の須恵器坏片・提瓶片が出土した。遺構は確認されなかった。

5トレンチ　用水路をはさんで4トレンチの東側に位置する幅1.5ｍ、長さ約14ｍのトレンチである。遺構はなく、遺物も若干出土したにとどまった。

6トレンチ　幅約2ｍ、長さ約22ｍのトレンチである。基本層序は、現代耕土（25㎝）、礫層（25㎝）、淡灰黄色粘性砂質土（35㎝）、灰色粘性砂質土（15㎝）、暗褐色砂質土（15㎝）、灰褐色粗砂（30㎝）、黒褐色粘性砂質土（弥生土器包含）である。

トレンチ西端で、調査区に直交する溝を3条検出した。それぞれ、幅約60～80㎝、深さ30㎝前後で、遺物は出土しなかった。検出面より判断して、古墳時代以降のものと考えられる。

7トレンチ　6トレンチの東に接する、幅1.5ｍ、長さ約18ｍのトレンチで、基本層序は6トレンチと同様である。

古墳時代後期の遺構面が存在するが、明確な遺構を確認することはでき

なかった。また、弥生時代の遺物包含層も存在するが、遺構は確認されなかった。

トレンチの東半で、谷部に砂の厚い堆積がみられた。遺物は含まないが、古墳時代の面を切り込んで形成されていることから、当該期以降に埋没したものと考えられる。

8トレンチ　幅約1.5 m、長さ20 mのトレンチである。基本層序は7トレンチと同様であるが、最下層は暗青灰色粘性細砂～暗灰色砂となる。

SX 01　暗茶褐色土・黒褐色土を埋土とする遺構である。調査区内での幅は5 m、深さ約60 cmの遺構である。

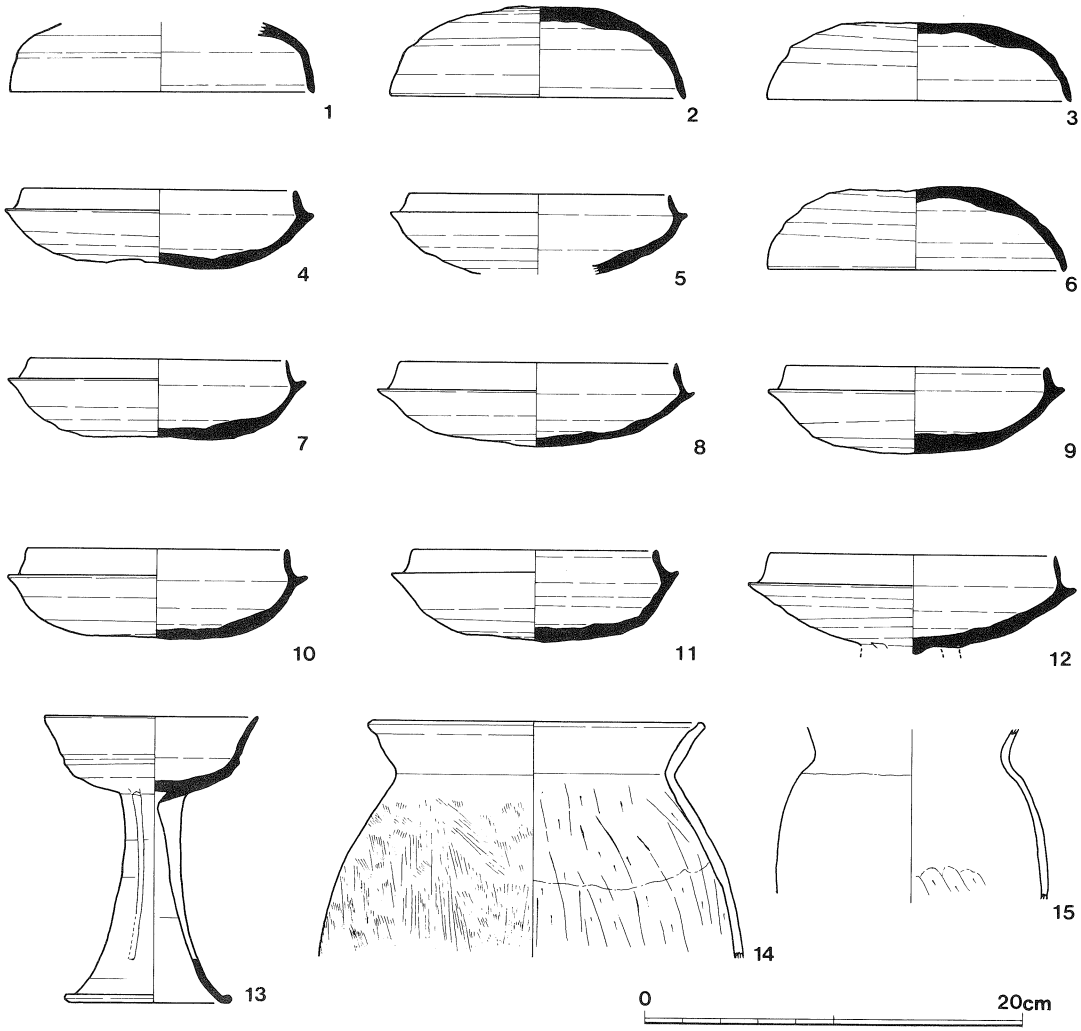


fig. 82　出土遺物実測図
1、4、5、14、15：1トレンチSB 01　2、3：1トレンチSD 02　6、9、12：1トレンチSD 03
7：1トレンチ　8：2トレンチ　10：7トレンチ　11：8トレンチ

弥生時代前期の甕・壺・高坏・蓋・紡錘車、サヌカイト片などが出土している。土器は小破片が多く、甕のヘラ描沈線文が5条までに限られることや、壺に削り出し突帯がみられることから、畿内第Ⅰ様式中段階以降に位置づけられる資料と言える。

SD 07　調査区を斜めに横切る幅1.4ｍ、深さ40ｍの溝である。遺物は出土していない。古墳時代と考えられる面から切り込んでおり、当該期の遺構と想定される。

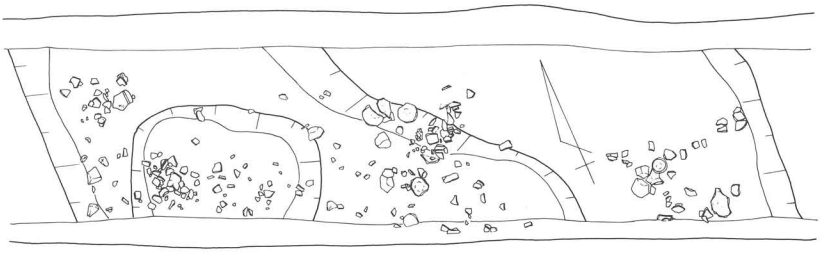


fig. 83　8トレンチ SX 01 遺物出土状況（S＝1/50）

fig. 84　8トレンチ SX 01 全景（東から）

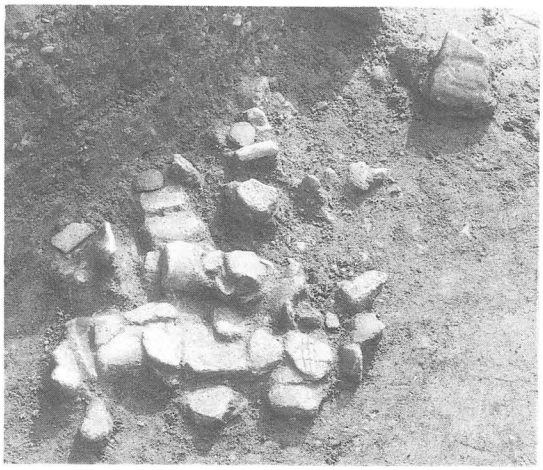


fig. 85　8トレンチ SX 01 弥生土器出土状況（北東から）

9トレンチ　幅1.5ｍ、長さ約8ｍのトレンチである。基本層序は8トレンチと同様である。黒褐色粘性砂質土より、弥生時代前期の土器が出土したが、遺構は確認できなかった。

10トレンチ　幅1.5ｍ、長さ5ｍのトレンチである。基本層序は9トレンチと同様であるが、湧水が激しく、工事影響レベルの礫層上面で掘削を終了した。

11トレンチ　幅2ｍ、長さ約25ｍの南北方向に延びるトレンチである。淡黄褐色系の粘性砂質土が1ｍ堆積し、暗灰色粘土、青灰色粘土となり、遺構は検出されなかった。上層より中世の須恵器・土師器が少量出土した。

12トレンチ　東西方向の幅1.5ｍ、長さ約40ｍのトレンチである。中世の鍋片等が出土したが、遺物量は少量である。11・12トレンチの遺物の出土状態は、二次堆積の可能性が強い。

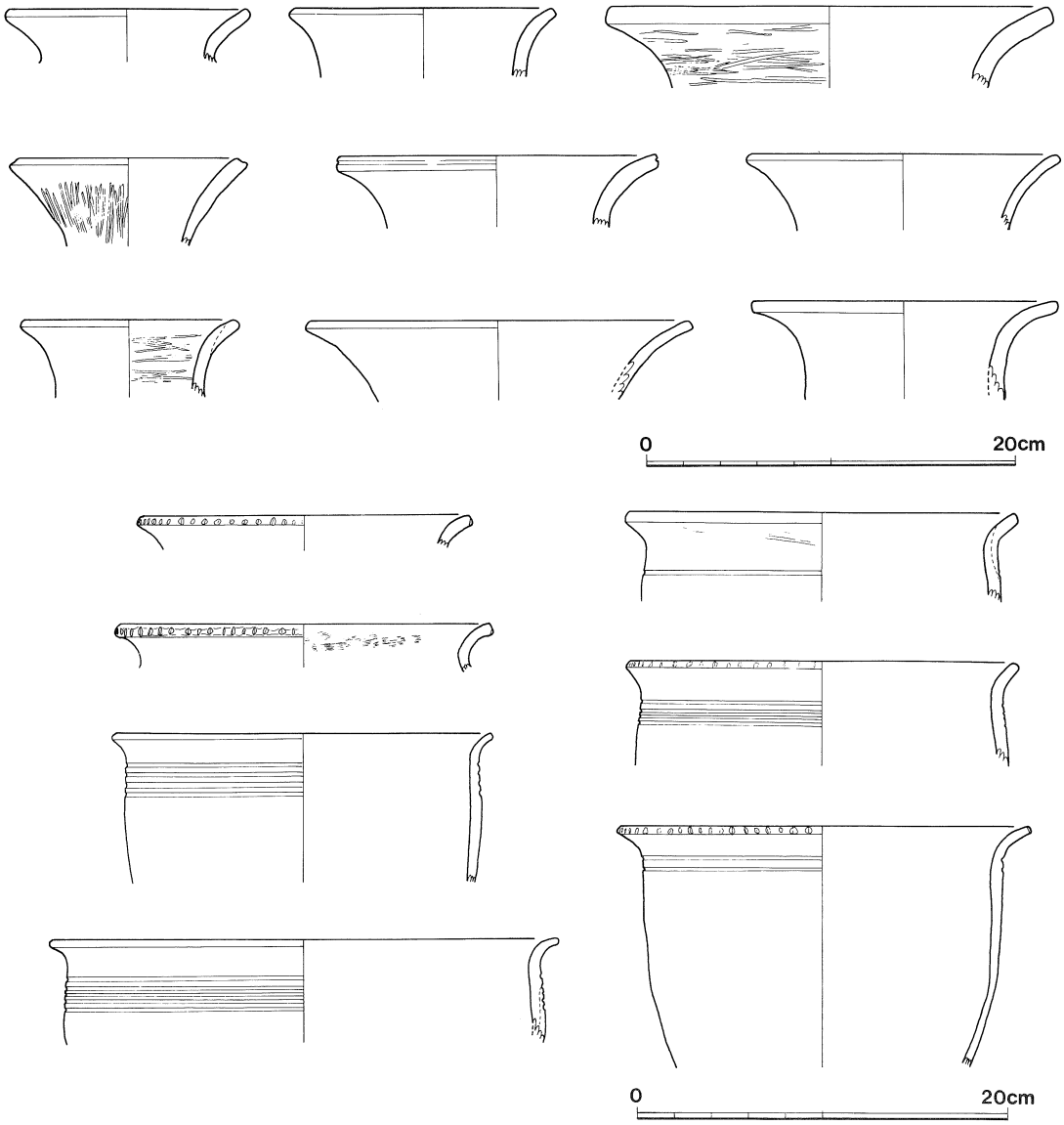


fig. 86　8トレンチ SX 01 出土遺物実測図

fig. 87　8トレンチSX 01
出土遺物拓影（S＝¼）

13トレンチ　幅2m前後、長さ70mのトレンチである。青灰色細砂あるいは淡黄色粘土を基盤層としており、直上に遺物包含層の黄灰色砂質土が認められる。遺構は確認できていない。

出土遺物は12世紀後半～13世紀前半のもので、出土量は少量である。

14トレンチ　幅約2m、長さ70mのトレンチである。トレンチがちょうど丘陵末端部にはさまれた谷部を横断する形となっており、トレンチ中央部で現地表面からの深さ約1.8mである。谷部を最初に埋積した暗灰色粘質土および遺物包含層である灰色～暗灰色粘質土には、8世紀後半・13世紀前半

の須恵器・土師器を含んでいることから、当該期に埋没が始まったと考えられる。トレンチ北端部では、直径約80㎝のピットを2基検出している。谷部の埋没状況も考えあわせると、さらに西北の上位部に集落が立地するものと考えられる。

fig. 88　14トレンチ全景（北から）

15トレンチ　東西方向に延びるトレンチである。黄褐色砂礫を基盤層として、直上に遺物包含層である厚さ約15㎝の灰色砂質土が認められる。遺構は確認できなかった。

出土遺物には、6世紀後半の須恵器・土師器、12世紀前半～13世紀の須恵器・土師器がある。

3．まとめ

7～9トレンチでの弥生時代前期中段階の土器の出土は、明石川流域における弥生時代の始まりを考える上で、資料的価値は高い。近接する時期に営まれた玉津田中遺跡をはじめとする他遺跡との関連の中で、重要な資料となる。

古墳時代後期の竪穴住居の検出は、今回の調査範囲では西北部に限られているが、7・8トレンチでも、同時期の遺物がほぼ完全な形で出土しており、今年度の調査範囲西半で当該期の集落が形成されていたと想定できる。あわせて、西方丘陵上に存在する印路群集墳の造営主体を考える上で、貴重な資料である。

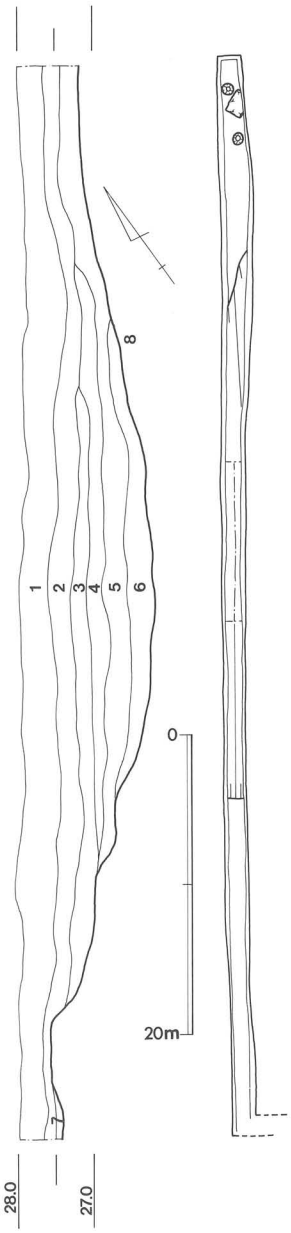


fig. 89　14トレンチ
平面・断面図

1．床土・盛土
2．淡黄灰色シルト混じり細砂～細礫
3．灰色シルト質極細砂～細砂
4．灰色シルト質細砂～細礫
5．灰色～暗灰色シルト質極細砂～小礫
6．暗灰色シルト質極細砂～細礫
7．灰色シルト混じり細砂～細礫
8．青灰色細砂～小礫

7．居住（いすみ）遺跡　第8次調査

1．はじめに

居住遺跡は、明石川の左岸に位置する遺跡で、河岸段丘および自然堤防上に立地する。今回の調査地点は、現地表で標高13 mの自然堤防上にあたる。

居住遺跡では、これまでに7回の発掘調査が実施されており、弥生時代前期から中世にかけての遺構や遺物が確認されている。

今回の調査は、倉庫建設に伴うもので、敷地の周囲に建てられる擁壁部分と事務棟・倉庫棟の基礎部分について実施した。

2．調査の概要

調査は、まず擁壁部分のトレンチ調査（1～5トレンチ）から始め、事務棟の基礎部分のグリッド調査9箇所、倉庫棟の基礎部分のグリッド調査22箇所の順に、便宜的に調査区を分割して行った。

擁壁部分のトレンチ調査は、東から擁壁の屈折点でトレンチ名を呼び替え、事務棟および倉庫棟の基礎部分のグリッド調査については、南西隅をA－1区として、東へアラビア数字で、北へはアルファベットで各区を呼称している。

基本層序は、耕土、床土、旧耕土、淡灰色粘性砂質土、茶灰色粘性砂質土、灰黄色シルト質粘土、暗茶褐色シルト質中砂、黒灰色粘土で、遺構面は3面確認できた。それぞれの遺構面の時期は、第1遺構面が平安時代後半から鎌倉時代、第2遺構面が弥生時代後期から古墳時代後期、第3遺構面が弥生時代前期である。

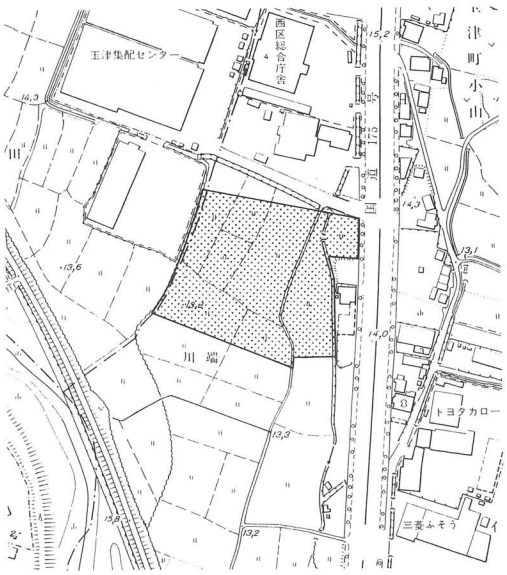


fig. 90　調査地位置図　1：5000

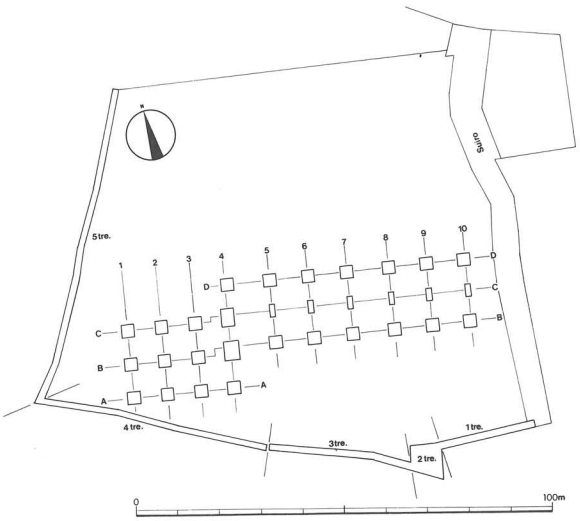


fig. 91　調査地区設定図

第１遺構面
（平安時代～鎌倉時代）

第１遺構面では、溝状遺構約40条、土坑５基、ピット102基、不整形な落ち込み９基が、各トレンチおよび各区で確認できた。

fig. 92　第１遺構面遺構配置図

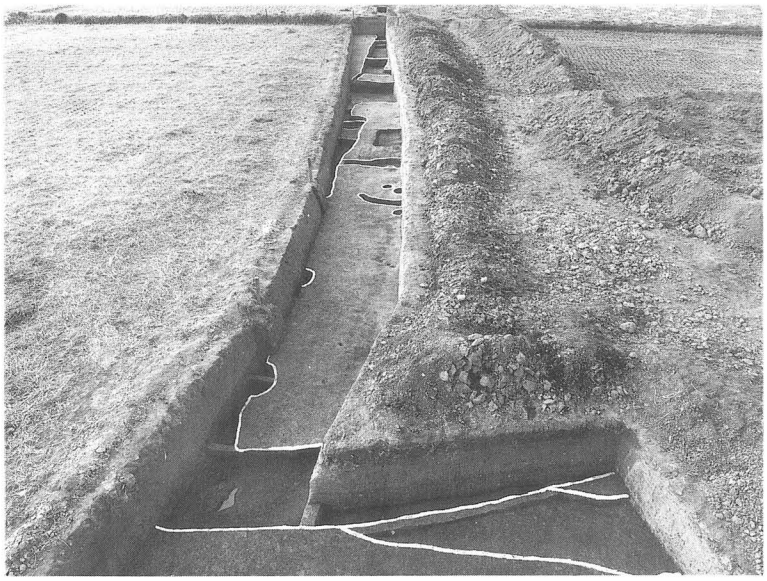


fig. 93　３トレンチ第１遺構面全景（東から）

SD 03　３トレンチの中央よりやや西よりで検出した幅3.5ｍ、深さ60㎝の溝状遺構である。埋土の主体は灰色系のシルト層で、中層から下層にかけて、少量の須恵器・土師器とともに多量の木製品・自然木・種子・貝などが出土している。

木製品には、鋤・下駄・箸・曲物などのほか、用途不明のものがある。鋤は全長約120㎝、最大幅約15㎝で、裏向きの状態で出土した。下駄は、全長約20㎝の連歯のもので、片足分しか出土していない。用途不明木製品の中には、木簡状のものが含まれるが、墨書等は観察できない。

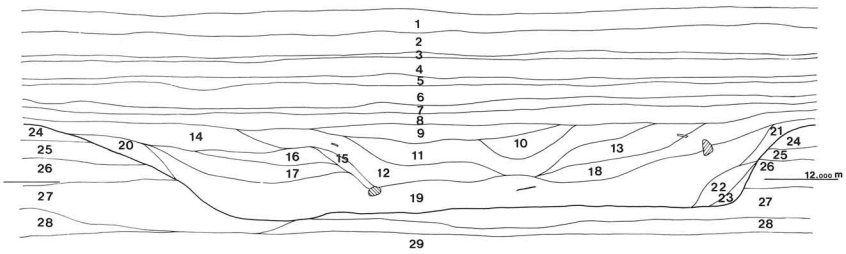
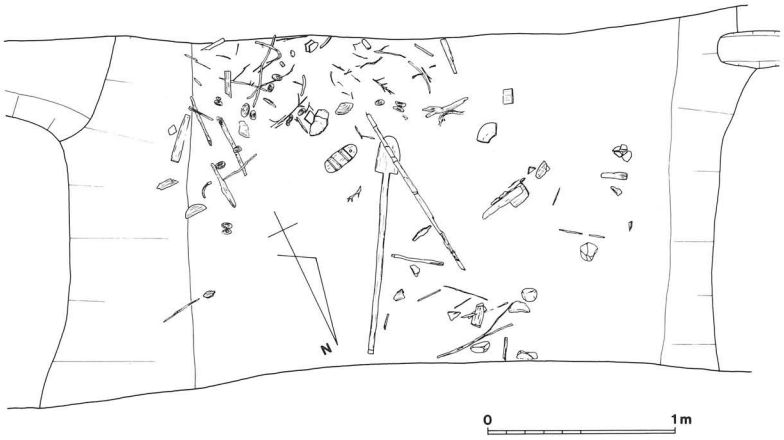


fig. 94　３トレンチ
SD 03 実測図



1．耕土
2．淡黄灰色粘性砂質土
3．淡黄色粘性砂質土
4．淡黄灰色粘性砂質土
5．淡黄色粘性砂質土
6．淡黄灰色粘性砂質土
7．黄灰色粘性砂質土
8．灰色粘性砂質土
9．灰色粘性砂質土
10．淡灰色粘性砂質土
11～13．灰色粘質土
14．淡灰色粘性砂質土
15．黒灰色粘質土
16～18．灰色粘質土
19．暗灰色粘土
20～21．灰色粘性砂質土
22．黒灰色粘質土
23．暗灰色粘質土
24．灰色粘性砂質土
25．暗灰色粘質土
26．暗茶灰色粘質土
27．淡茶灰色粘質土
28．淡灰茶色粘性砂質土
29．黒褐色粘土

fig. 95　３トレンチ SD 03 全景
（北西から）

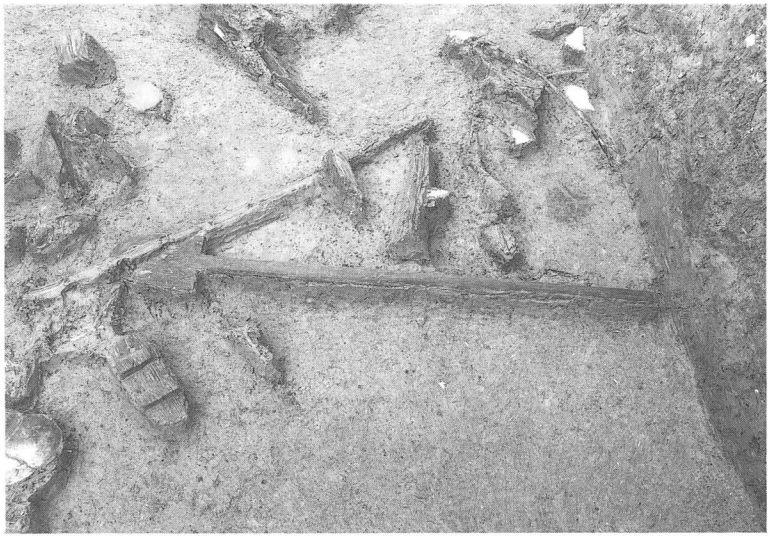


fig. 96　3トレンチ ＳＤ 01
遺物出土状況（東から）

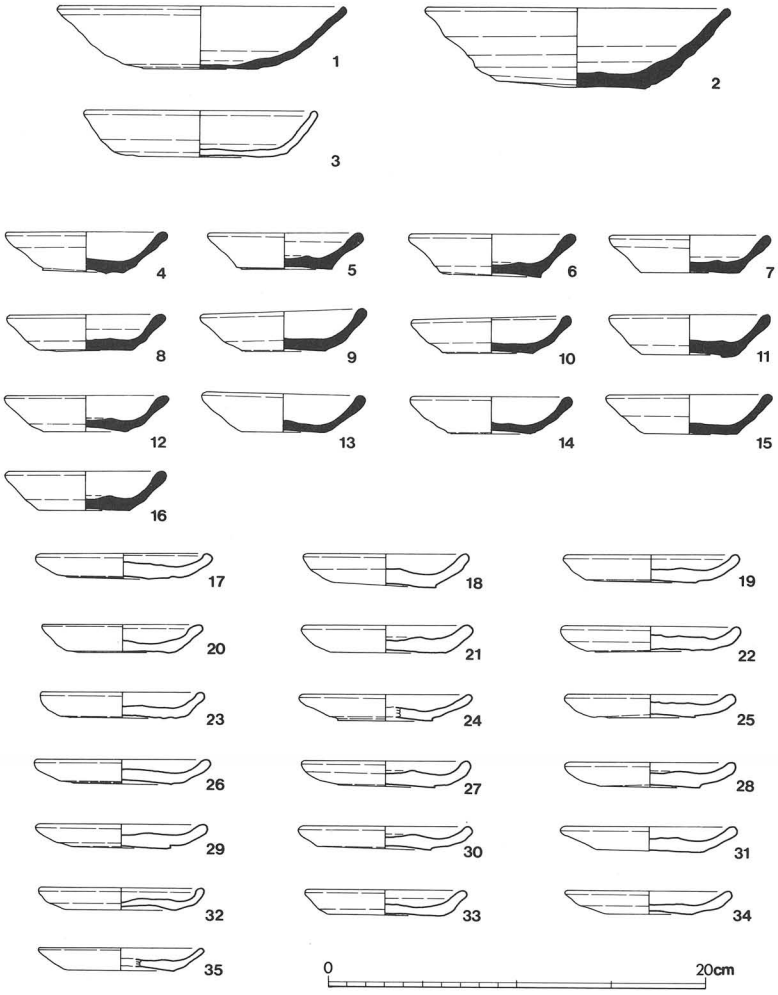


fig. 97　出土遺物実測図
1～3　SD 03
4～35　SD 16

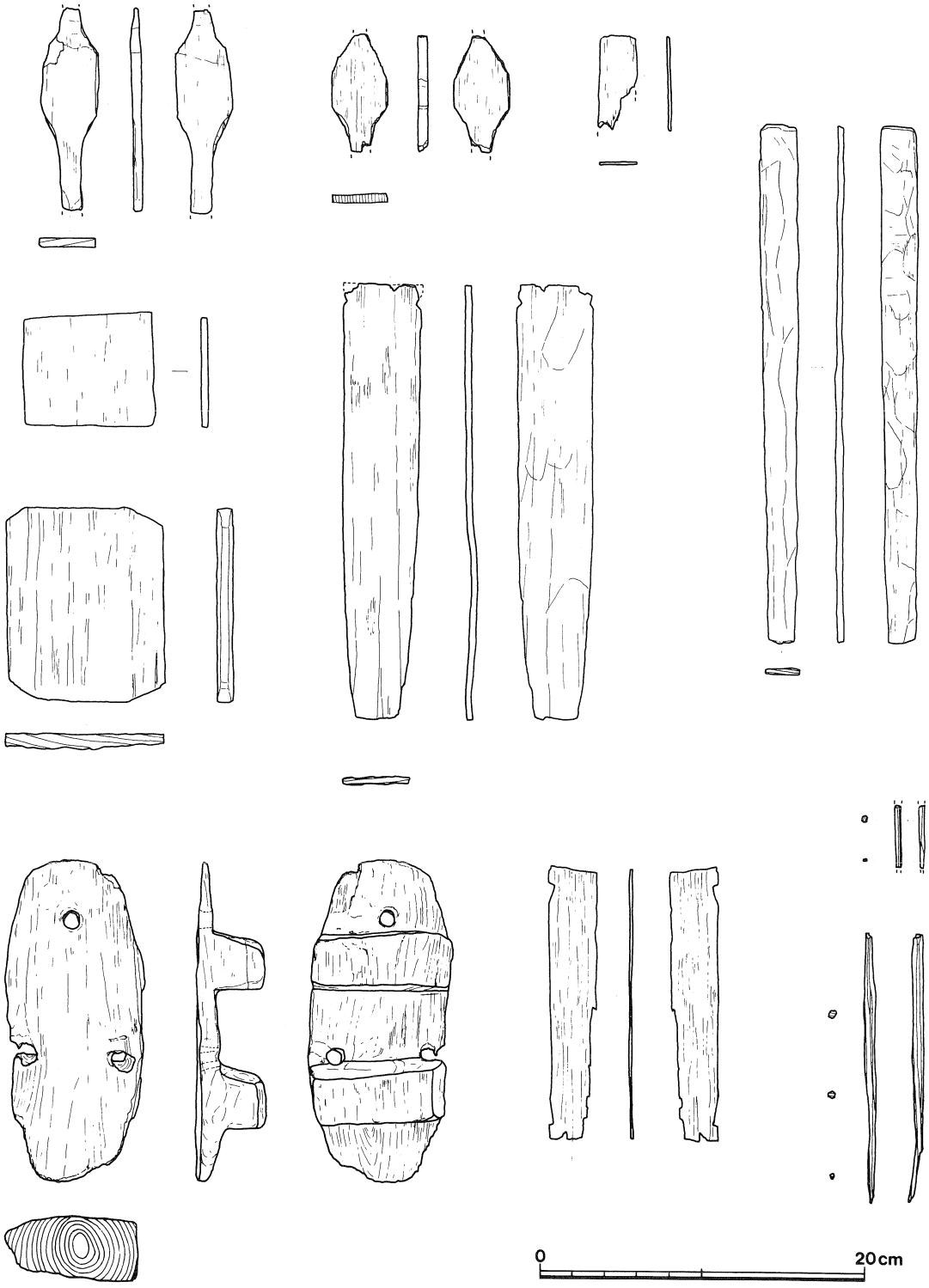


fig. 98　SD 03 出土木製品実測図

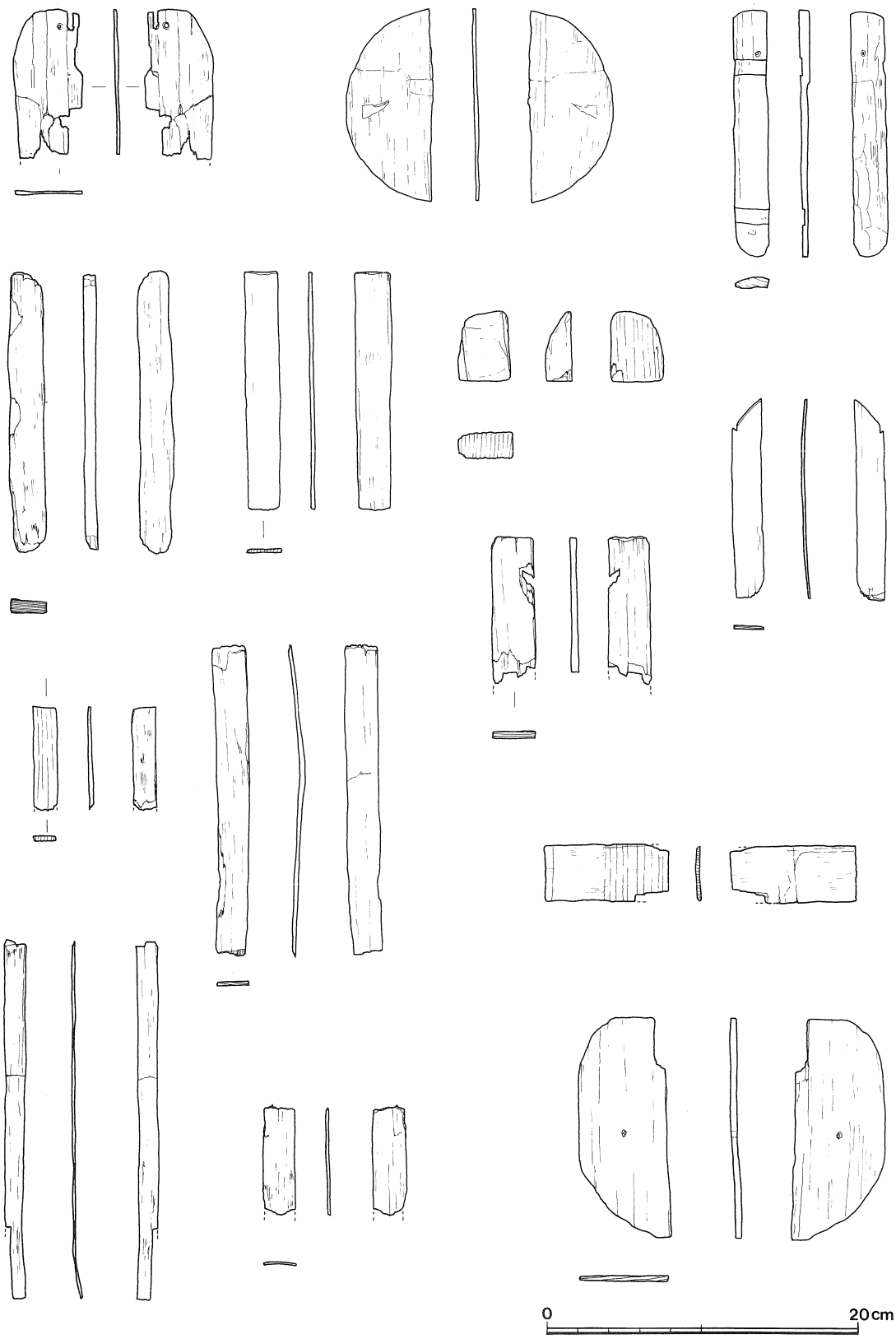


fig. 99　SD 03 出土木製品実測図

SD 11　4トレンチ2区で検出した幅50㎝、深さ15㎝の溝状遺構である。埋土は灰色系のシルト層が主体となっている。出土遺物には、土師器小皿・須恵器小皿などがみられる。

SD 16　4トレンチ3区で検出した幅3ｍ、深さ15㎝の溝状遺構である。埋土は灰色系のシルト層が主体である。トレンチ南端の西肩部分で須恵器小皿13枚、土師器小皿21枚が重なった状態で検出された。

SD 21　4トレンチ5区で検出した幅4.6ｍ、深さ60㎝の溝状遺構である。埋土は灰色系のシルト層が主体である。出土遺物は、概して少なく、須恵器・土師器の小片のほか、植物遺体が若干見られた。

SD 17　5トレンチ3区で検出した溝状遺構で、幅40㎝、深さ12㎝の南北方向のものに、幅25㎝、深さ10㎝の東西方向のものがとりつく。出土遺物には、須恵器小皿・埦・鉢、土師器皿などがある。

SD 59　幅2ｍ、深さ80㎝のほぼ南北方向の溝状遺構である。須恵器の椀が出土している。

SD 61　幅2ｍ、深さ80㎝のほぼ南北方向の溝状遺構である。須恵器の椀や土師器が出土している。

SD 62　幅2ｍ、深さ80㎝のほぼ南北方向の溝状遺構である。須恵器の椀や甕のほか、白磁瓶が出土している。

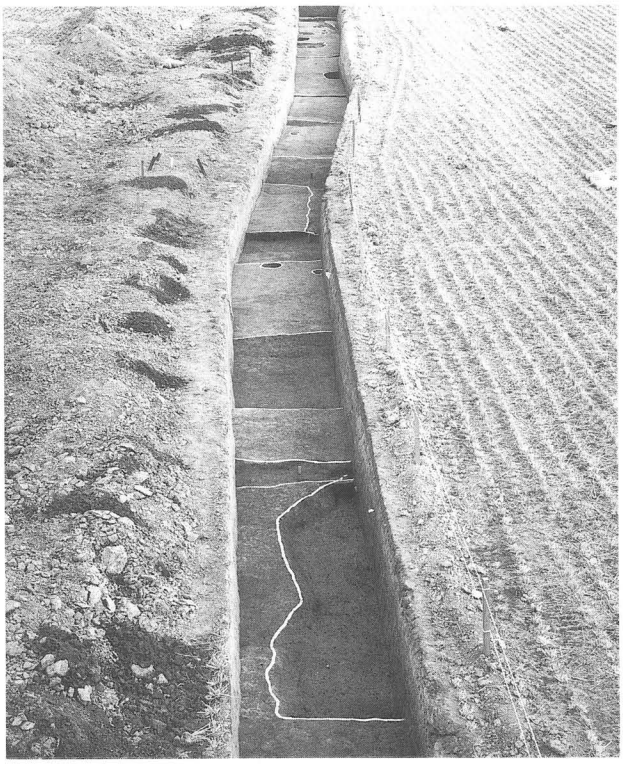


fig. 100　4トレンチ全景（西から）

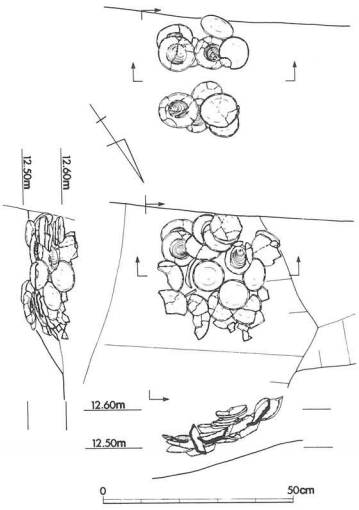


fig. 101　4 トレンチ SD 16
遺物出土状況実測図

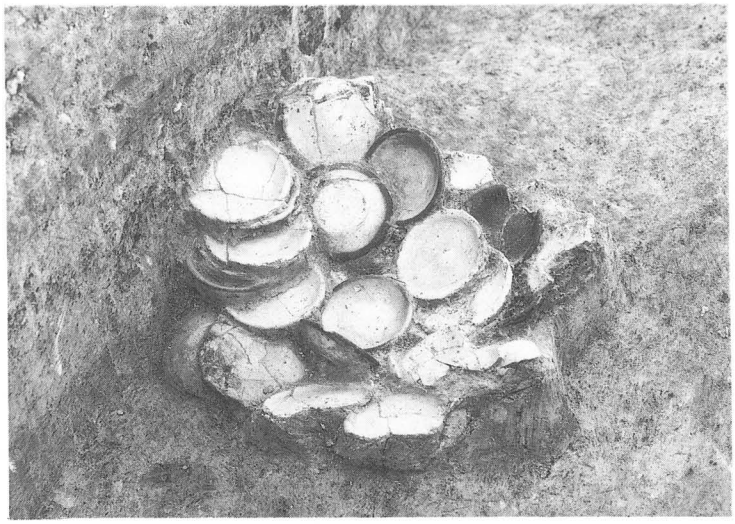
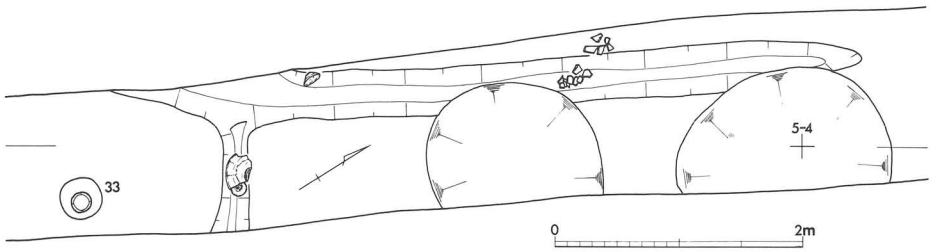


fig. 102　4 トレンチ SD 16 西肩　須恵器・土師器検出状況（東から）

fig. 103
5 トレンチ
SD 17
平面図



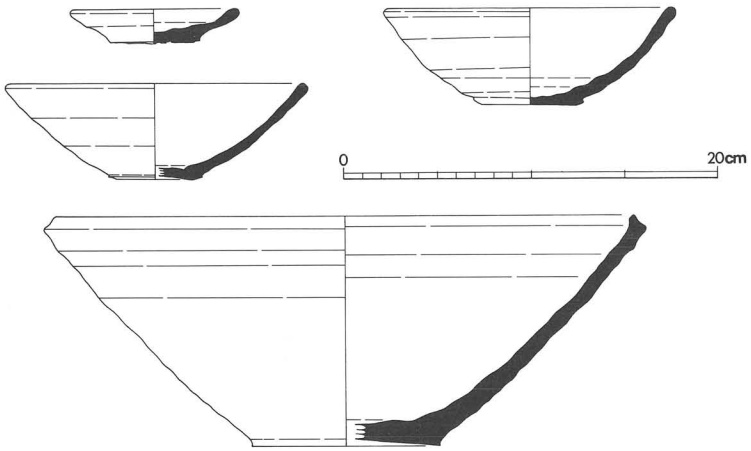
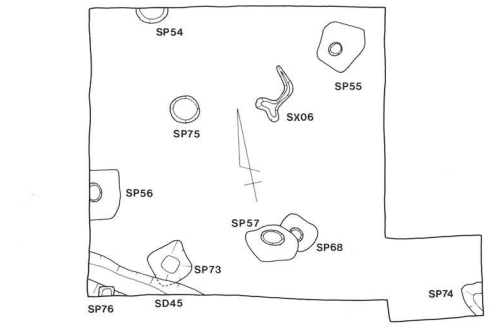


fig. 104　SD 17 出土遺物
実測図

SB 01　（－3区で検出した掘立柱建物である。北側は調査範囲外のため、規模については明らかでなく、SP 54・55・56・57 の柱穴から 1 × 1 間を確認できたにとどまる。柱間は 2 m前後である。また、ピットの断ち割り調査の結果、SP 54・56 では、柱の掘形内中層に礎盤が確認できた。北側を除く 3 方向については、柱間にあわせて調査区の拡張を行ったが、柱穴は確認できなかった。



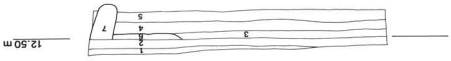


fig. 105　Ｃ－３区ＳＢ01実測図

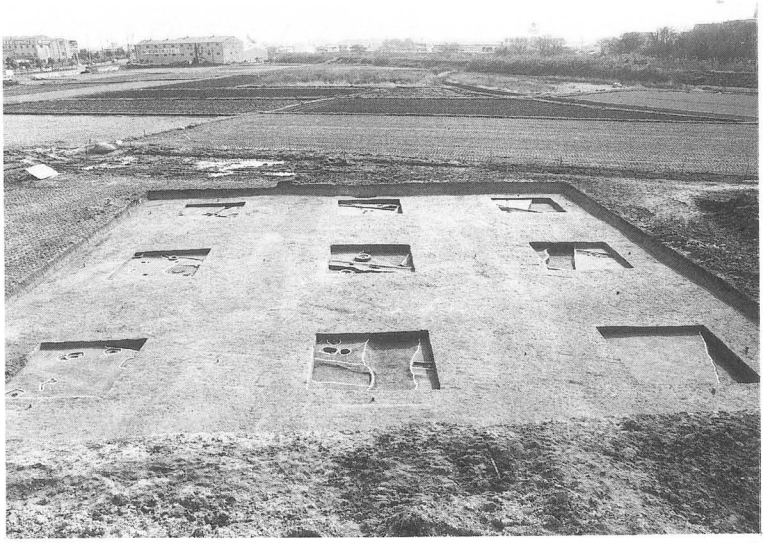


fig. 106
Ａ・Ｂ・Ｃ－１・２・３区
第１遺構面全景（北から）

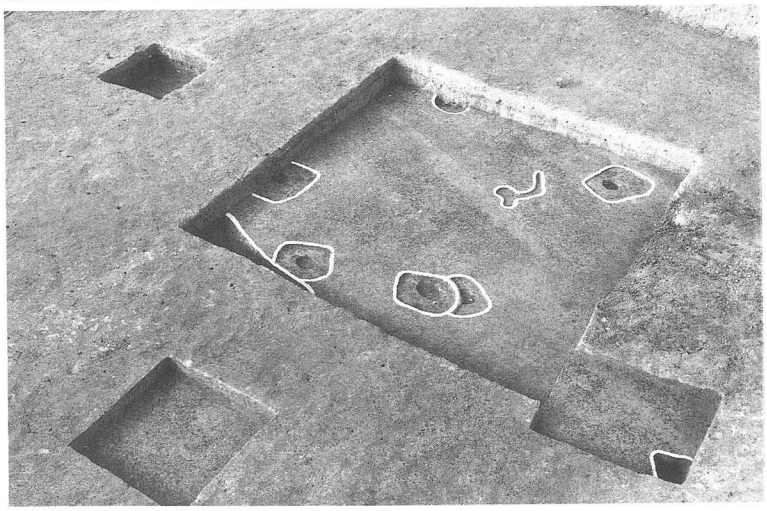


fig. 107　Ｃ－３区・拡張区
（南東から）

SP 48　C－2区で検出した長径40㎝以上、短径32㎝、深さ10㎝のピットである。埋土は灰色シルト質細砂で、底からやや浮いた状態で、土師器小皿を5枚検出した。

SX 08　C－4区で検出した長さ4.4ｍ、幅1.6ｍ、深さ70㎝の隅円方形の土坑である。多量の須恵器埦と土師器皿が出土している。埋土の状態から上層と下層に分けられる。上層は旧床土直下で検出したわずかな落ち込みで、その落ち込みの中に炭が全面に広がっている。上層の出土遺物の一括資料はこの炭層に覆われるように出土した。下層の出土遺物は、底面に接して出土し、土器の他、獣骨片や植物遺体などがある。

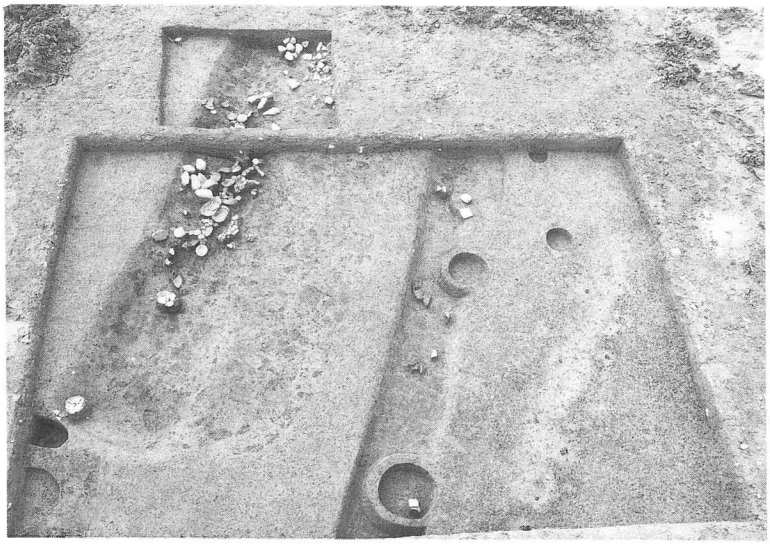


fig. 108　C－4区全景（SX 08上層）（東から）

fig. 109　C－4区（SX 08下層）遺物検出状況（南から）

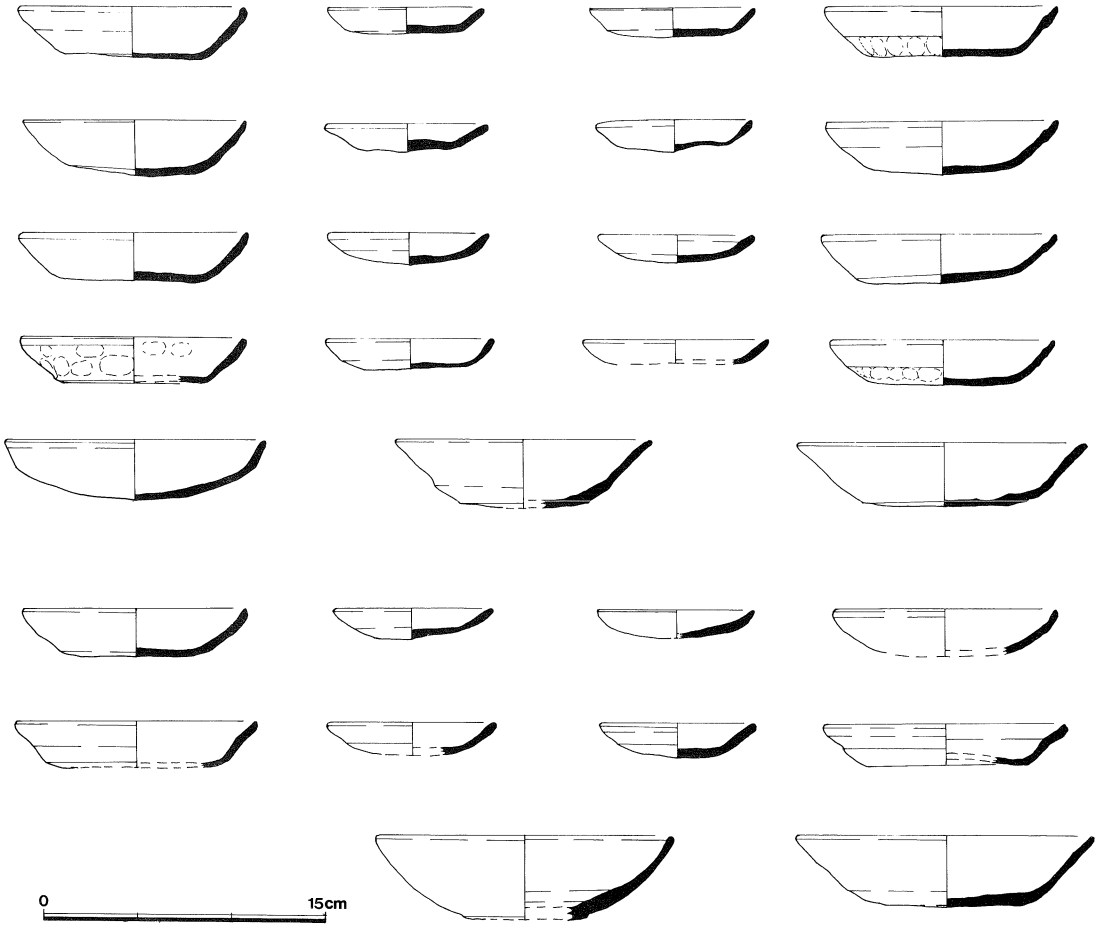


fig. 110　SX 08 出土遺物実測図

埋土の堆積状態は、下層がヘドロ状で、木の葉など植物遺体の混入が認められることから自然堆積と考えられ、中間層では2～3層の暗黒褐色シルトのブロックを多量に含むことから人為的な埋没と考えられる。

第2遺構面
（弥生時代後期～古墳時代後期）

第2遺構面では、溝状遺構2条が確認された程度で、遺構の頻度は極めて低い。

SD 26　4トレンチ3区で検出した南北方向の溝状遺構である。幅1.1 m、深さ30 cmで、断面形はV字形である。出土遺物はなく、時期については明確にできない。

SD 28　4トレンチ5区で検出した東西方向の溝状遺構である。最大幅1.8 m、深さ20 cmで、断面形は鈍いU字形である。埋土は灰色系のシルト質細砂が主体となっている。出土遺物には、弥生時代後期の土器片と古墳時代後期の坏身片がある。

SD 31　5トレンチ2区で検出した溝状遺構で、東西方向に走る。最大幅70㎝、深さ15㎝である。埋土は灰色系の細砂が主体となっている。出土遺物はなく、時期については明確にできない。

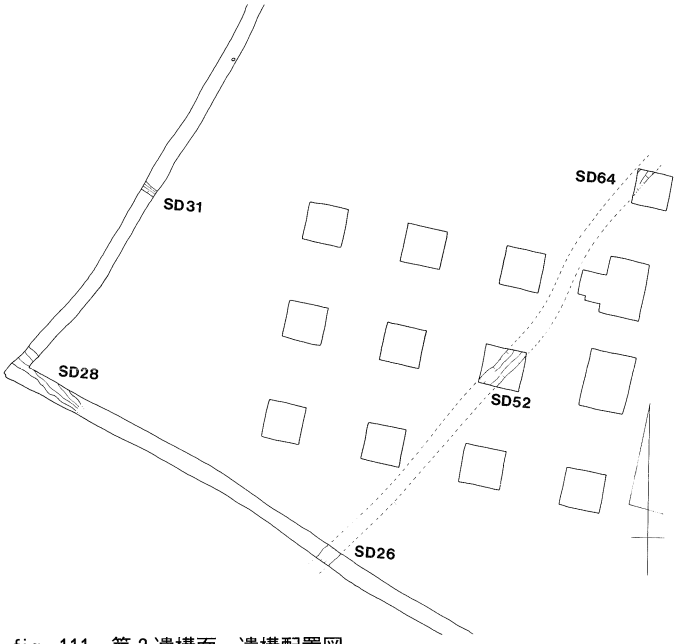


fig. 111　第2遺構面　遺構配置図

第3遺構面（弥生時代前期）　第3遺構面は、黒褐色粘土が基盤層となっており、厚さ約50㎝の灰色系の極細砂～細砂で構成される洪水砂によって埋没している。遺構は、調査区の西半部に集中しており、溝状遺構を5条確認している。このうち、3条の溝状遺構は、北西から東北方向へ緩やかに弧を描いて、ほぼ平行に走っている。この3条については、埋土が灰色系の極細砂～粗砂で構成され、同時期に営まれていたと考えられる。便宜的に下記のとおり、外列・中列・内列と呼称しておく。遺物は、SD 29の南肩とSD 24から壺形土器が出土し、SD 53の溝底から木葉文を施した壺形土器片が出土した。

外列――5トレンチ1区　SD 30・B－1区　SD 53
　　3トレンチ7区　SD 20・A－2区　SD 53
中列――5トレンチ1区　SD 29・A－1区　SD 50
　　4トレンチ1区　SD 24
内列――5トレンチ0区　SD 32・33
　　A－1区　SD 51・4トレンチ1区　SD 25

また、他の溝状遺構の埋土は、先の3条と異なり、灰褐色の極細砂混じりシルトである。出土遺物はなく、時期については明確にできない。

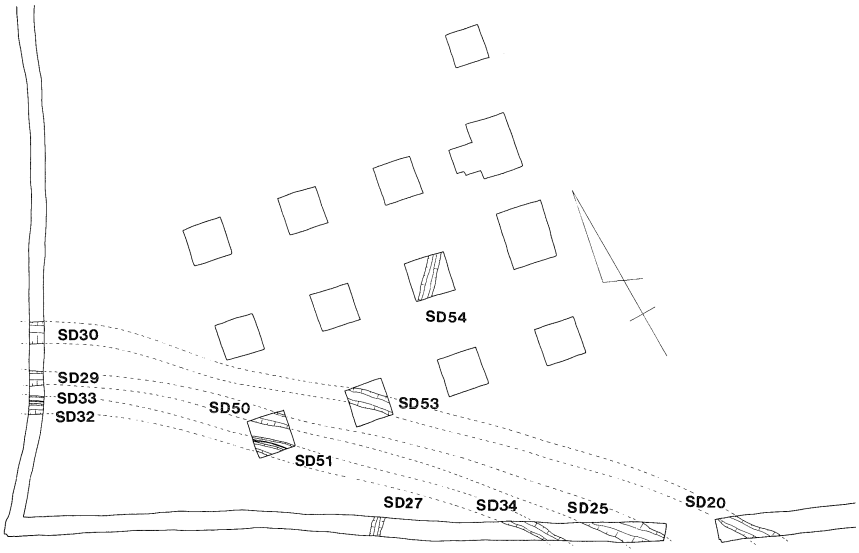


fig. 112　第3遺構面
遺構配置図

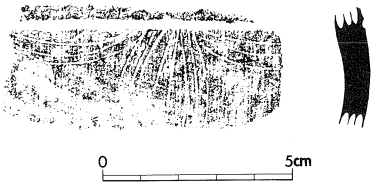


fig. 113　弥生時代前期の遺物拓影

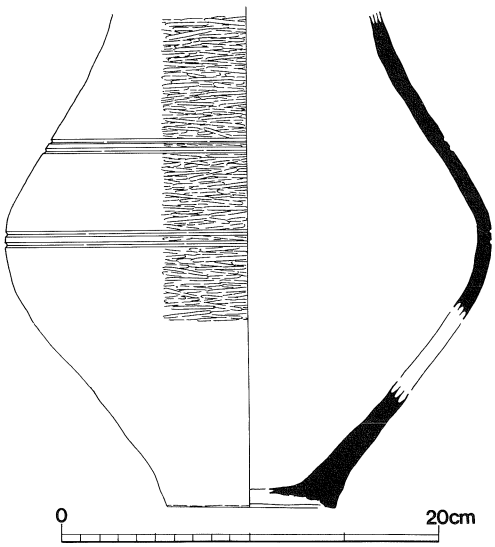


fig. 114　弥生時代前期の遺物実測図

3．まとめ

今回の調査では、3時期の遺構面を確認した。

まず、弥生時代前期の第3遺構面では、西南に隣接する自然堤防を取り囲むように巡る3条の溝状遺構が確認できた。これらの溝状遺構の内側にあたる自然堤防上には、弥生時代前期の集落が立地しているものと考えられる。また、出土遺物の中で、木葉文が施された壺形土器があるが、北側に位置する玉津田中遺跡でも出土例が知られるが、神戸市内では10例に満たないものである。

弥生時代後期から古墳時代後期の第2遺構面では、溝状遺構を確認したが、出土遺物も少なく、多くを語ることはできない。

平安時代後半から鎌倉時代にかけての第1遺構面では、条里方向に乗った数多くの溝状遺構と掘立柱建物と考えられるピットを数多く確認した。遺物では、SD 16、SX 08などで良好な一括資料が得られたほかに、SD 03から木製品が出土するなど、重要な資料が得られた。

8．出合（であい）遺跡　第26次調査

1．はじめに

出合遺跡は日本住宅公団（当時）が、宅地造成を玉津町出合に計画し、それに伴って昭和52年～同59年にかけて行われた発掘調査により、その内容が具体的に知られるようになった遺跡である。

その後、この宅地造成地と県道明石－野村線を結ぶ県道明石－国包線の建設が計画され、昭和61年2月に行った道路予定地の試掘調査では、北半部で鎌倉時代と弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面が検出された。南半部はその土層より水田地帯と推定されたが、畦畔等は確認されなかった。

昭和61年11月より道路建設予定地の北側から調査を開始し、平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物、土坑、溝、鎌倉時代以降の土坑、溝、ピット、弥生時代後期の周溝、掘立柱建物、弥生時代後期～古墳時代初頭の溝、ピットと土器群、さらに下層から弥生時代中期後半の河道が検出された。

昭和62年10月からの調査は、前調査区と県道野村～明石線間に残っていた部分の調査で、弥生時代後期の溝、平安時代～鎌倉時代の溝、ピットが検出された。

fig. 115
調査地位置図
1：5000

fig. 116　土坑検出状況（南から）

fig. 117　水田遺構検出状況（北から）

2．調査の概要

今回の調査は県道野村～明石線との接点から南へ約200ｍ地点が北端となる、南北約60ｍ、幅14ｍの範囲である。

層序

調査地の基本層序は15層よりなっており、現在まで、第8層上面、第9層上面、第13層及び第14層上面で遺構が確認されている。第8、9層は、中世以降の土坑、第13層は水田、第14層は弥生時代の遺構である。

土坑

このうち第9層上面で確認された土坑は、第8層上面で検出した土坑と形態が酷似しており、ほぼ同時期のものと考えられる。この2層で検出された土坑は、直径1ｍから1.8ｍの平面円形のもので、坑壁上端付近には、細長く割いた竹様ものが坑壁にはり付いて1周ないし半周して残存していた。

水田

水田遺構は、弥生時代のサヌカイト製石鏃や、5世紀～13世紀の須恵器・土師器等を含む第9層の下約35㎝で検出されたもので、第9層と水田面との間に堆積した土層からは、遺物はまったく検出されていない。

水田は、北端も東西端および土層観察の結果から、調査地北端から約10ｍ～14ｍの範囲にはなく、それより南方にひろがっているものと思われる。

畔で囲まれた1区画の水田が完全に検出できたものはないが、調査地中央部で出土した畔から推定復元すると、東西約10ｍ、南北約16ｍの規模になる。水田遺構部分の北端と南端のレベル差は、20数㎝である。畦畔は、幅60㎝前後のものと、幅40㎝のものとに分けられるが、矢板等を打ち込んだものは全くない。

調査地南コーナー部分は、東西方向の水路となっていた。中央に中島状のものが残っていた。水路北側の畔状のたかまりおよび中島部分が、水田内にある畦畔とほぼ同質の黒灰色～暗灰色粘質土であったことは、人の手が加えられていることを示すものと考えられる。また、検出範囲では水を操作するような施設はなかった。

この水田面の直下にある第14層には弥生時代中期の遺構があると思われるが、現在調査中である。

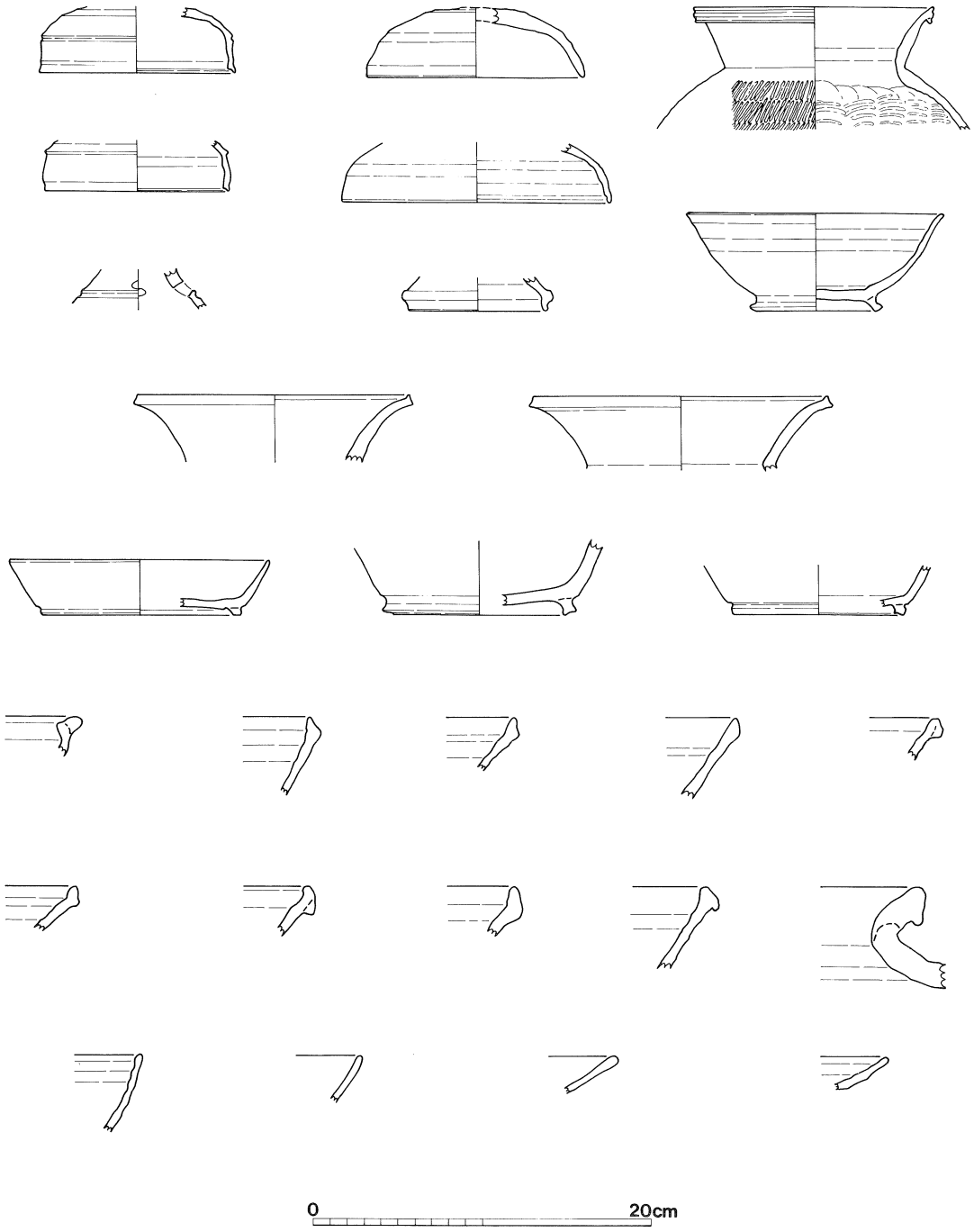


fig. 118　出土遺物実測図

9．吉田南遺跡　第17次調査

1．はじめに

当遺跡は、神戸市西区森友1丁目から明石市北王子町にかけて所在しており、明石川下流右岸にひろがる標高約7mの沖積地に立地している。

昭和51年、玉津環境センター建設に先立つ試掘調査で遺跡の存在が明らかになり、その後の本格的な発掘調査が実施された。調査の結果、掘立柱建物約80棟、竪穴住居約100棟のほか、木橋・柵・井戸など多くの遺構・遺物が検出された。

また、弥生時代から鎌倉時代にかけての弥生土器・須恵器・土師器・木製品が多量に出土したほか、金属製品・石製品等も出土した。

今回の調査は、玉津環境センターの脱水機棟増設工事に伴うもので、工事により、破損を受ける約200㎡を対象として調査を実施した。

2．調査の概要

北側の154㎡を北地区、西側の48㎡を西地区、南東側の4か所を南地区と呼称する。

まず、重機により、盛土・旧表土を除去した後、人力により掘り下げた。

調査の結果、弥生時代～古墳時代にかけての竪穴住居が22棟、古墳時代の掘立柱建物が1棟、弥生時代～古墳時代の土坑22基・溝9条・ピット多数が検出された。弥生時代後期～古墳時代後期の土器・石器・鉄器等がコンテナ約30箱分出土している。

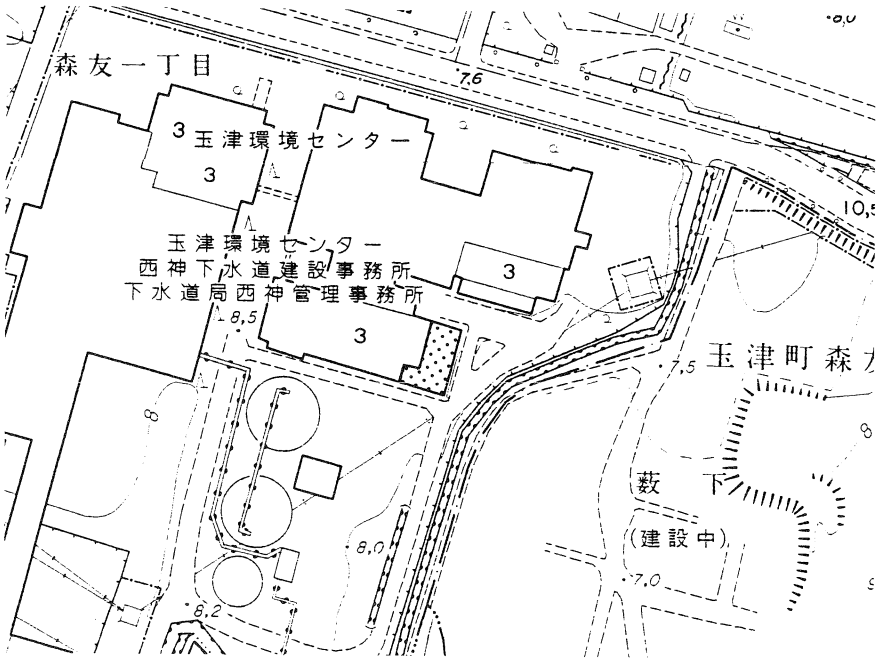


fig. 119　調査地位置図　1：2500

北地区　現地表下約 50 cmにおいて、第 1 遺構面が検出され、この層の下約 60 cmで第 2 遺構面が検出され、約 80 cmで第 3 遺構面が、約 90 cmで第 4 遺構面が確認された。

第 1 遺構面　古墳時代後期の竪穴住居 6 棟、土坑 4 基、ピット多数を検出した。遺構の重複関係より、2 時期に大別され、新しいものは 6 世紀後半～末頃、古いものが 6 世紀前半～中頃のものと考えられる。新しい時期の遺構としては、ピットを 55 基検出している。古い時期の遺構としては、SB 01 ～ 04・SB 08・09 および SX 01・02、SK 02・03 が挙げられる。

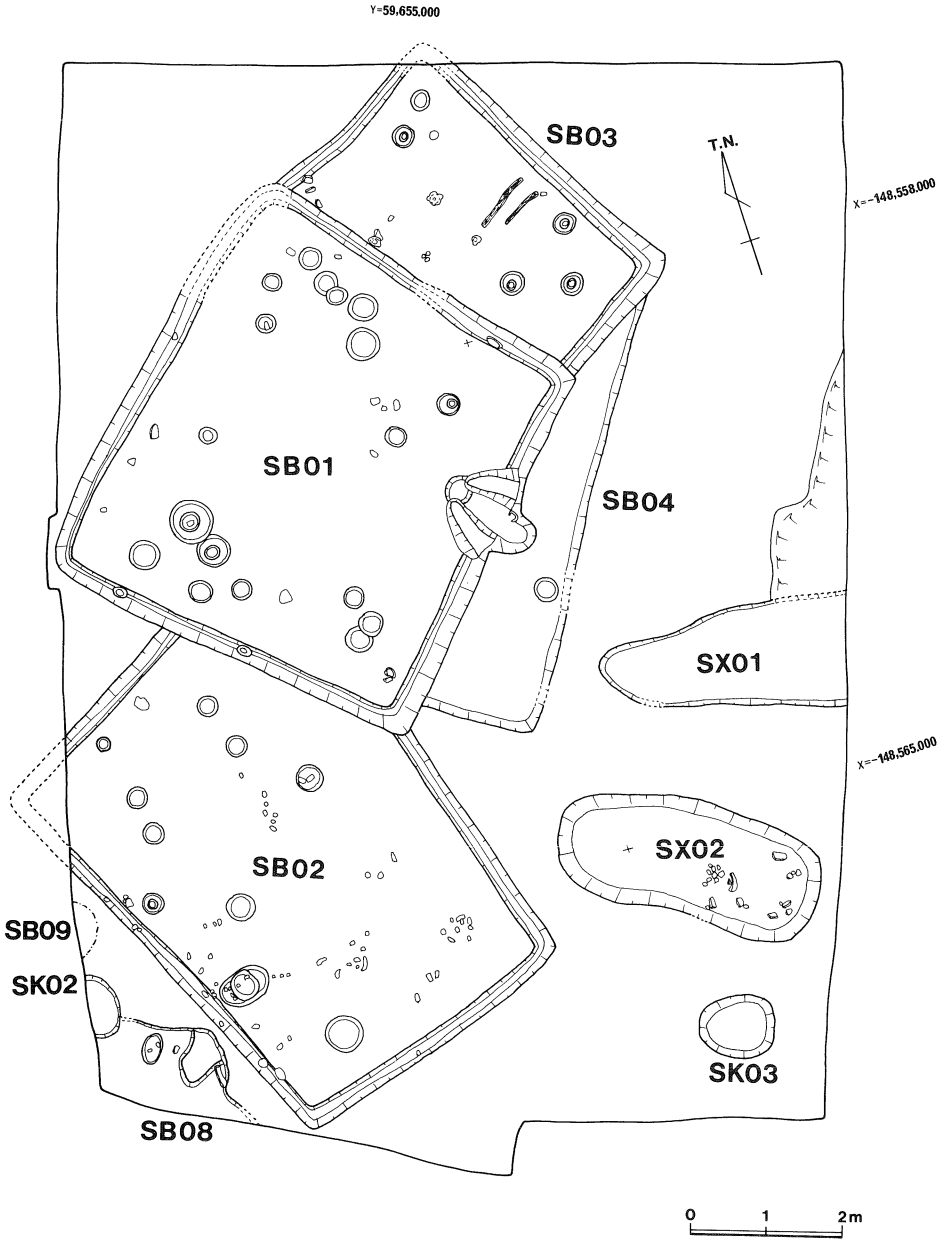


fig. 120
北地区
第 1 遺構面
平面図

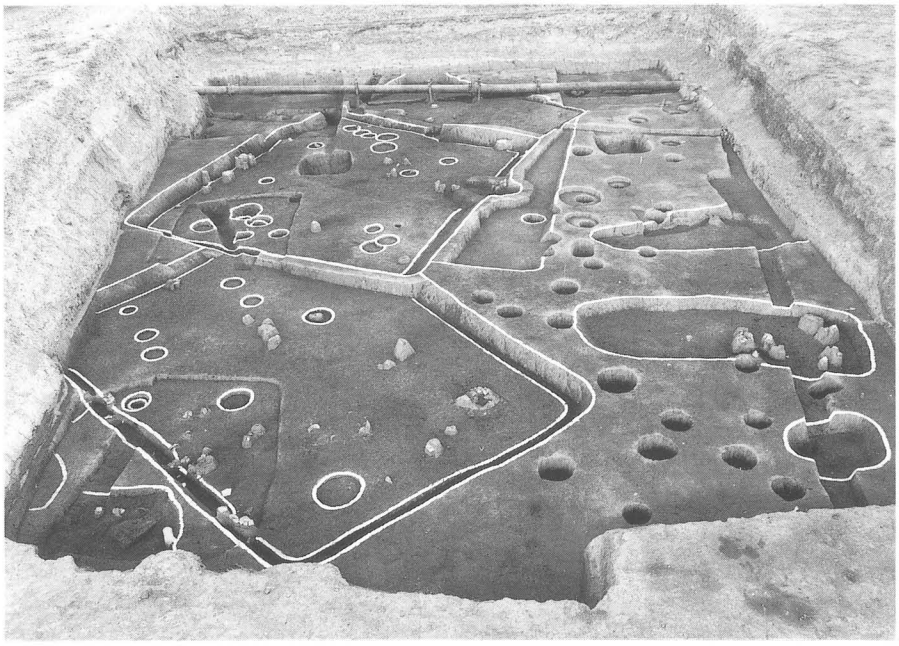


fig. 121
北地区第1遺構面
全景（南から）

SB 01　5.4×5.3 m、深さ20 cmの方形の竪穴住居で、幅20～30 cm、深さ10 cmの周壁溝が巡らされており、南西壁のほぼ中央にカマドを付設している。床面はほぼ平坦で、主柱穴は4本と考えられる。

遺物は、南隅の床面直上で、須恵器坏身が出土し、北隅の床面直上で、土師器の小型丸底壺が、住居の中央よりやや東側よりの床面直上で、土師器高坏が出土している。

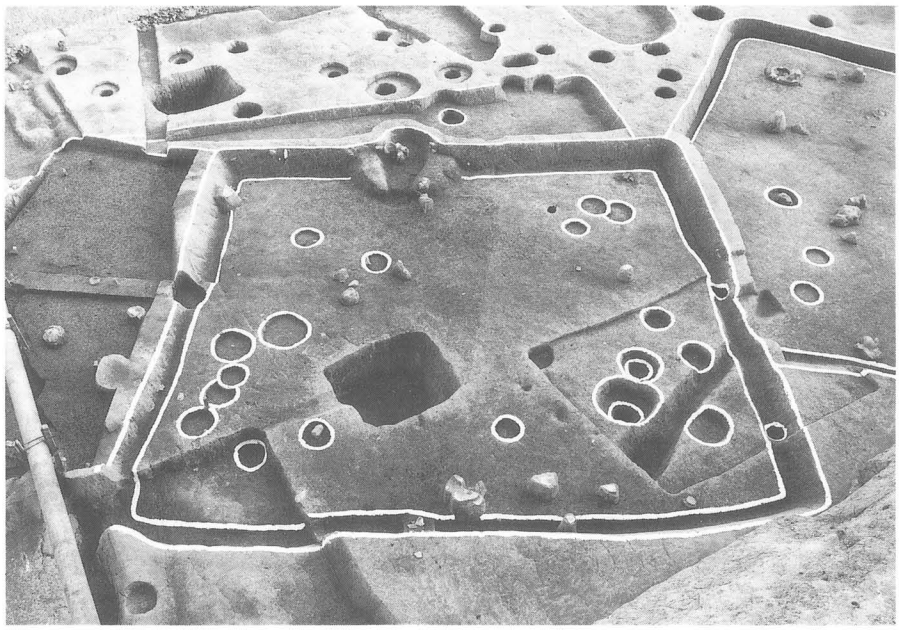


fig. 122
SB 01全景（西から）

SB 02　北東側をSB 01に切られており、南北6.6 m、東西4.5 m、深さ20 cmの長方形の竪穴住居で、幅20 cm、深さ10 cmの周壁溝が巡らされている。西壁のやや南よりで長径70 cm×短径45 cm、深さ10 cmの地床炉を検出した。床面はほぼ平坦で、柱穴は数箇所で確認されたが、主柱穴については不明である。遺物は、西側の床面直上で、須恵器甕・坏、土師器高坏・甕等が出土している。

SB 03　西側をSB 01に切られており、南北4.7 m、東西5.4 m、深さ30 cmの方形の竪穴住居で、幅20～30 cm、深さ10 cmの周壁溝が巡らされている。床面はほぼ平坦で、主柱穴は4本と考えられる。

遺物は、北側の床面直上で、土師器高坏・小型丸底壺等が出土している。また、西隅及び東壁において、少量の炭化材を検出している。

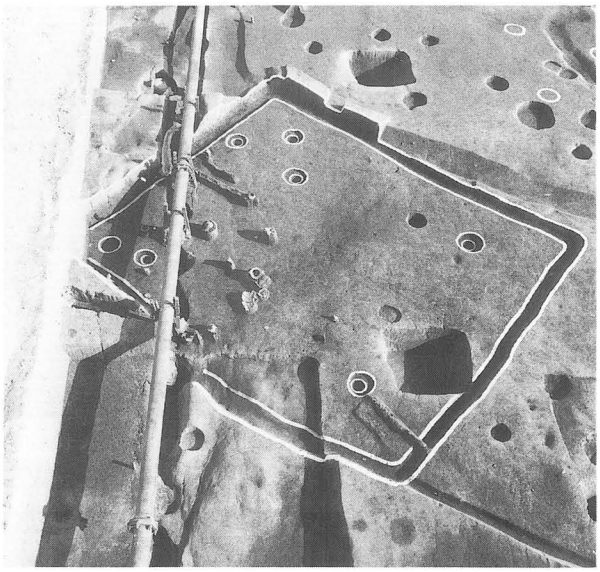


fig. 123　SB 03全景（西から）

SB 04　北側をSB 01・03に切られており、全体の規模は不明であるが、現存している部分の大きさは、6.0×1.5 m、深さ20 cmである。恐らく、方形あるいは長方形の竪穴住居と考えられる。現存している東壁および南壁で周壁溝は検出されなかった。床面はほぼ平坦で、柱穴は1か所で確認されたが、主柱穴については不明である。

SB 08・09　竪穴住居のカマドの部分のみ検出した。SB 08では凝灰岩製の砥石を、SB 09では須恵器高坏などが焼土・炭など共に出土した。

SX 01　SB 01・04の東側で検出された楕円形の土坑状遺構で、東西3.3 m以上、南北1.4 m、深さ20 cmである。埋土内より、須恵器・土師器の他、少量の焼土・炭が検出されている。

SX 02　SX 01の南側で検出された楕円形の土坑状遺構で、東西3.5 m、南北1.5 m、深さ20 cmである。埋土内より、須恵器・土師器の他、少量の焼土・炭が検出されている。

SK 03　SX 02の南側で検出された楕円形の土坑で、東西1.0 m、南北80 cm、深さ20 cmである。埋土内より、須恵器・土師器が出土している。

第2遺構面　古墳時代前期～中期の竪穴住居7棟、土坑7基、溝1条、ピット数基を検出した。遺構の重複関係より、2時期に大別され、新しいものは5世紀後半～末頃に、古いものは4世紀後半～5世紀中頃のものと考えられる。

新しい時期の遺構は、土坑5基（SK 01・12・13・14・15）、ピット18基である。古い時期の遺構は、SB 14・15・16・17・18・20・21 および SK 16・17、SD 02 である。

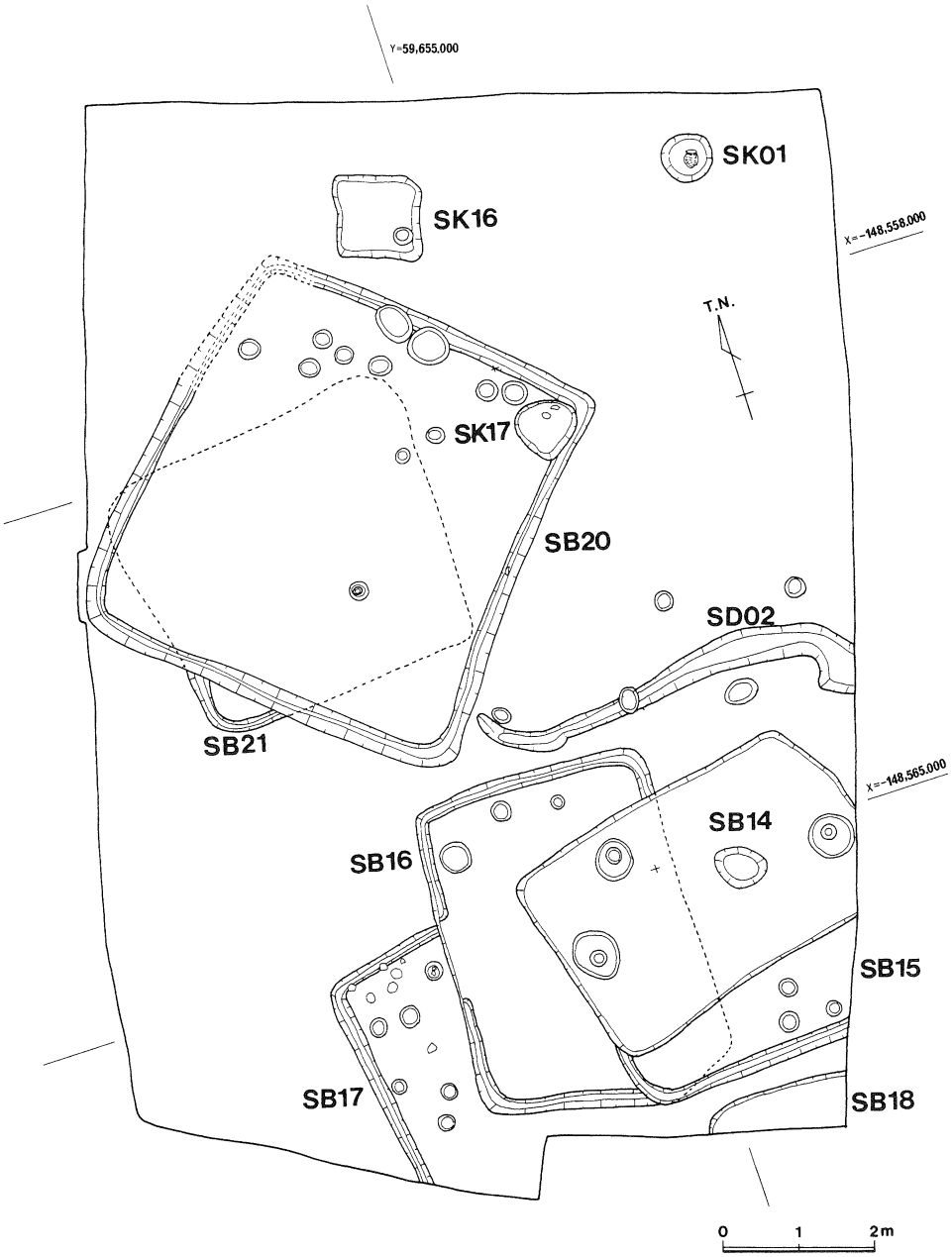


fig. 124　北地区第2遺構面平面図